

緑地の増減要因の分析と対策に向けた調査研究

令和 7 年 3 月

神奈川県 横浜市
一般財団法人 地方自治研究機構

はじめに

昨今のわが国的地方行政を取り巻く環境は、少子化に伴う本格的な人口減少・高齢化の進行、社会全体のデジタル化の急速な進展、各種災害の激甚化、働き方やライフスタイルの多様化、インバウンドの急増、脱炭素化やSDGs等の地球規模の潮流など、これまでとは大きく異なる変化が見られます。

こうした中で、地方公共団体は、自治体DXの推進、人材の確保・育成、経営マネジメントの強化等を図りつつ、住民ニーズを的確に捉え、地域の特性を活かしながら、住民福祉の向上、地域産業の振興、まちづくりの推進、防災対策の強化、自然環境の保全、共生社会の実現等に関する諸課題に、自らの判断と責任において取り組んでいくことが求められています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の団体が抱える課題を取り上げ、当該団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の研究を実施しています。

本年度は6つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

横浜市は「横浜市水と緑の基本計画」をもとに、水・緑が豊かな都市づくりを進めています。現計画の目標年次は令和7年であり、新たな計画策定を進める必要があります。そのために、市内の緑被地の現状及びその増減要因を把握するとともに、環境問題への対応等を考慮するだけでなく、昨今重視されてきているWell-beingも取り込み、今後の緑の施策について検討しました。

本調査研究においては、上記の検討において、既存の事業・取組だけではなくこれまでの視点からではなかったものも加え、今後必要となる事業・取組を体系的に整理することを目指すものとしております。

本研究の企画及び実施に当たりましては、研究委員会の委員長及び委員を始め、関係者の皆様から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の助成金を受けて、横浜市と当機構とが共同で行ったものであり、ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば大変幸いです。

令和7年3月

一般財団法人 地方自治研究機構

理事長 三輪和夫

目次

序章 調査研究の概要	1
1 調査研究の背景と目的.....	3
2 調査研究の流れと全体像.....	4
3 調査研究体制.....	6
第1章 今後のみどり関連施策の体系的な整理	7
1 横浜市の現状・動向.....	10
2 社会潮流の把握、整理.....	14
3 ロジックツリーの作成の考え方・進め方.....	25
4 ロジックツリーの作成.....	36
第2章 市内の緑被地の現状把握と増減要因の調査	67
1 緑被地の調査及び集計・整理.....	69
2 第11次緑地環境診断調査結果との比較における緑被地増減箇所に関する詳細調査	173
第3章 EIEの活用可能性	267
1 EIEによる調査概要の整理	269
2 調査結果との比較.....	275
調査研究委員会名簿	285

序章 調査研究の概要

序章 調査研究の概要

1 調査研究の背景と目的

横浜市は、「横浜市水と緑の基本計画」をもとに、水・緑が豊かな都市づくりを進めてきた。平成28年6月に公表された現計画の目標年次は令和7年までとしており、それ以降の新たな計画の策定を進める上では、国土交通省の「緑の基本方針」で打ち出しているように、環境問題への対応等を考慮するだけでなく、昨今注目されている Well-being の考え方を取り込み、緑の施策、事の業・取組を検討する必要があった。

また、横浜市では、概ね5年ごとに市内の300m²以上の緑被地（樹林地、農地、草地）を調査している。「横浜市水と緑の基本計画」において、平成16年時点の緑被率31%の維持向上を目指としているため、新たな計画の策定を進める上でも、緑被率の目標指標についての検討が必要となる。そのため、緑被地に関する調査の結果をもとに、市内における緑地の現状とその増減要因を把握することが求められた。

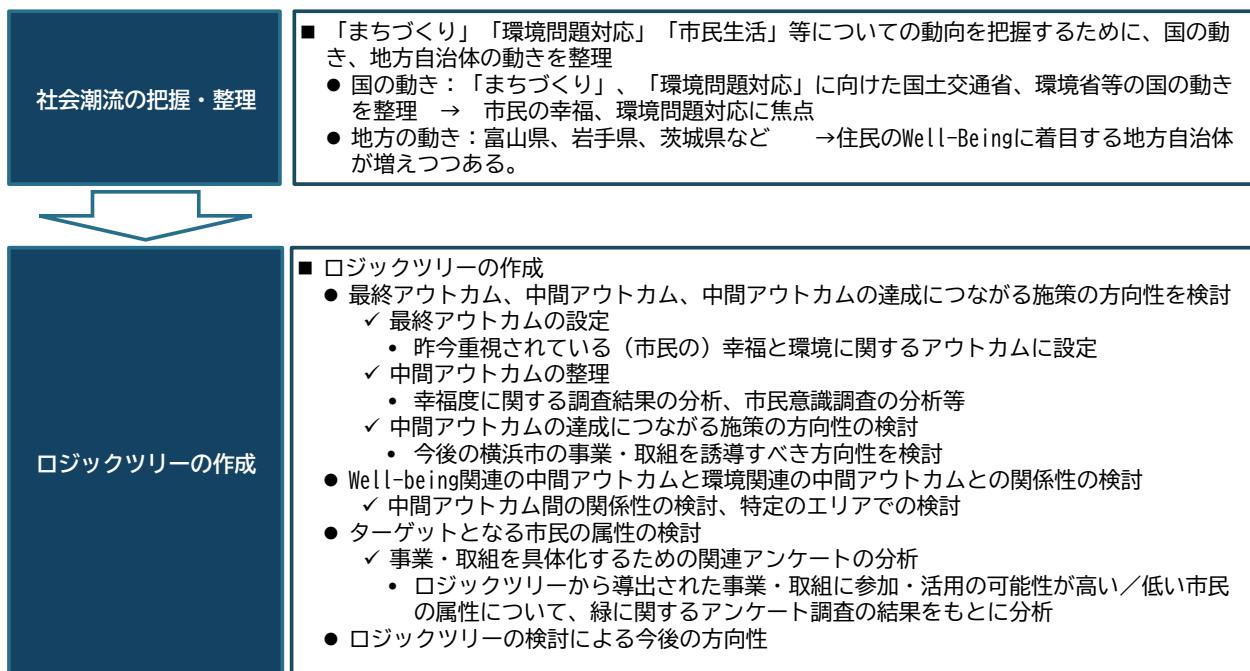
さらに、緑地の現状と増減要因について、緑地の経年変化や変化要因を正確に把握する必要がある一方で、調査費に充てられる財源が限られる厳しい財政状況では、より正確かつ簡便な緑被率の調査手法の確立が課題となっている。その解決に向けては、環境解析ツールである Google の EIE (Environmental Insights Explorer) の活用可能性についての検討が有効であろう。

本調査研究では、上記の背景を踏まえ、例えば人（市民）と環境の望ましい状態・状況を最終アウトカムに設定し、それに寄与する施策を検討するためのロジックツリーを作成し、緑の事業・取組を整理することとした。それに加え、基礎調査業務として、①市内の緑被地の現状把握と増減要因の調査、②の調査結果とEIEの比較による調査手法の評価・検証を行うこととした。

2 調査研究の流れと全体像

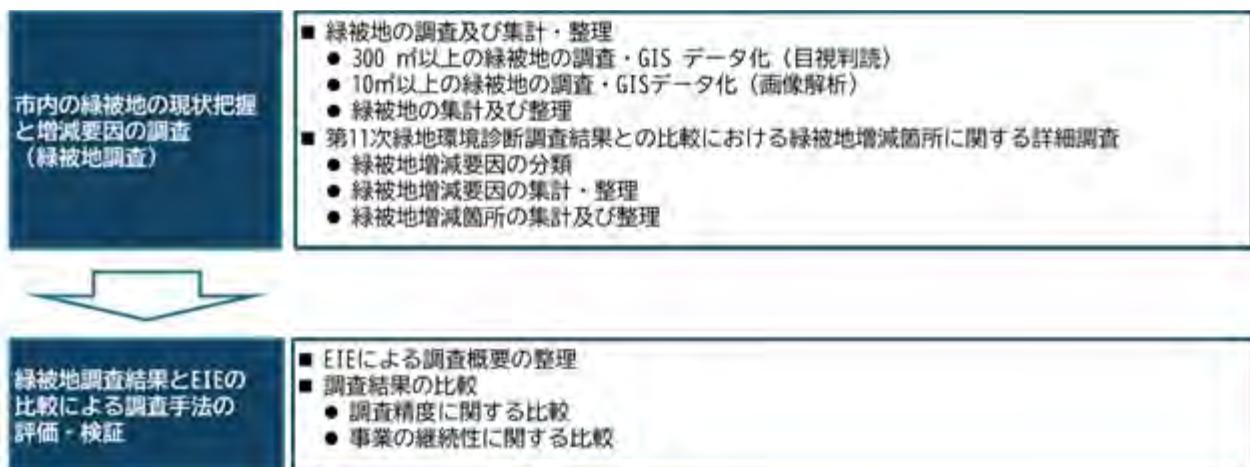
調査研究の背景と目的に基づき、実施した調査研究の作業の流れ・概要を下記に示す。

図表 序-2-1 調査研究の流れ・概要



また、基礎調査業務の流れ・概要を下記に示す。

図表 序-2-2 基礎調査業務の流れ・概要



調査研究全体のスケジュールを以下に示す。

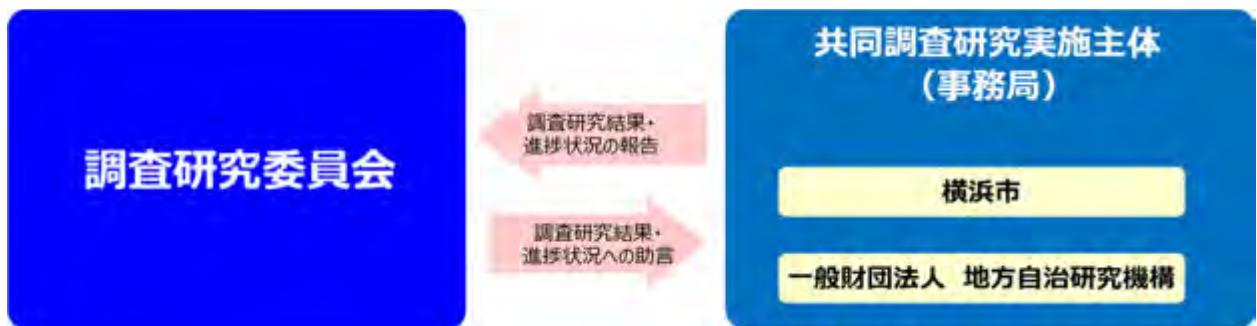
図表 序-2-3 調査研究の全体スケジュール

	2024年						2025年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会潮流の把握・整理			関連する文献の収集・整理						
ロジックツリーの作成				最終アウトカムの設定		中間アウトカムの設定	中間アウトカムの達成につながる施策の方向性の検討	ターゲットとなる市民の属性の検討	ロジックツリーのとりまとめ
基礎調査業務			市内の緑被地の現状把握と増減要因の調査（緑被地調査）		緑被地調査結果とEIEの比較による調査手法の評価・検証				
報告書の作成							▲	報告書作成	
委員会					▲ 第1回		▲ 第2回	▲ 第3回	

3 調査研究体制

本調査研究は、横浜市及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、調査研究委員会の指導・助言の下実施した。

図表 序-3-1 調査研究の実施体制



なお、以下の日程で委員会を開催した。

【第1回委員会】

日時：令和6年11月29日（金）15:00～16:30

場所：Zoomによるオンライン会議

内容：調査研究の背景説明及び調査研究企画書（案）の審議

【第2回委員会】

日時：令和7年1月27日（月）13:00～15:00

場所：横浜市役所（共用会議室27-N04）及びZoomによるオンライン会議

内容：調査研究結果報告及び報告内容に関する審議

【第3回委員会】

日時：令和7年2月17日（月）15:00～16:30

場所：Zoomによるオンライン会議

内容：調査研究結果報告及び報告内容に関する審議

また、基礎調査機関としてアジア航測株式会社の協力を得て基礎調査業務を実施した。

第1章 今後のみどり関連施策の体系的な整理

第1章 今後のみどり関連施策の体系的な整理

本調査研究では、今後のあるべきみどり関連施策を体系的に整理するために、昨今の社会潮流を把握、整理した上で、ロジックツリーを用いて整理することとした。その際に、最終アウトカムとして、環境関連のものを設定するだけでなく、市民の幸福に関連するものも加える試みを行った。

本章では、まず、横浜市の現状・動向を概説し、最終アウトカムに市民の幸福に関連するものを加えるに至った背景を説明するために、昨今の社会潮流を把握・整理した。

次に、ロジックツリーの作成の考え方・進め方を整理し、ロジックツリーを作成した。さらに、みどり関連の施策、事業・取組に参加・活用する可能性が高い市民（ターゲットとなる市民）の属性について整理した。

最後に、ロジックツリーの検討結果を踏まえ、みどり関連施策の今後の方向性について言及した。

1 横浜市の現状・動向

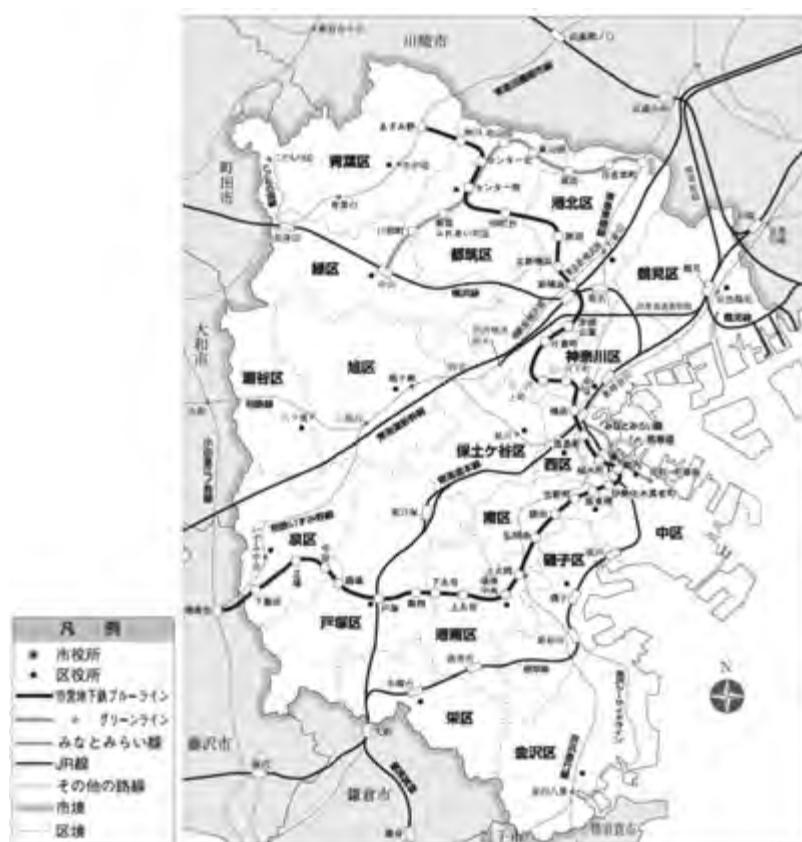
(1) 横浜市の概要

ア 位置

横浜市は、神奈川県の東端に位置し、東は東京湾、北は川崎市、西は町田市・大和市・藤沢市、南は鎌倉市・逗子市・横須賀市に接している。東西については東経 $139^{\circ} 27' 53''$ ~ $139^{\circ} 43' 31''$ で東西 23.6 キロメートル、南北については北緯 $35^{\circ} 18' 45''$ ~ $35^{\circ} 35' 34''$ で 31.1 キロメートルとなっており、総面積は約 435 平方キロメートルである。これは東京 23 区の約 7 割にあたる。

横浜市の中心部から東京都心部までは、約 30 キロメートルである。我が国を代表する国際貿易港である横浜港を基盤として、首都圏の中核都市としての役割を担っている。

図表 1-1-1 横浜市の位置



出所：横浜市「市政記録 2024年版」

(2) 人口、経済の概要

横浜市は、人口 377 万人の大都市で、東京特別区の 982 万人に次ぐ第 2 位の都市である。市内での経済活動を表す「市内総生産」は、約 14.1 兆円で東京都（全域）の約 109.6 兆円、大阪市の 19.5 兆円に次いで第 3 位、市民の生産した付加価値を表す「市民総所得」は、約 17.2 兆円で東京都（全域）の約 101.1 兆円に次いで第 2 位となっている。（出所：内閣府県民経済計算（平成 23 年度 - 令和 2 年度）、内閣府 2020 年度国民経済計算）

また、「事業所数」は 11.6 万事業所で東京都特別区の 50.4 万事業所、大阪市の 12.7 万事業所、名古屋市の 11.7 万事業所に次いで第 4 位、「従業者数」は 153 万人で東京都特別区の 811 万人、大阪市の 231 万人に次いで第 3 位となっている。（出所：令和 3 年経済センサス - 活動調査）

図表 1-1-2 他都市比較からみた横浜経済

人口	1位	2位	3位	4位	5位
3,767,635人 (全国シェア：3.0%)	東京都特別区 (982万人)	横浜市 (377万人)	大阪市 (278万人)	名古屋市 (232万人)	札幌市 (197万人)
市内総生産（R2年度）	1位	2位	3位	4位	5位
14兆631億5,600万円 (全国シェア：2.6%)	東京都(全域) (109.6兆円)	大阪市 (19.5兆円)	横浜市 (14.1兆円)	名古屋市 (13.4兆円)	福岡市 (7.4兆円)
市民総所得（R2年度）	1位	2位	3位	4位	5位
17兆1,848億7,600万円 (全国シェア：3.1%)	東京都(全域) (101.1兆円)	横浜市 (17.2兆円)	大阪市 (16.0兆円)	名古屋市 (12.8兆円)	川崎市 (7.8兆円)
事業所数（R3年度）	1位	2位	3位	4位	5位
116,479事業所 (全国シェア：2.3%)	東京都特別区 (50.4万事業所)	大阪市 (17.7万事業所)	横浜市 (11.6万事業所)	名古屋市 (11.7万事業所)	福岡市 (7.5万事業所)
従業者数（R3年度）	1位	2位	3位	4位	5位
1,527,783人 (全国シェア：2.6%)	東京都特別区 (811万人)	大阪市 (231万人)	横浜市 (153万人)	名古屋市 (145万人)	福岡市 (92万人)

人口…人口推計（総務省及び各都市）（令和6年4月1日現在）

市内総生産・市内総所得…内閣府県民経済計算（平成 23 年度 - 令和 2 年度）、

内閣府 2020 年度国民経済計算

事業所数・従業者数…令和 3 年（令和 3 年経済センサス - 活動調査）

出所：「市政記録 2024 年版 第 1 部」

(3) 横浜市水と緑の基本計画（平成28年6月改定）

横浜市では、「横浜市水と緑の基本計画」（以下、「本計画」という）に基づき、みどり関連の施策を推進している。

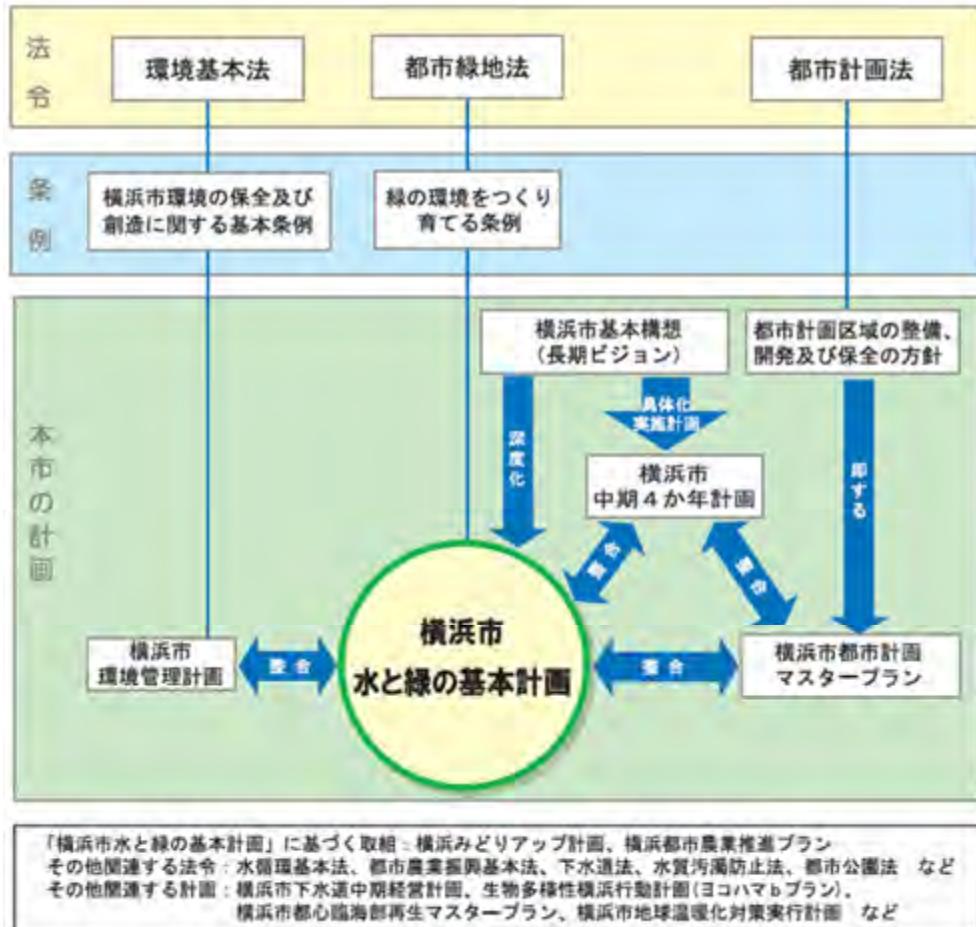
ア 位置付け

本計画は、都市緑地法第4条に規定する「緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画」に位置付けられる。

横浜市における上位計画となる「横浜市基本構想（長期ビジョン）」に示される「都市像」及び「実現の方向性と取組」を踏まえた、水・緑環境の保全・創造・育成に関わる総合的な計画である。

本計画は、「横浜市中期4か年計画」や「横浜市環境管理計画」、「横浜市都市計画マスタープラン」と整合を図り、「横浜市下水道中期経営計画」などと関連する。

図表1-1-3 「水と緑の基本計画」の位置付け・関連計画



出所：横浜市「水と緑の基本計画(平成28年6月改定)」

イ 数値目標

市域面積に対する緑の割合である緑被率に、グラウンド等の緑に囲まれた空間の面積率と水面の面積率を加えた、水・緑環境の総量を示す指標として『水緑率』を設定している。

本計画に基づく様々な施策を市民・事業者・行政の協働で取り組むことにより、『水緑率』(市域面積の約35%)、『緑被率』(市の面積の約31%)をさらに向上させることを目指している。

図表1-1-4 「横浜市水と緑の基本計画」の位置付け・関連計画

●緑被率		長期目標 (平成37年)	計画策定期 (平成16年)		現況 (平成26年)		
樹林地	民有山林（市民の森、社寺林等を含む） 公有山林（公園、市有緑地等の緑） 公共施設の緑 住宅地の緑（住棟間の緑、連続した街路樹） 工場・事業所の緑化	約18%	約17%	約17%	約16%	約16%	
農地	耕作地 休耕地（土の状態）	約7%	約31%	約6%	約29%	約33%	
草地	広場の草地（公園の草地広場等を含む） 不耕作地、空き地、遊休地の草地 事業予定地、造成地等	約6%	水緑率35%を さらに向上 (緑被率31%を さらに向上)	水緑率 約35% (緑被率 約31%)	約3%	水緑率 約33% (緑被率 約29%)	
●グラウンド等の緑に囲まれた空間の面積率		約3%		約3%		約3%	
都市公園の広場・グラウンド等 都市公園に準ずるもの（港湾緑地等）の広場等 樹林地、農地の広場等 学校の校庭・グラウンド 雨水調整池・遊水地等の広場		約1%		約1%		約1%	
●水面の面積率		35%を さらに向上		約35%		約33%	
河川等の水面 都市公園内の水面 都市公園に準ずるもの（港湾緑地等）の水面 ため池・雨水調整池・遊水地の水面							
水緑率(合計)		35%を さらに向上		約35%		約33%	

出所：横浜市「横浜市水と緑の基本計画(平成28年6月改定)」

2 社会潮流の把握、整理

昨今、Well-beingに関する研究が盛んになるとともに、国や地方自治体においても Well-being が実感できる政策を進めようとする動きが顕著になってきている。その結果、環境の分野においても Well-being を高める方向性が求められるようになっている。ここでは、そのような社会潮流を把握、整理した。

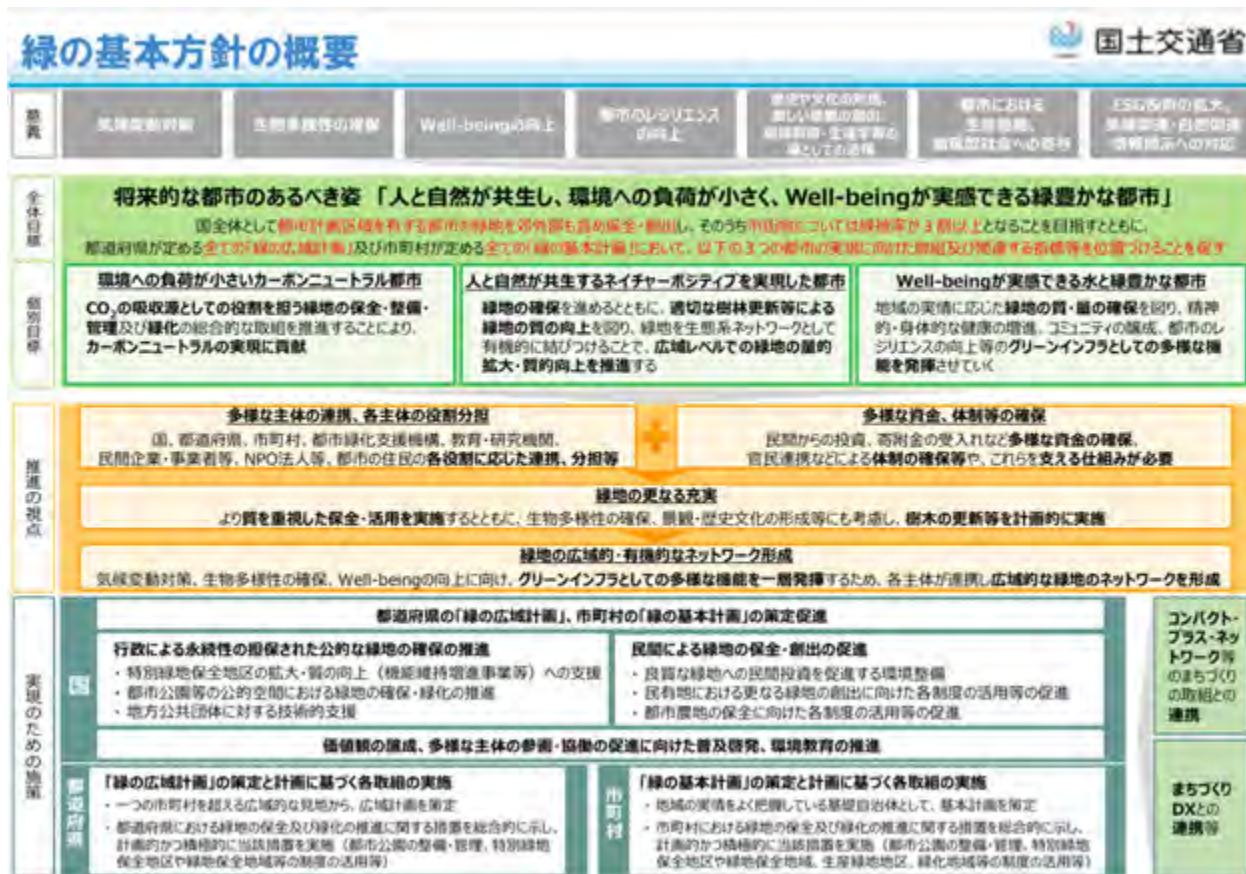
(1) 国の動向

ア 國土交通省

国土交通省は「都市緑地法に基づく基本方針」の検討において、その全体目標である都市のあるべき姿として「人と自然が共生し、環境への負荷が小さく、Well-being が実感できる緑豊かな都市」を打ち出している。

数値目標としては、「市街地について緑被率が 3 割以上となることを目指す」と打ち出している。

図表 1-2-1 都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針の概要



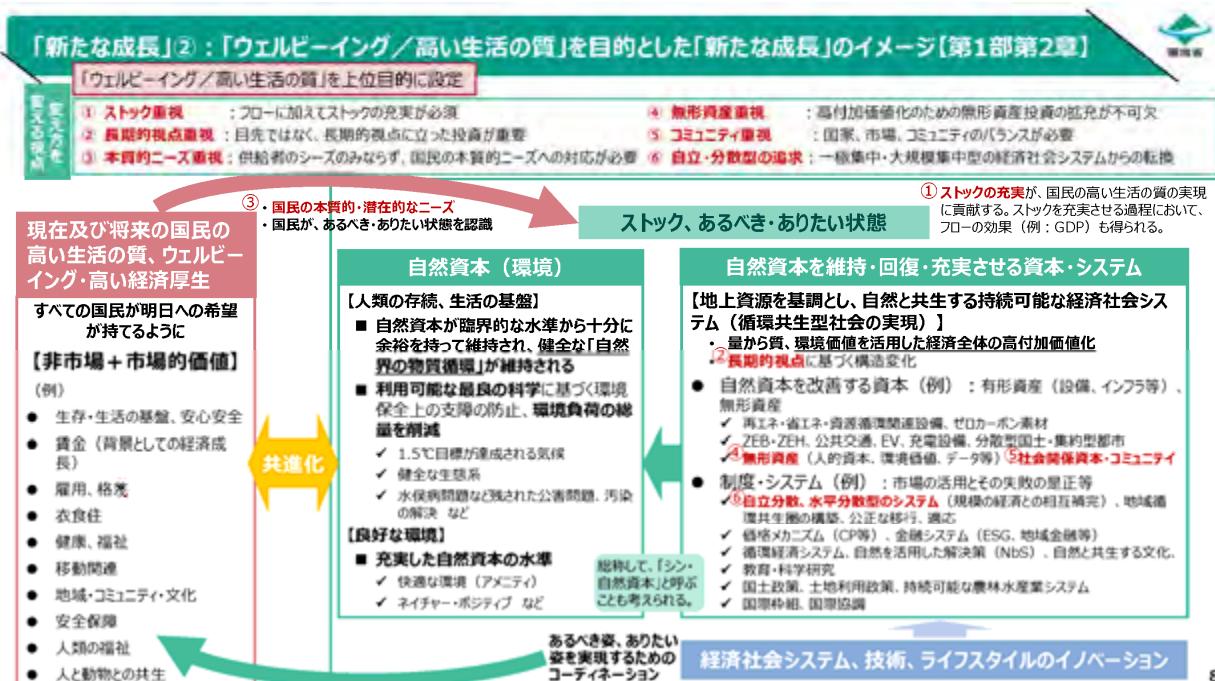
出所：国土交通省「緑の基本方針の概要」

イ 環境省 第六次環境基本計画

環境省は、「第六次環境基本計画」において国民の「ウェルビーイング／高い生活の質」の実現を目指すことを目的としている。

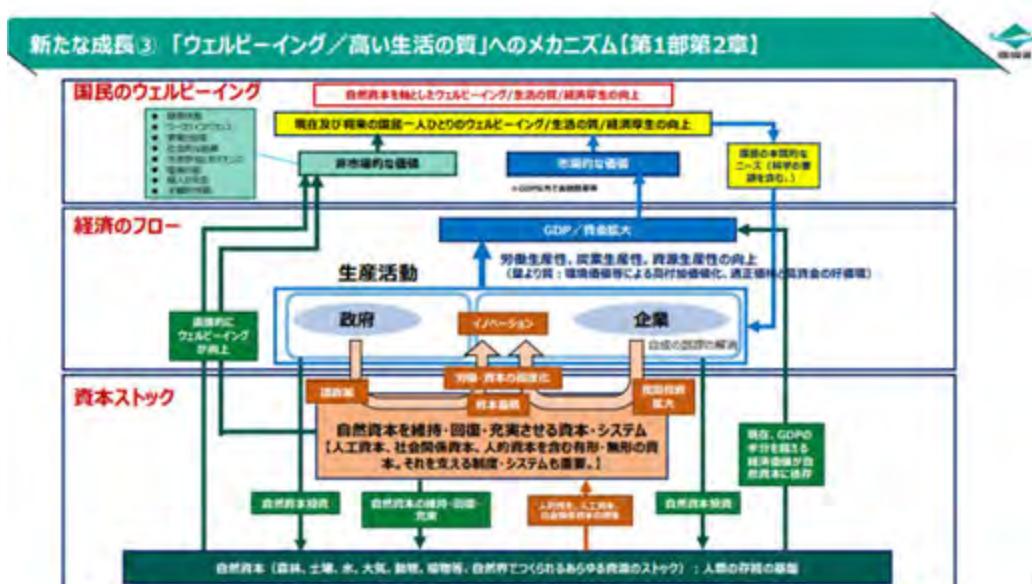
また、「自然資本の維持・回復・充実させる資本・システムにより、経済のフローを活性化させ、健康状態、ワークライフバランス、個人の安全、主観的な幸福等のウェルビーイングの向上を進める。」ことを打ち出している。

図表 1-2-2 環境省「第六次環境基本計画」の概要



出所：環境省「第六次環境基本計画の概要」

図表 1-2-3 「ウェルビーイング／高い生活の質」へのメカニズムについて



出所：環境省「第六次環境基本計画の概要」

ウ デジタル庁／一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

スマートシティ等を振興するデジタル庁は、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートとともに地域幸福度(Well-Being)指標を作成している。

各自治体に対し、「生活環境」、「地域の人間関係」、「自分らしい生き方」に関するアンケート調査をもとに主観指標を作成するとともに、関連するオープンデータ（客観指標）を整理している。

図表 1-2-4 地域幸福度(Well-Being)指標の概要



出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度(Well-Being)指標利活用ガイドブック」

ちなみに、「2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 全国調査」によると、横浜市において幸福度との相関係数が上位 3 位を占める主観指標は、「精神的に健康」「自分のことを好ましく感じる」「身体的に健康」であった。

図表 1-2-5 横浜市における幸福度と相関の高い主観指標

主観指標 KPI	相関係数
精神的に健康	0.53
自分のことを好ましく思う	0.51
身体的に健康	0.42
自宅に心地のいい居場所	0.40
将来のため良い文化等を残したい	0.34
雰囲気自分にとって心地よい	0.33
同じ町内の人を信頼	0.33
学ぶ機会	0.30

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「2024 年度版(令和 6 年度版) Well-Being 全国調査」

(2) 地方自治体の動向

東京財団政策研究所によると、①茨城県、②岩手県、③熊本県、④群馬県、⑤富山県の5県は、ウェルビーイング政策を領域別にモニタリングし、調査結果を政策立案・政策評価に活用している。

図表 1-2-6 47 都道府県のウェルビーイング政策への取り組み状況(2023年4月時点)

	Step.0	Step.1	Step.2	Step.3
概要	<ul style="list-style-type: none">取り組みなし	<ul style="list-style-type: none">ウェルビーイング、生活満足度、あるいは幸福度の向上を目標として掲げる調査は行っていない	<ul style="list-style-type: none">住民の全般的なウェルビーイングに関する調査の実行している領域別のフレイクダウンは行っていない	<ul style="list-style-type: none">住民のウェルビーイングを領域別にモニタリングしている調査結果を政策立案・政策評価へ活用し、報告している
都道府県数	29/47 都道府県	9/47 都道府県	4/47 都道府県	5/47 都道府県

出所: 東京財団政策研究所ホームページ(<https://www.tkfd.or.jp/research/detail.php?id=4362>)

- ①茨城県
- ②岩手県
- ③熊本県
- ④群馬県
- ⑤富山県

以降では、5県のウェルビーイング政策について概説する。

ア 茨城県

茨城県では、今まで抽象的だった幸福を「見える化」し、県民一人ひとりの幸せが実現できる環境の状況を数値で把握することを目的に「いばらき幸福度指標」を作成している。また、幸福度指標について全国順位を算出することで、政策課題を明確化し、本県の豊かさ・暮らしやすさをわかりやすく発信している。

茨城県が考える幸福として、県民一人ひとりが未来に希望を持つことができ、自身のなりたい自分像に向かって一歩でも二歩でも近づいていけるよう、挑戦を続けられることを掲げている。

幸福度指標の設定に際して、公表されている政府統計等を基に、客観的指標で幸福を定量的に把握することをポイントとしている。

図表 1-2-7 いばらき幸福度指標の概要

いばらき幸福度指標	
●新しい豊かさ	●新しい人財育成
雇用 ①雇用者報酬（雇用者1人当たり） ②正規雇用率	教育振興 ①子どものチャレンジ率 ②大学進学率 ③学力 ④教員のICT活用指導力 ⑤不登校児童生徒率
産業振興 ③県民所得（県民1人当たり） ④工場立地件数 ⑤労働生産性（1時間当たり）	出産・育児 ⑥合計特殊出生率 ⑦待機児童率
農林水産業 ⑥農林水産業の付加価値創出額（県民1人当たり）	学び・文化・スポーツ・遊び ⑧教養・娯楽（サービス）支出額 ⑨都道府県指定等文化財件数 ⑩子どもの運動能力
観光振興 ⑦外国人宿泊者数 ⑧国内旅行者数	多様性・女性活躍・人権 ⑪パートナーシップ制度人口カバー率 ⑫女性の管理職登用率 ⑬人権侵犯事件件数（県民1万人当たり）
環境保全 ⑨CO2排出量（県民1人当たり） ⑩一般廃棄物リサイクル率	働き方 ⑭所定外労働時間 ⑮異性の育児休業等制度利用率【新規】
●新しい安心安全	●新しい夢・希望
地域医療・介護・保健 ①医師数 ②看護職員数 ③介護職員数（いずれも県民10万人当たり） ④介護・看護を理由とした離職率 ⑤自殺者数（県民10万人当たり）	国際交流 ⑬留学生数（県民10万人当たり）
健康長寿 ⑥健康寿命	バッチャー創出 ②起業率
自立支援 ⑦障害者雇用率 ⑧相対的貧困率	若者に魅力ある雇用 ③本社機能流出・流入数 ④若者就職者増加率
犯罪防止 ⑨刑法犯認知件数（県民千人当たり）	新しい人の流れ ⑤転入超過率
防災対策 ⑩自主防災組織カバー率 ⑪自然災害死者・行方不明者数	DX推進 ⑯デジタルガバメント率（市町村）【変更率】 3

出所:「『いばらき幸福度指標』の見直しと2023年度の全国順位について」

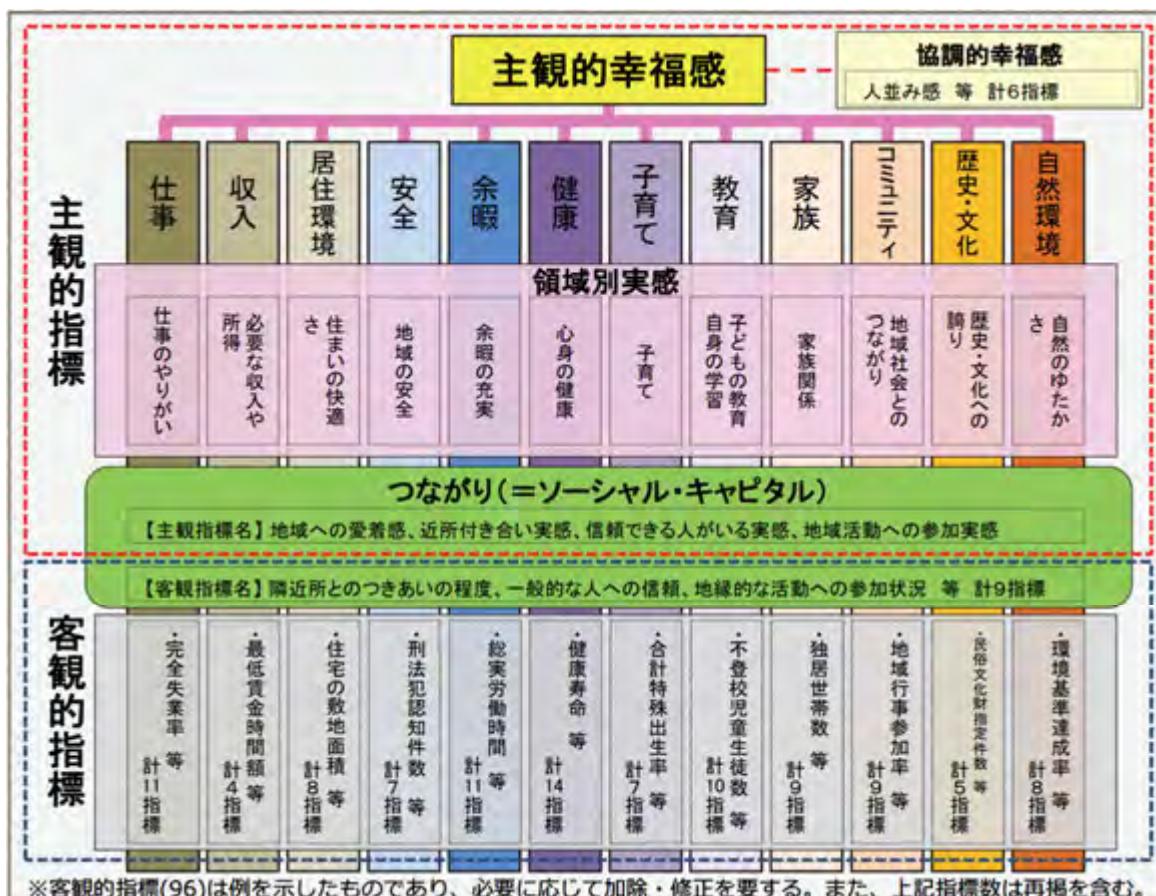
イ 岩手県

岩手県では「岩手の幸福に関する指標」を設定しており、指標策定の基本方針として①新たな施策の展開に活用できる指標とする、②県民の実感を踏まえた指標とする、③物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする、という3点を掲げている。

指標の構成として、幸福は主観的な面の影響が大きいことから、主観的指標を中心とし、統計データによる客観的指標で補足している。

主観的指標は、「主観的幸福感」と、主観的幸福感に関連する領域ごとにその実感を評価した「領域別実感」等で構成している。「主観的幸福感」は、県民意識調査等で「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し評価されたものであり、「領域別実感」は、仕事、収入、居住環境、安全、余暇、健康、子育て、教育、家族、コミュニティ、歴史・文化、自然環境の12領域ごとの実感を問う設問に対し評価されたものである。

図表 1-2-8 岩手の幸福に関する指標の概要



出所:「『岩手の幸福に関する指標』研究会 報告書の概要」

ウ 熊本県

熊本県では、蒲島県政の基本理念である「県民総幸福量の最大化」の考え方を県民と共有し、効果的な施策につなげることを目的として、独自に「県民総幸福量（AKH）」を作成している。なお、AKHは「Aggregate Kumamoto Happiness」の略称である。

この指標は、幸福の要因を「夢を持っている」「誇りがある」「経済的な安定」「将来に不安がない」の4つに分類し、それらをどの程度重視するかという「ウエイト」や、各分類に属する項目の「満足度」を県民アンケートで測定し、それぞれ掛け合わせて合計する仕組みで構成している。

図表 1-2-9 県民総幸福量(AKH)の概要



出所:「令和4年度県民総幸福量(AKH)に関する調査結果について」

エ 群馬県

群馬県では、①県民幸福度を「見える化」する、②県民幸福度と県の政策との関連を分析する、③県民幸福度向上に向けた政策立案へ活用する、といった3点を目的として県民幸福度を指標化し、「群馬県幸福度レポート」を作成している。

分析対象として、「主観的幸福感」と「19の政策分野」としている。後者は、地域政策、スポーツ、文化、こども、生活、健康、医療、福祉、環境、森林・林業、農業、産業経済、観光・コンテンツ、国土整備、防災・危機管理、教育、防犯・交通安全・食品衛生、国際、行財政改革を挙げている。

図表 1-2-10 群馬県 幸福に関する指標体系



出所:「群馬県幸福度レポート(令和4年度)」

才 富山県

富山県では、「富山県ウェルビーイング指標」を策定している。令和4年度県民意識調査結果を踏まえ、次の3つの区分で指標を整理している。

総合指標 : ウェルビーイングを全体で捉える指標（総合実感、生活の調和とバランス実感）

分野別指標 : ウェルビーイングを様々な側面から捉える指標、また、総合指標との関連を評価する指標（7指標）

つながり指標：個々のウェルビーイングを支え・高める社会的な関係（ウェルビーイング環境）を捉える指標

図表 1-2-11 富山県ウェルビーイング指標の概要



出所:「富山県ウェルビーイング指標の策定について」

(3) 幸福に関する研究

ここでは、昨今研究が盛んになってきている幸福に関する研究について、主要な学説の概要を整理した。

ア PERMA理論

ポジティブ心理学の創始者であるマーティン・セリグマン教授らが提唱した理論で、ウェルビーイングを高めるための5つの要素を提示した。

P=ポジティブな感情(Positive emotion)

E=熱中(Engagement)

R=人間関係(Relationship)

M=意義(Meaning)

A=達成感(Achievement)

PERMAの各要素は、健康、活力、職務満足、生活満足、コミットメントとの間に正の相関があることが示された研究結果がある。PERMAの要素に積極的に取り組むことで、ウェルビーイングが高まり、心理的な苦痛も減少するとされている。

イ 幸せのメカニズム

慶應義塾大学大学院前野隆司教授が提唱する「幸せのメカニズム」によると、「幸せ」とはそれを直接目指すのではなく、幸せと関係のある項目を目指すことの結果としてついてくるものであり、主観的幸福の心的要因の因子分析結果として、「個人の在り方」「関係性の質」について以下の4つの因子を挙げている。

「因子1 やってみよう（夢・目標、強み、成長、自己肯定感）」

「因子2 ありがとう（感謝、利他、許容、承認、信頼、尊敬、自己有用感）」

「因子3 なんとかなる（前向き、楽観性、自己受容）」

「因子4 ありのまま（独立、自分らしさ）」

ウ 協調的幸福感

内田由紀子教授、一言英文准教授らが、幸福感の意味づけには個人主義文化と集団主義文化の違いが存在し、北米的な獲得的幸福感とは異なる日本の幸福として協調的幸福感を提唱している。協調的幸福感では、自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えることとして、他者との関係性や社会的調和や社会関係資本を重視している。

日本の Well-being を考える上で、以下のような二つの自己意識の良いバランスを模索することを目指している。

図表 1-2-12 独立性と協調性



出所：内田由紀子「教育政策におけるウェルビーイング」

3 ロジックツリーの作成の考え方・進め方

(1) 横浜市におけるロジックツリー作成の考え方

国土交通省では「都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針（緑の基本方針）」において、その全体目標である都市のあるべき姿として「人と自然が共生し、環境への負荷が小さく、Well-being が実感できる緑豊かな都市」を打ち出している。

それを受け、横浜市では、目標を「環境（水と緑）」「市民の幸福」に設定しそれぞれが向上すること（ネイチャーポジティブと Well-being）を目標に定めた。さらに、ネイチャーポジティブと Well-being が win-win な関係になり、互いに高まる状態を目指すこととした。

なお、ロジックツリーの作成にあたっては、今まで水と緑に関わりのなかった市民層を取り込めるよう検討した。

図表 1-3-1 横浜市におけるロジックツリー作成の考え方



(2) ロジックツリーの構成

本調査研究では、最終アウトカム、中間アウトカム、中間アウトカムの改善につながる施策の方向性、事業・取組の4つの階層からなるロジックツリーを検討した。

ア 最終アウトカム

(1) における横浜市のロジックツリーの作成の考え方を受け、昨今重視される市民の幸福と環境の2つを最終アウトカムに設定した。

イ 中間アウトカム

中間アウトカムの設定については、市民の幸福に関連するものと環境(自然資本)の維持・回復・充実に関連するものに分けて説明する。

①市民の幸福に関連する中間アウトカムの設定

市民の幸福に関連する中間アウトカムを設定するために、以下の資料を基に検討を行った。

- ・一般社団法人スマートシティ・インスティテュートの指標に関する資料
- ・横浜市の市民等の意識調査
- ・幸福、自己肯定感等の文献 他

上述した幸福に関する研究、資料及び文献における頻出度や市民等の意識調査等を考慮した結果、以下の市民の幸福に関連する5つを中間アウトカムとして設定した。設定した要因についても合わせて示す。

図表 1-3-2 市民の幸福に関連する中間アウトカムの設定

設定された中間アウトカム	設定した要因
お金の獲得・貯蓄・自己投資	<ul style="list-style-type: none">✓ 一定の所得がない層では幸福感が得られにくいという研究もあり、一定以上の所得を得ることが幸福につながると考えられることから抽出。✓ 「令和5年度横浜市市民意識調査」の結果では、「今の自分の生活について、満足しているか」との問に対し「収入」については、不満・やや不満と回答した割合が多く、不満の解消により満足度上昇が期待できることから抽出。
自分らしさの形成・自己実現・成長	<ul style="list-style-type: none">✓ 「幸せのメカニズム」において示された幸せの4つの因子のうち、個人に関する3つの因子を統合したものとして設定。✓ 「2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査」の横浜市全域の結果では「自己効力感」が2番目に相関係数が高い(0.51)。
地域内の社会関係資本の構築・強化	<ul style="list-style-type: none">✓ 「幸せのメカニズム」において示された4つの因子のうち、関係の質を含むものとして設定。✓ 他人との関係に基づく協調的幸福の概念も含め設定。
心身の健康	<ul style="list-style-type: none">✓ 「2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査」の横浜市全域の結果では「健康状態」が最も相関係数が高い(0.52)。✓ 「令和5年度横浜市市民意識調査」の結果では、「今の自分の生活について、満足しているか」との問に対し「健康」については、不満・やや不満と回答した割合が多く、不満の解消により満足度上昇が期待できることから抽出。
防災／安全・安心の確立	<ul style="list-style-type: none">✓ 横浜市「横浜市民意識調査(令和5年7月実施)」では、横浜市民の要望が多く、満足度が低い項目として、「災害対策」が1位。不満の解消により満足度上昇が期待できることから抽出。

以降では、5つの中間アウトカムを設定した要因のうち、アンケート調査等による数値により示されているものをいくつか紹介する。

「令和5年度横浜市市民意識調査」の結果では、「今の自分の生活について、満足しているか」との問に対し、「収入」、「健康」については、不満・やや不満と回答した割合が多かった。

図表 1-3-3 市民の収入、健康に関する不満

問8 今のご自分の生活について、次の項目別にみると、満足しているほうですか。それとも、不満があるほうですか。（○はそれぞれ1つ）

	ほ満 足 し て い うる	い生 あ る満 足 は足 ら うて	いど も ら なと いも	あや るや 不 は満 うが	は不 満 が は満 うる	無 回 答
(ア) 住まい	32.1	48.3	9.4	6.7	2.5	1.0
(イ) 自由に過ごせる時間	30.8	44.7	12.6	7.7	3.1	1.2
(ウ) 仕事・学業	14.9	36.7	26.1	6.6	4.1	11.5
(エ) 収入	10.1	32.4	28.4	17.4	9.0	2.7
(オ) 健康	15.3	43.7	22.6	11.8	5.0	1.6
(カ) 家族との関係	37.4	43.3	12.2	3.4	2.0	1.8
(キ) 友人や近隣とのつき合い	16.5	48.9	28.4	3.4	1.5	1.4

出所:横浜市「令和5年度横浜市民意識調査」

次に、前述の「2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査」によると、横浜市において幸福度との相関係数が0.4以上の因子は、「健康状態」、「自己効力感」であった。

図表 1-3-4 幸福度との相関係数が高い因子（0.30以上）

因子	相関係数
健康状態	0.52
自己効力感	0.51
住宅環境	0.37
文化・芸術	0.35
地域とのつながり	0.34
公共空間	0.33
教育機会の豊かさ	0.30

出所:一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査」

「令和5年度横浜市市民意識調査」の結果では、横浜市民の要望が多く、満足度が低い項目として、「災害対策」が1位であった。

図表 1-3-5 市民の満足度と要望の差が大きい項目(要望のほうが多い 10 項目)

順位	項目	市政への満足度 (%)	市政への要望 (%)	(満足度-要望)
1位	地震や台風などの災害対策	8.2	30.2	▲ 24.0
1位	防犯対策	5.8	29.8	▲ 24.0
3位	高齢者福祉	7.3	28.8	▲ 21.5
3位	橋梁や上下水道などの都市インフラの老朽化対策	4.8	26.3	▲ 21.5
5位	妊娠・出産・子育て期における支援	6.4	26.6	▲ 20.2
6位	商店街の振興	5.9	25.5	▲ 19.6
7位	保護や支援を必要とする子ども・家庭への援助	4.6	22.7	▲ 18.1
8位	高齢者や障害者が移動しやすい街づくり (駅舎へのエレベーター設置など)	5.9	25.8	▲ 16.9
9位	保育サービスや放課後の居場所づくり	5.9	22.5	▲ 16.6
10位	ごみの不法投棄対策や街の美化	8.4	24.6	▲ 16.2
10位	病院や救急医療など医療提供体制の充実	12.8	29.0	▲ 16.2

出所：横浜市「令和5年度横浜市民意識調査」

②環境(自然資本)の維持・回復・充実に関連する中間アウトカムの設定

環境(自然資本)の維持・回復・充実に関連する中間アウトカムを設定するために、以下の資料を踏まえ検討を行った。

- ・都市緑地法等の一部を改正する法律（令和6年法律第40号）
- ・都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針（緑の基本方針）
(令和6年国土交通省告示第1367号) 等

図表 1-3-6 都市緑地法等の一部を改正する法律の全体像

The diagram is a flowchart titled '0. 法律の全体像' (Overall Framework of the Law). It starts with a box labeled '背景・必要性' (Background and Necessity) containing several bullet points. One point, '○ 気候変動対応、生物多様性確保、幸福度 (Well-being) の向上等の課題解決に向けて、緑地が持つ機能に対する期待の高まり。' (In view of climate change response, biodiversity protection, and the improvement of well-being, the high expectation for the functions of green spaces in addressing various issues), is highlighted with a red border. This leads to a box labeled '概要' (Summary) which is divided into three main sections: 1. 国主導による戦略的な都市緑地の確保 (Strategic確保 of urban green spaces by the state), 2. 貴重な都市緑地の積極的な保全・更新 (Active conservation and renewal of valuable urban green spaces), and 3. 緑と調和した都市環境整備への民間投資の呼び込み (Promotion of private investment in harmonious urban environment development). The summary also mentions the establishment of a national green space agency. At the top right, there is a logo for '国土交通省' (Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism) with the text '公布 令和6年5月29日' (Published on May 29, Heisei 6) and '施行 令和6年11月8日' (Implemented on November 8, Heisei 6).

出所：国土交通省資料

図表 1-3-7 都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針の概要（再掲）

緑の基本方針の概要							国土交通省	
意義	森林資源の持続	生物多様性の確保	Well-beingの向上	都市のレクリエーションの向上	環境や文化の保全、美しい景観の維持、地域活性化を目的とした緑地の創出	都市における生態系、環境問題への対応	ESG投資の拡大、気候変動・自然保護・持続開発への貢献	
全体目標	将来的な都市のあるべき姿 「人と自然が共生し、環境への負荷が小さく、Well-beingが実感できる緑豊かな都市」 国全体として都市計画区域を有する都市の緑地を郊外部も含め保全・創出し、そのうち市街地においては緑率が3割以上となることを目指すとともに、都道府県が定める全ての「緑の広域計画」及び市町村が定める全ての「緑の基本計画」において、以下の3つの都市の実現に向けた取組及び関連する指標等を位置づけることを目指す							
個別目標	環境への負荷が小さいカーボンニュートラル都市 CO ₂ の吸収源としての役割を担う緑地の保全・整備・管理及び緑化の総合的な取組を推進することにより、カーボンニュートラルの実現に貢献						人と自然が共生するネイチャーポジティブを実現した都市 緑地の確保を進めとともに、適切な樹林更新等による緑地の質の向上を図り、緑地を生態系ネットワークとして有機的に結びつけることで、広域レベルでの緑地の量的拡大・質的向上を推進する	Well-beingが実感できる水と緑豊かな都市 地域の実情に応じた緑地の質・量の確保を図り、精神的・身体的な健康の構造、コミュニティの醸成、都市のレクリエーションの向上等のグリーンインフラとしての多様な機能を発揮させていく
措置の構造	多様な主体の連携、各主体の役割分担 国、都道府県、市町村、都市緑化支援機構、教育・研究機関、民間企業・事業者等、NPO法人等、都市の住民の各役割に応じた連携、分担等						緑地の更なる充実 より質を重視した保全・活用を実施するとともに、生物多様性の確保、歴史・歴史文化の形成等にも考慮し、樹木の更新等を計画的に実施	多様な資金、体制等の確保 民間からの投資、寄附金の受入れなど多様な資金の確保、官民連携などによる体制の確立等で、これらを支える仕組みが必要
実現のための施策	都道府県の「緑の広域計画」、市町村の「緑の基本計画」の策定促進 行政による永続性の確保された公約的な緑地の確保の推進 ・特別緑地保全地区の拡大・質の向上（機能維持増強事業等）への支援 ・都市公園等の公的空間における緑地の確保・緑化の推進 ・地方公共団体に対する技術的支援						民間による緑地の保全・創出の促進 ・民間緑地への民間投資を促進する環境整備 ・民有地における更なる緑地の創出に向けた各制度の活用等の促進 ・都市農地の保全に向けた各制度の活用等の促進	コンパクト・プラス・ネットワーク等のまちづくりの施設との連携
監視評価	「緑の広域計画」の策定と計画に基づく各取組の実施 ・一つの市町村を超える広域的な見地から、広域計画を策定 ・都道府県における緑地の保全及び緑化の推進に関する指標を総合的に示し、計画的かつ積極的に実施（都市公園の整備・管理、特別緑地保全地区や緑地保全地域等の制度の活用等）			市町村 「緑の基本計画」の策定と計画に基づく各取組の実施 ・地域の実情をよく把握している基礎自治体として、基本計画を策定 ・市町村における緑地の保全及び緑化の推進に関する指標を総合的に示し、計画的かつ積極的に当該指標を実施（都市公園の整備・管理、特別緑地保全地区や緑地保全地域、生産緑地地区、緑化地域等の制度の活用等）	まちづくり DXとの連携			

出所：国土交通省資料

上述の資料を踏まえ、課題の重要性、手法ではなく成果・効果（アウトカム）である点、本市の特性等を考慮した結果、環境(自然資本)の維持・回復・充実に関連する中間アウトカムについては、「気候変動への対応」、「生物多様性の確保」、「歴史・文化・景観の形成」の3つを設定した。

図表 1-3-8 環境に関する中間アウトカムの設定

設定された中間アウトカム	設定した要因
気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国土交通省は「緑の基本方針」における意義として「気候変動対策」を挙げている。 ✓ また、「緑の基本方針」の個別目標においては「環境への負荷が小さいカーボンニュートラル都市」を打ち出している。
生物多様性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国土交通省は「緑の基本方針」における意義として「生物多様性の確保」を挙げている。 ✓ また、「緑の基本方針」の個別目標においては「人と自然が共生するネイチャーポジティブを実現した都市」を打ち出している。
歴史・文化・景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 国土交通省は「緑の基本方針」における意義として「歴史や文化の形成、美しい景観の創出、環境教育・生涯教育の場としての活用」を挙げている。 ✓ また、生態系サービスの4つの分類の1つとして、レクリエーション、観光等の機会を提供する文化的サービスがある。

ウ 中間アウトカムの達成につながる施策の方向性

中間アウトカムの達成に向け横浜市が実施すべき施策の方向性を検討した。その範囲は、緑・水だけの分野だけにとらわれることなく、検討した。

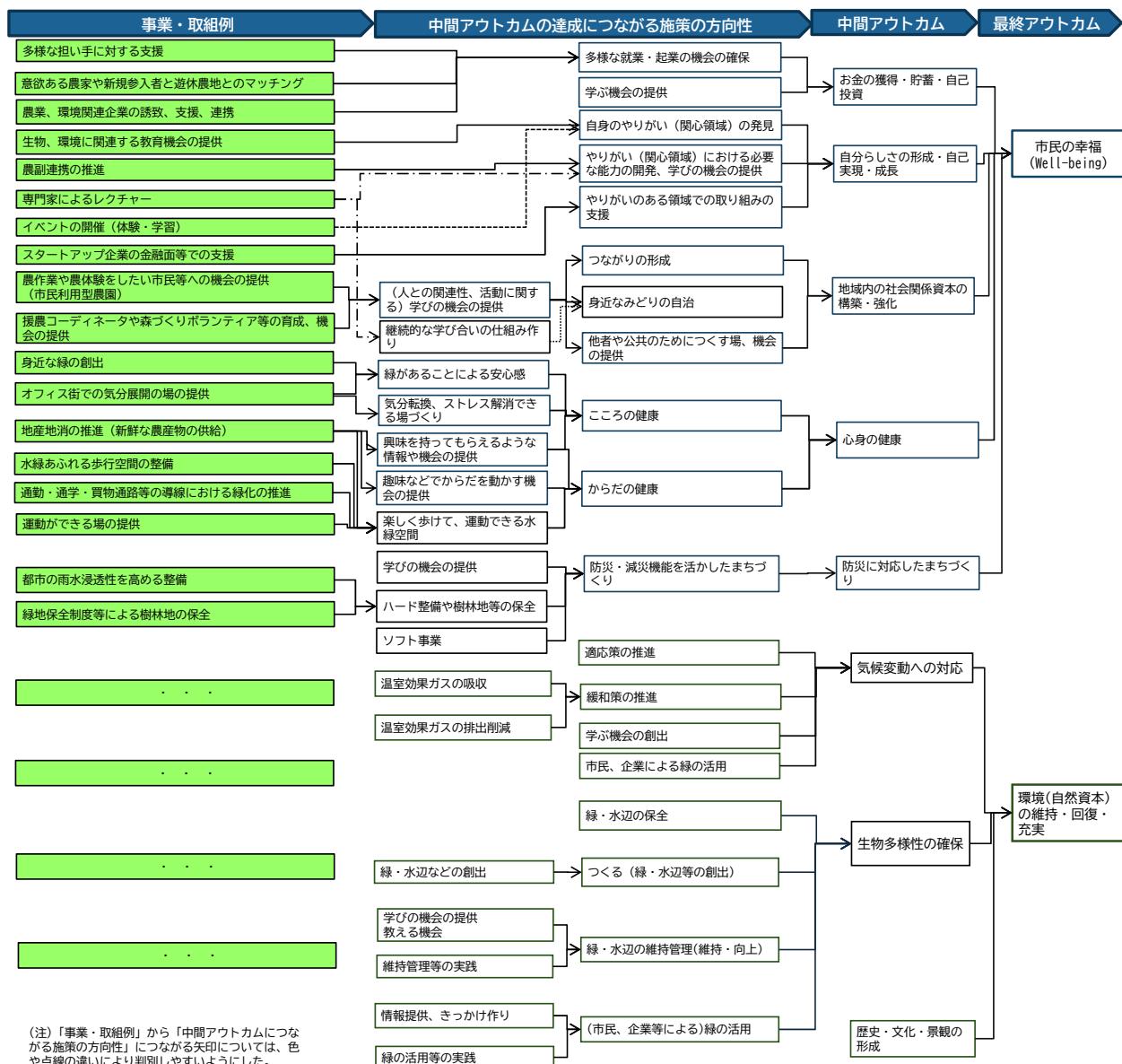
なお、施策の方向性については、ロジックツリーにおいては必要に応じて上位概念と下位概念の2段で検討した。

エ 緑・水関連の施策（取組・事業）

横浜市が今後の計画において、新規で行うものも含め、緑・水に関連する事業・取組を検討した。

前述のような4つの階層からなるロジックツリーは、以下のようなイメージになる。

図表 1-3-9 ロジックツリーのイメージ



(注) 事業・取組例については、一部略している。

(3) ロジックツリー作成の進め方

ロジックツリーに含むべき「中間アウトカム」、「中間アウトカムにつながる施策の方向性」、「事業・取組例」については、以下のような方法で検討を進めた。

ア 委員会、有識者ヒアリング

有識者からなる委員会を組成し、ロジックツリーの作成の方針等に関する意見を頂いた。また、有識者へのヒアリングによっても、ご意見・ご質問を頂いた¹。これらに基づき、「中間アウトカム」「中間アウトカムにつながる施策の方向性」、「事業・取組」等についての方針を作成した。

図表 1-3-10 委員会等におけるご質問・ご意見と対応(1/2)

	ご意見・ご質問		対応
第1回 委員会	本調査研究では、「最終アウトカムに影響する因子」からどのような施策があるべきなのか検討していくよりも、まずは今ある施策を体系立て整理することに重きを置いているのか。	→	ロジックツリーに記載した横浜市のみどり関連の施策については、必ずしも現行の施策だけではない。 現行の施策を継続し強化することも重要であるが、新規施策の方向性も重視している。
	表現の話ではあるが、ロジックツリーでは、「最終アウトカムに影響する因子」を我々は「中間アウトカム」と表現することがしばしばある。	→	ロジックツリーの最終アウトカムのすぐ左に位置する項目は、「中間アウトカム」という表現に変更する。
	幸福の捉え方は、セリグマンの PERMA モデルや協調的幸福等のように、いくつかの枠組みがある。本調査研究では、どのような枠組みとするつもりか。	→	基本的には、「幸せのメカニズム」等の研究をベースに、他者との関係において協調的幸福の概念を含めることとし、中間アウトカムに「地域内の社会関係資本の構築・強化」を加える
	「水と緑の基本計画」は都市緑地法における空間計画としての役割が大きい。同計画では、横浜市の環境構造の特徴として環境の多様性を強調しているが、そのような環境の多様性を維持するための施策が Well-being に繋がると考えると、どのように環境の多様性を地域の Well-being に繋げるかというロジックツリーが重要になってくる。	→	現在の「横浜市 水と緑の基本計画」では、横浜市の特性があるエリアをとりあげた検討として、緑の 10 大拠点を取り上げたロジックツリーを作成。
	横浜市らしさのあるものにしてほしい。	→	
ヒアリ ング	個人に関する 3 つの因子を「自分らしさの形成・自己実現・成長」とまとめたということであるが、「生きがい、やりがい」が抜けている感じがする。	→	「中間アウトカムにつながる施策の方向性」のところで、「生きがい、やりがい」、「利他性」といった内容を「中間アウトカムの改善につながる施策の方向性」において含める。
	他人との関係では、つながるだけでなく「利他性」が重要。ひとは他人の喜ぶことに幸福を感じる。	→	
	市民の参加が促すには、「学び」「教育」等の機会を提供することが必要である。	→	「学び」「教育」「話し合い」等の機会を提供することを加える。
	「・・・整備」のようなものだけだと新しさが無いように思われる。「そうじ」等における市民の活動やイベントの開催等も含めた方が良い。		
	意見がぶつかった時、最終的に部（団体）としての特定の答えや価値観を持たないこととしたが、これは思考停止ではなく議論し学び続けるというスタンスである。学び続け、議論しながら考える手間が大切である。		

¹ 委員会委員やヒアリング協力者等については、章末の委員名簿を参照のこと。

図表 1-3-11 委員会等におけるご質問・ご意見と対応(2/2)

	ご意見		対応
第2回 委員会	「お金の獲得・貯蓄・自己投資」に関連しては、経済的安定性・物質的安定性という考え方があり、物質的安定性というものには緑がつながるのではないか。	→	緑の面から物質的安定性があるかについては、心身の健康に関するページでは「身近な緑の創出」「緑があることによる安心感」を追加。
	最終アウトカムに「環境（自然資本）の維持・回復・充実」とあるが、これが満たされることによって「心身の健康」に戻るパスが引けるのではないか。	→	「心身の健康」についてのロジックツリーにおいて、「中間アウトカムにつながる施策の方向性」において、「緑があることによる安心感」が追加し、緑の創出や保全等の事業・取組を結ぶ形態をとった。また、多様な施策の方向性になるように、他の項目の文言を修正。
	「心身の健康」につながる施策の方向性が5つ挙げられているが、比較的アクティブな行動が多い。静かな環境で自然と関わることも必要だと思うので、静かな関わりを含めると施策に多様性が出てよいかと思う。	→	
	「市民の幸福」と「環境（自然資本）の維持・回復・充実」を最終アウトカムとして並列に並べるのは適切か。	→	国土交通省、環境省の動向から、環境だけでなく人の問題にウェートを置くようになってきている。そのため、最終アウトカムに「環境」と「幸福」を設定し、それを将来の都市のあるべき姿として本調査研究を実施。本資料の冒頭で上記を説明。
	人間と環境の両方を最終アウトカムに設定することはよいが、中間アウトカムのスケールが大きく異なると感じている。	→	幸福と環境においては、そもそも中間アウトカムとして着目されるものに違いがあり、その結果スケールに違いがあると感じられることになる。
	キーワードとして緑の自治、つまり自分たちの街の緑は自分たちで育んでいく、それが幸福につながるというニュアンスがあると良いと思う。	→	ロジックツリーの「中間アウトカムにつながる施策の方向性」において、「身近なみどりの自治」を追加。
	緑地の保全整備について、ネイチャーポジティブというキーワードが重要な時代であり、緑を守っていくのではなく増やすことが幸せに繋がっていくというニュアンスを加えられるとよい。	→	ロジックツリーの事業・取組例において、「身近な緑の創出」「市街地のみどりを創出」を追加。
	ロジックツリーの表現について、様々なつなぎ方ができるため面白いが、線を追うのが大変である。次の段階では複雑な表現ではなくわかりやすい表現にできればいいと思う。	→	「事業・取組例」から「中間アウトカムにつながる施策の方向性」につながる矢印については、色や点線の違いにより判別しやすいためとした。
	自然への関心の程度などはかなりミクロなどこれまで見られるので、そこでステークホルダーを分けていくという考え方がありそうだと思う。様々な視点でステークホルダーについて検討していただきたい。	→	「横浜市の緑の取組に関するアンケート調査」の属性別のクロス集計から、施策、事業・取組に関する満足度に属性による違いがあるかについて検討し、本章第4節で検討した。

イ 関連する資料の分析

市民の幸福(Well-being)に関連する中間アウトカムを設定するために、以下のような資料を基に検討を行った。

図表 1-3-12 参考とした資料

No.	資料	著者	出版年	出版元等
1	「地域幸福度 (Well-Being) 指標」に関する資料	—	2024	一般社団法人スマートシティ・インスティテュート
2	横浜市市民意識調査	—	2024	横浜市政策経営局
3	夢をかなえるゾウ 1	水野敬也	2020	文響社
4	幸せになる勇気	岸見一郎	2016	ダイヤモンド社
5	幸福とは何か ソクラテスからアラン、ラッセルまで	長谷川宏	2018	中央公論新社
6	幸福の「資本」論	橘玲	2017	ダイヤモンド社
7	七竜神の開運お作法	望月彩楓	2021	KADOKAWA
8	世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方	八木仁平	2020	KADOKAWA
9	ユダヤ人大富豪の教え	本田健	2006	ダイヤモンド社
10	99.9%は幸せの素人	星渉、前野隆司	2020	KADOKAWA
11	THE HAPPINESS 精神科医が見つけた3つの幸福	樺沢紫苑	2021	飛鳥新社
12	あやうく、未来に不幸にされるとこだった	堀内進之介、吉岡直樹	2024	東洋経済新報社
13	サピエンス全史	ユヴァル・ノア・ハラリ	2016	河出書房新社
14	バビロンの大富豪	ジョージ・S. クレイソン	2008	グスコー出版

(注)以前のパートで紹介した資料も含む。

4 ロジックツリーの作成

本調査研究では、いくつかのタイプのロジックツリーを作成した。

まず、全体像について示すロジックツリーを作成した。このタイプでは、ロジックツリーの階層間をつなぐ矢印の線ができるだけ複雑に絡み合うことがないように整理した。

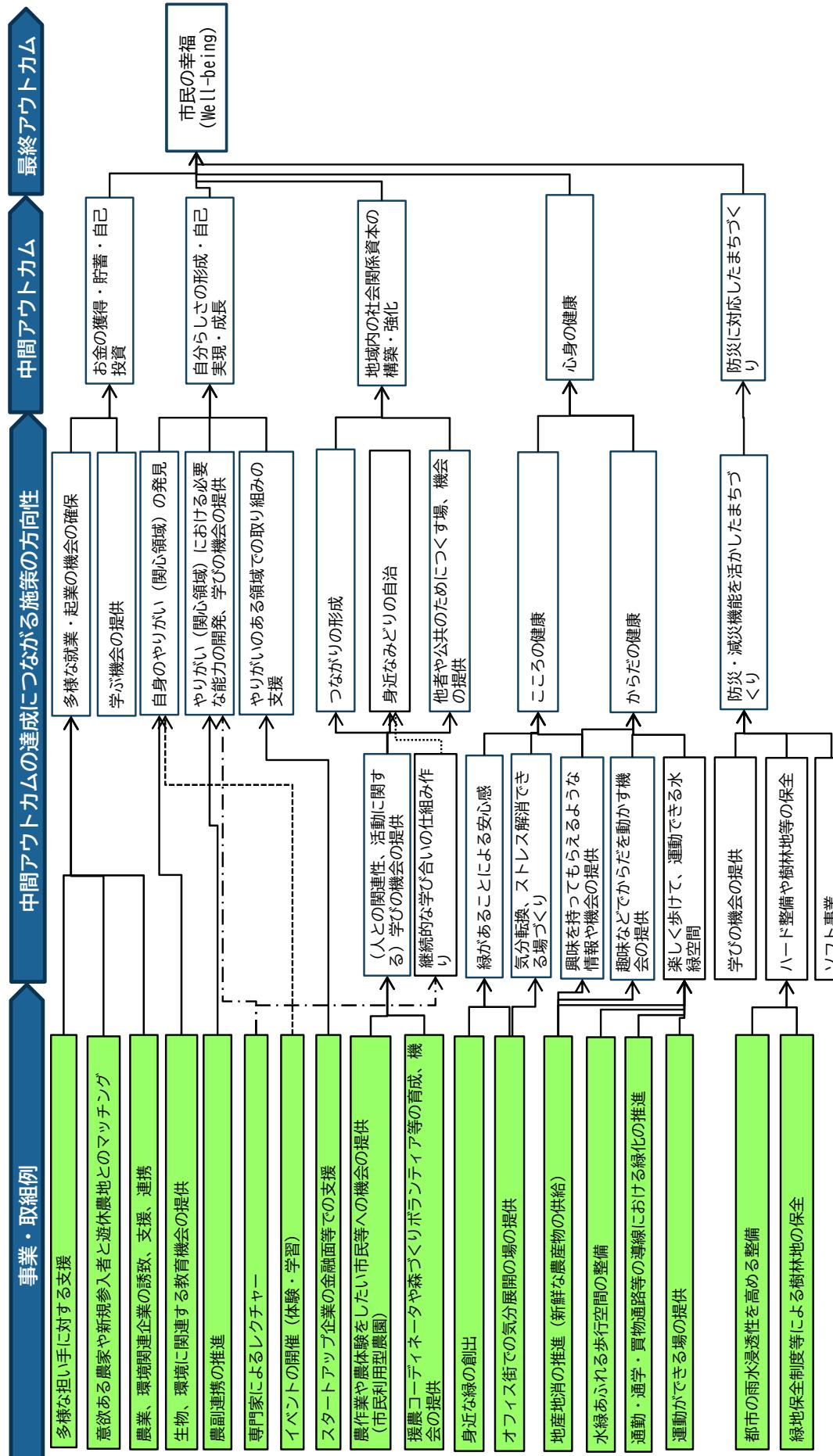
次に、検討する対象を絞り込み、「中間アウトカムにつながる施策の方向性」、「事業・取組」における関係性を検討するロジックツリーを作成した。いくつかの「中間アウトカム」を対象に検討したロジックツリーと横浜市の特徴である「緑の10大拠点」を対象に検討したロジックツリーを作成した。なお、このタイプでは、「中間アウトカムにつながる施策の方向性」、「事業・取組」の階層間をつなぐ矢印の線が複雑に絡み合うことになるため、矢印の線については複数の色や点線等を用いて作成している。

(1) 全体像のロジックツリー

本調査研究では、2つの最終アウトカムを設定しているが、それに基づき「市民の幸福」関連と「環境(自然資本)の維持・回復・充実」関連に分けて示す。

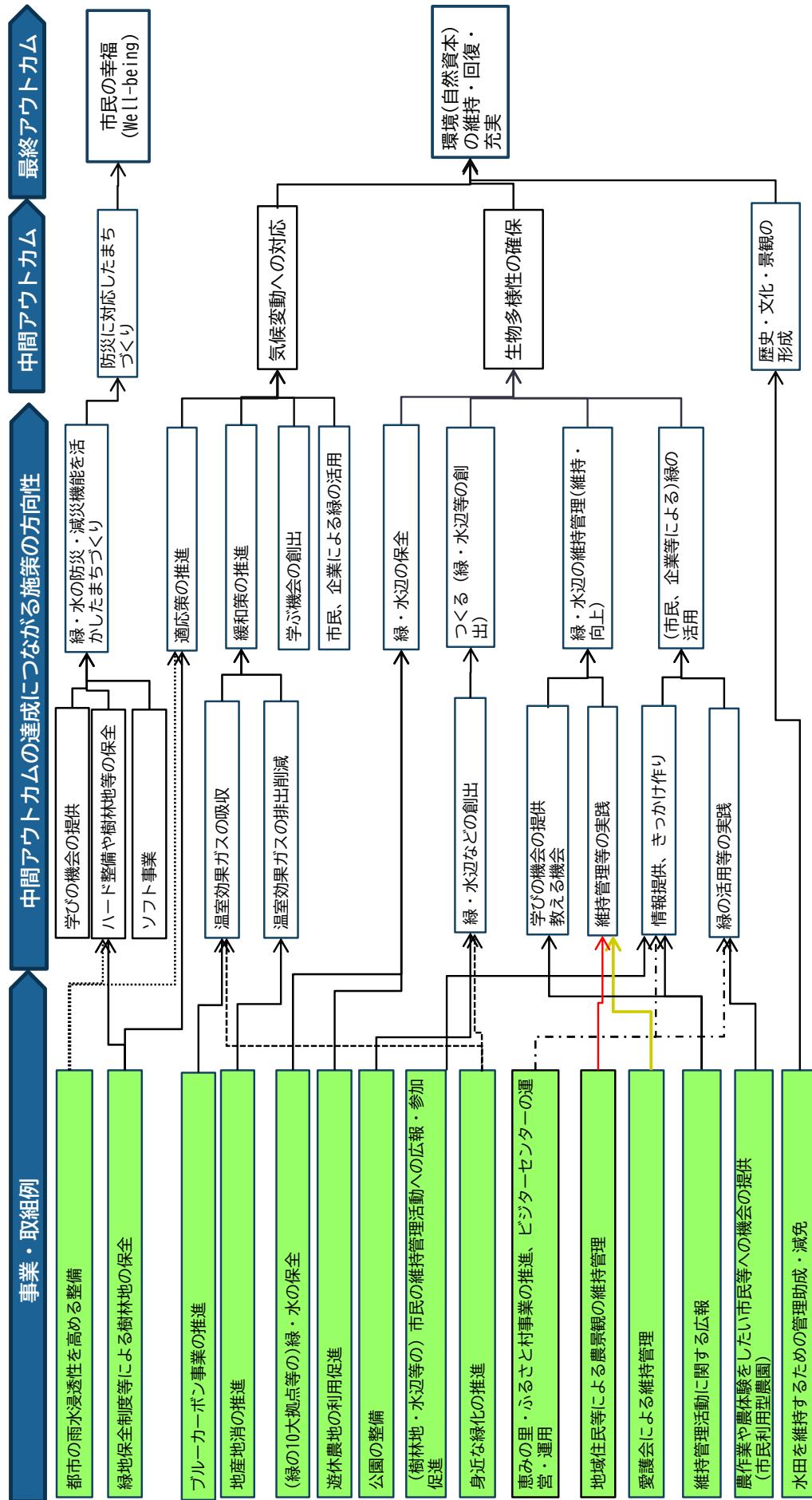
なお、「防災に対応したまちづくり」は「市民の幸福」関連に含めているが、樹林地の保全等の事業・取組が大きく関与することから、「環境(自然資本)の維持・回復・充実」関連のロジックツリーでも記載している。

図表 1-4-1 ロジックツリーの全体像（「市民の幸福」関連）



(注)「事業・取組例」から「中間アウトカム」に至る矢印には、「色や点線による施策の方向性」につながるようにした。

図表1-4-2 ロジックツリーの全体像（「環境（自然資本）の維持・回復・充実」関連）



（2）中間アウトカム同士の関係性を検討するロジックツリー

事業や取組によっては、環境と市民の幸福の両方に影響することが考えられる。そのため、環境関連の中間アウトカムと市民の幸福関連の中間アウトカムとの関係性を検討することとした。

環境については、今後も事業として継続することが前提であるため全ての中間アウトカムで検討することとした。

市民の幸福関連の中間アウトカムについては、これまで水・緑の機能として整理され、事業化されている点や、今後も事業の充実が求められる点を踏まえ、「地域内の社会関係資本の構築・強化」と「心身の健康」を取り上げた。

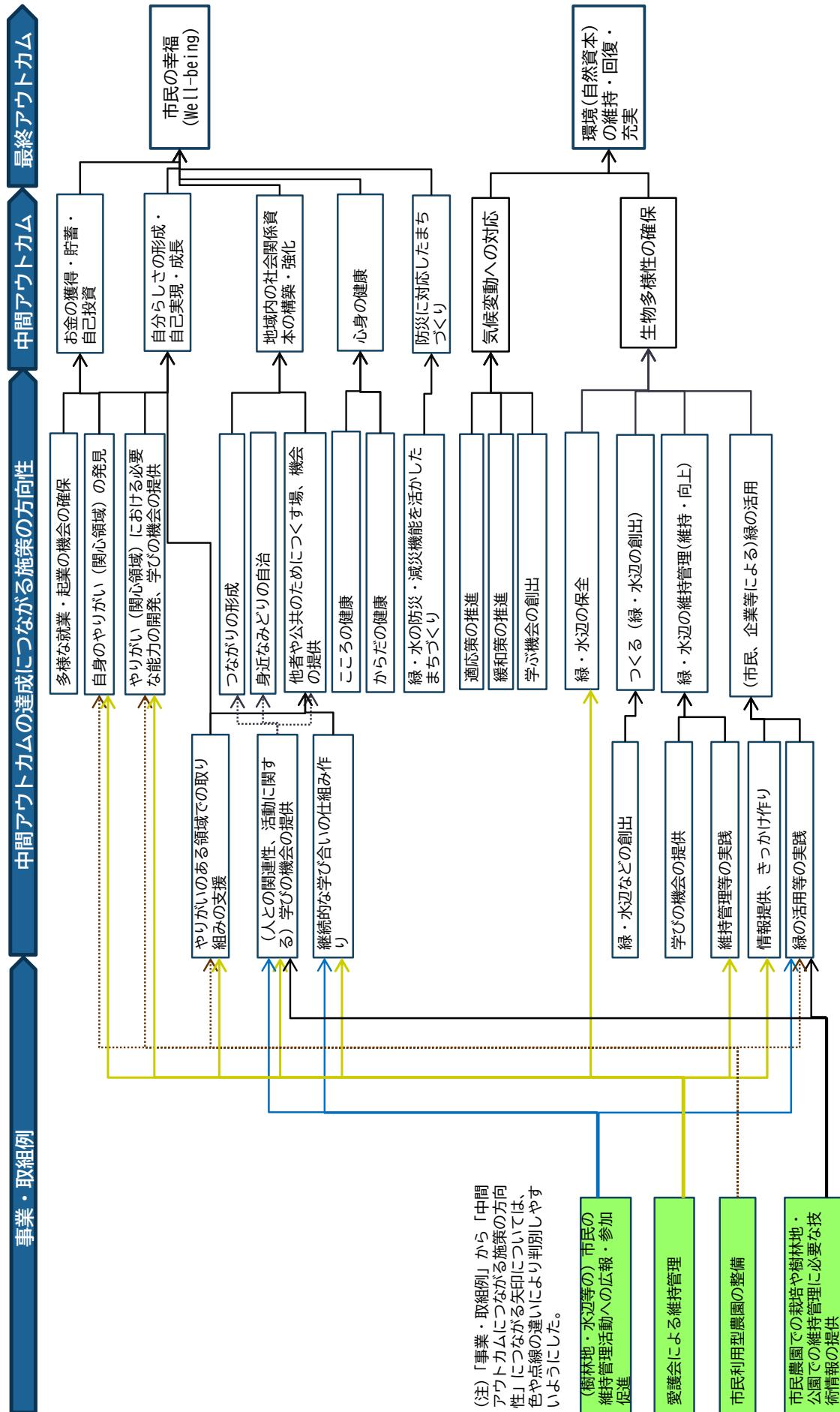
ア 地域内の社会関係資本の構築・強化と環境関連の中間アウトカムの関係性

「(樹林地・水辺等の) 市民の維持管理活動への広報・参加促進」「愛護会による維持管理」、「市民利用型農園の整備」「市民農園での栽培や樹林地・公園での維持管理に必要な技術情報の提供」は、「生物多様性の確保」のための施策、事業・取組であるが、「(人との関連性、活動に関する) 学びの機会の提供」や「継続的な学び合いの仕組み作り」等にもつながることが考えられる。

上記のような関係性から、例えば「愛護会による維持管理」を通じて、「つながりの形成」「他者や公共のためにつくす場、機会の提供」「身近な緑の自治」につながり、「地域内の社会関係資本の構築・強化」という中間アウトカムが達成されることが考えられる。

また、「市民利用型農園の整備」は「生物多様性の確保」のための施策、事業・取組であるが、市民の幸福の中間アウトカムである「お金の獲得・貯蓄・自己投資」及び「自分らしさの形成・自己実現・成長」にもつながることが考えられる。

図表 1-4-3 環境と地域内の社会関係資本の構築・強化等との関係性に関するロジックツリー



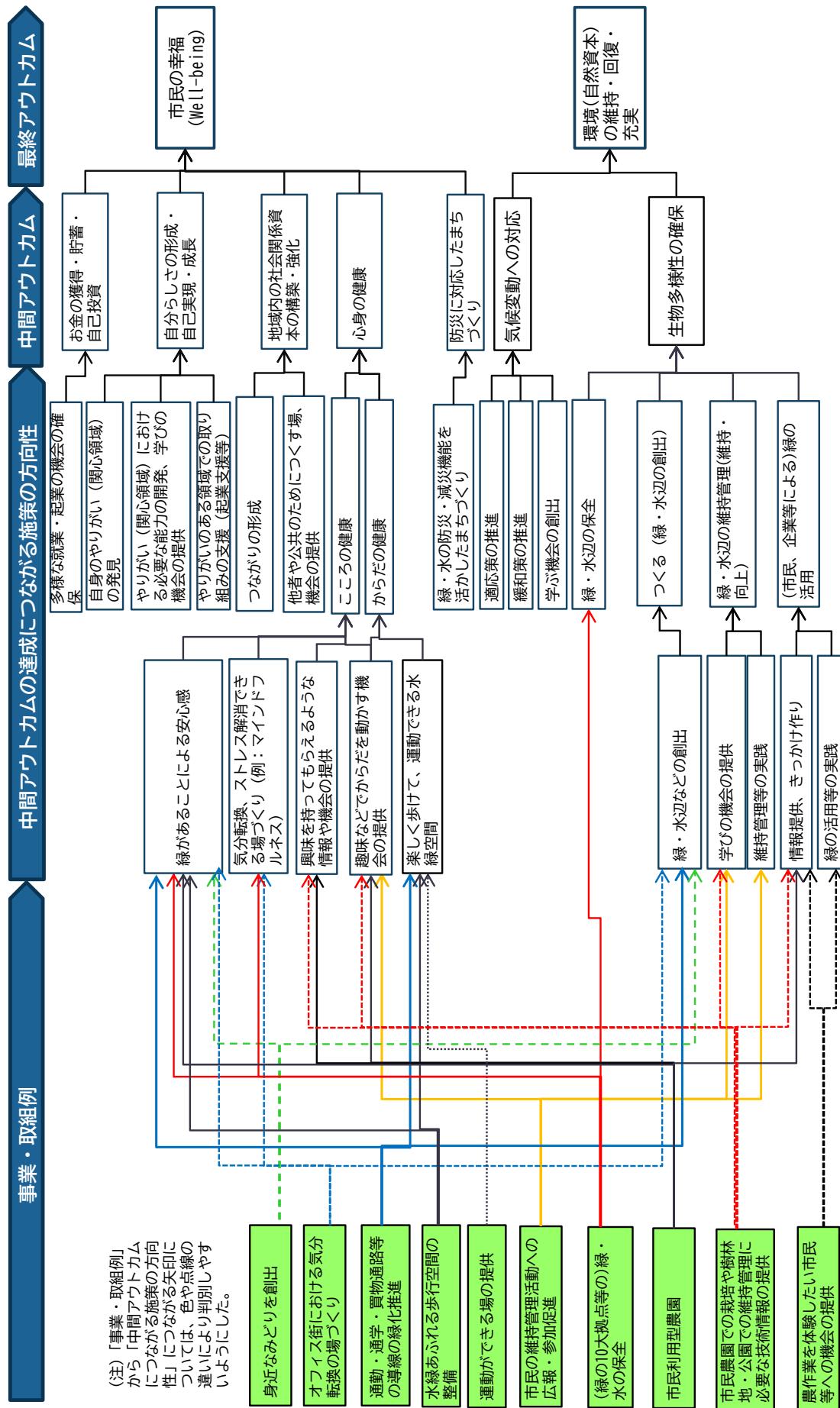
イ 心身の健康と環境関連の中間アウトカムの関係性

「身近なみどりの創出」「オフィス街における気分転換の場づくり」等の多くの事業・取組が、「心身の健康」にもつながることが考えられる。

例えば、「緑の10大拠点等の緑・水の保全」は、「緑があることによる安心感」や「気分転換、ストレス解消できる場づくり（例：マインドフルネス）」につながることが考えられる。

また、「水緑あふれる歩行空間の整備」「市民利用型農園」等の事業・取組については、「楽しく歩いて、運動できる水緑空間」や「趣味などでからだを動かす機会の提供」を通じて、「からだの健康」につながることが考えられる。

図表 1-4-4 心身の健康と環境の関係性に関するロジックツリー



(3) 特定のエリアについてのロジックツリー

本調査研究では、横浜市の特徴である「緑の 10 大拠点」を対象として、そこで望まれる事業・取組を検討し、ロジックツリーを作成することとした。

対象とするエリアは、横浜市が優先的に保全・活用し、次世代に継承していくものとしている「緑の 10 大拠点」を取り上げる。横浜市では、市内を流れる河川の源・上流域、中流域には、まとまりのある樹林地や農地、湧水や水辺など多様な自然や里山景観が残されており、生き物の生育・生息環境としても重要であることから、それらの緑を「緑の 10 大拠点」として位置付けている。「緑の 10 大拠点」は、子どもの国周辺地区、三保・新治地区、川井・矢指・上瀬谷地区、大池・今井・名瀬地区、舞岡・野庭地区、円海山周辺地区、小柴・富岡地区、都田・鴨居東本郷・菅田羽沢周辺地区、上飯田・和泉・中田周辺地区、下和泉・東俣野・深谷周辺地区からなる。

図表 1-4-5 緑の 10 大拠点

- ① 子どもの国周辺地区
- ② 三保・新治地区
- ③ 川井・矢指・上瀬谷地区
- ④ 大池・今井・名瀬地区
- ⑤ 舞岡・野庭地区
- ⑥ 円海山周辺地区
- ⑦ 小柴・富岡地区
- ⑧ 都田・鴨居東本郷・菅田羽沢周辺地区
- ⑨ 上飯田・和泉・中田周辺地区
- ⑩ 下和泉・東俣野・深谷周辺地区

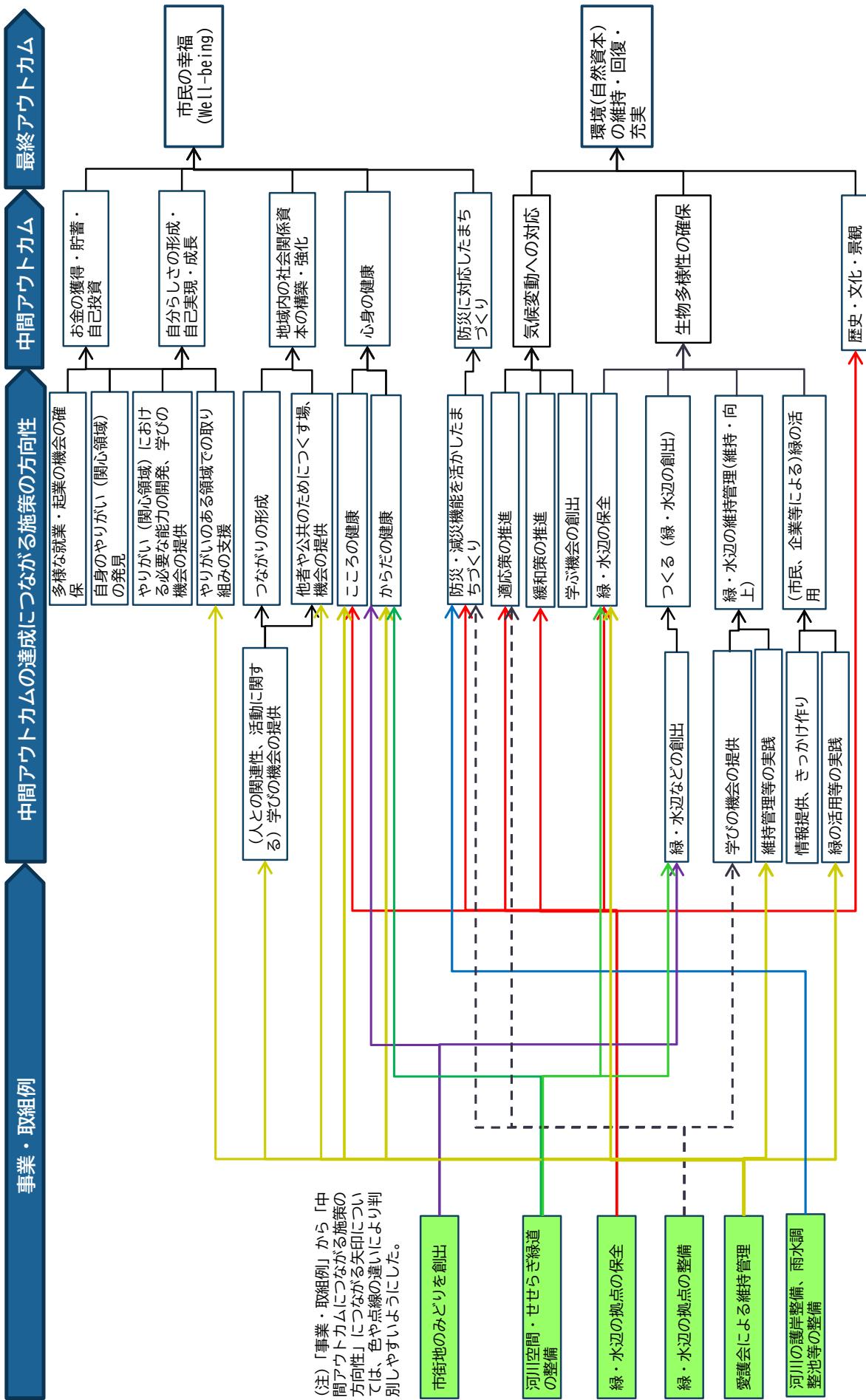


出所: 横浜市「横浜市水と緑の基本計画(平成 28 年6月改定)」

このような緑の10大拠点において、「緑・水辺の拠点の保全」等の保全を中心とした事業・取組が実施されているが、これらは「防災・減災機能を活かしたまちづくり」にもつながることが考えられる。

また、「愛護会による維持管理」（公園の場合は公園愛護会、河川の場合は水辺愛護会）が挙げられる。この活動は、「（人との関連性、活動に関する）学びの機会の提供」「他者や公共のためにつくす場、機会の提供」を可能にし、「地域内の社会関係資本の構築・強化」につながることが考えられる。

図表 1-4-6 緑の 10 大拠点におけるロジックツリー



(4) ターゲットとなる市民の属性

前述まではロジックツリーを用いて、今後実施すべき施策や事業・取組について検討してきた。次期計画に向けて、施策や事業・取組の内容を具体化することが求められる。

それにあたってはどのような市民が参加・活用等をしてくれそうかを定めること、つまりターゲットの設定が、施策や事業・取組の初期段階においても順調な普及につながると考えられる。また、施策や事業・取組の広げるためには、認知していない市民や不満をもっている市民をターゲットにすることが効果的であると考えられる。

以上から、本節では令和4年6月に実施した横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」をもとに、緑の施策、事業・取組に対し、参加・活用等をしてくれそうな市民の属性を検討した。

図表 1-4-7 横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」の概要

調査対象	市民 5,000 人 (住民基本台帳の満 18 歳以上の市民から無作為抽出)
実施期間	令和4年6月13日（月）から令和4年6月28日（火）まで
調査項目	森や農地、街なかの緑など、横浜の「緑や花」の大切さ、どのような緑があると良いか、緑との関わり方等
属性項目	居住地、年齢、就業状況、居住年数
回収数	1,785 票（回収率 35.7%）

出所:横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

同調査では、横浜市の緑（全般）の満足度に加え、以下の緑の施策、取組・事業に関する満足度を質問している。

- ・「まとまりのある森」の保全
- ・散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理
- ・自然観察会、クラフト教室など、森を楽しむきっかけづくり
- ・市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理
- ・収穫体験や農体験ができる場所の整備
- ・街路樹による美しい景観づくり
- ・地域で進める緑や花のまちづくり
- ・山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくり

なお、属性項目のうち居住区については、同調査では市内の18の区の市民より回答があり、区内の緑被率の高さから以下の3つのグループに分けて分析した。

高：30%以上

中：20%以上 30%未満

低：20%未満

図表1-4-8 緑被率による18区のグループ分け

区名	区面積(ha)	緑被地面積(ha)				緑被率	グループ分け
		樹林地	農地	草地	総計		
緑区	2,540	612	257	149	1,018	40.1%	高
栄区	1,850	529	51	131	711	38.4%	高
泉区	2,350	295	337	195	827	35.2%	高
戸塚区	3,580	756	207	271	1,234	34.5%	高
旭区	3,280	661	188	236	1,085	33.1%	高
金沢区	3,070	792	18	124	935	30.4%	高
瀬谷区	1,710	208	231	81	520	30.4%	高
都筑区	2,790	428	274	112	813	29.1%	中
保土ヶ谷区	2,180	404	82	142	628	28.8%	中
青葉区	3,520	577	251	165	993	28.2%	中
磯子区	1,900	362	13	119	493	26.0%	中
港北区	3,140	411	161	163	735	23.4%	中
神奈川区	2,360	236	164	88	487	20.6%	中
港南区	1,990	289	28	91	408	20.5%	中
南区	1,270	138	1	38	177	14.0%	低
中区	2,150	196	0	88	285	13.2%	低
鶴見区	3,250	253	15	129	397	12.2%	低
西区	700	52	0	25	76	10.9%	低

出所：「図表2-1-6 18区別の300m²以上の緑被地面積及び緑被率」より作成

ア 横浜市の緑の環境（全般）の満足度

横浜市の緑の環境（全般）に関する満足度について、「満足+やや満足」の全体の割合は54.5%で、多くの属性が50%以上であった。「満足+やや満足」の全体の割合が60%以上は、年齢では「29歳以下」「80歳以上」、就業状況では「学生」であった。

これに対し、「不満+やや不満」の割合が高い（15%以上）の属性については、居住地では「緑被率（低）の区」、年齢では「40～49歳」「60～69歳」、就業状況では「自営業」「主婦・主夫」、居住年数では「2年以上5年未満」であった。

図表1-4-9 横浜市の緑の環境（全般）における満足度の違い

	合計	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体	1423	15.7%	38.7%	32.1%	8.6%	4.3%	0.5%	54.5%	12.9%
居住区	緑被率（高）の区	16.6%	41.3%	30.6%	7.6%	3.6%	0.2%	57.9%	11.3%
	緑被率（中）の区	15.4%	39.7%	31.6%	8.7%	4.1%	0.5%	55.1%	12.9%
	緑被率（低）の区	14.3%	31.0%	37.2%	10.1%	6.2%	1.2%	45.3%	16.3%
	無回答	25.0%	41.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%
年齢	29歳以下	16.1%	45.5%	31.3%	3.6%	3.6%	0.0%	61.6%	7.1%
	30～39歳	23.2%	30.4%	33.3%	10.1%	2.9%	0.0%	53.6%	13.0%
	40～49歳	15.7%	35.7%	33.2%	9.4%	6.0%	0.0%	51.5%	15.3%
	50～59歳	16.0%	38.8%	32.0%	7.8%	5.1%	0.3%	54.8%	12.9%
	60～69歳	10.9%	38.1%	35.6%	9.3%	5.7%	0.4%	49.0%	15.0%
	70～79歳	15.2%	40.9%	31.6%	9.7%	2.5%	0.0%	56.1%	12.2%
	80歳以上	15.9%	44.1%	24.8%	9.0%	2.8%	3.4%	60.0%	11.7%
	無回答	26.7%	33.3%	33.3%	6.7%	0.0%	0.0%	60.0%	6.7%
就業状況	自営業	18.7%	36.0%	26.7%	9.3%	9.3%	0.0%	54.7%	18.7%
	会社員（注）	14.4%	37.9%	34.7%	8.7%	4.3%	0.0%	52.3%	13.0%
	主婦・主夫	17.0%	37.4%	29.1%	10.9%	4.5%	1.1%	54.3%	15.5%
	学生	14.6%	58.5%	22.0%	0.0%	4.9%	0.0%	73.2%	4.9%
	仕事はしていない	17.2%	39.9%	31.3%	7.8%	2.6%	1.1%	57.1%	10.4%
	無回答	20.0%	40.0%	30.0%	3.3%	3.3%	3.3%	60.0%	6.7%
居住年数	2年未満	23.2%	28.6%	44.6%	1.8%	1.8%	0.0%	51.8%	3.6%
	2年以上5年未満	23.3%	35.0%	25.0%	13.3%	3.3%	0.0%	58.3%	16.7%
	5年以上10年未満	20.6%	38.1%	27.8%	9.3%	4.1%	0.0%	58.8%	13.4%
	10年以上15年未満	15.9%	39.7%	31.7%	10.3%	1.6%	0.8%	55.6%	11.9%
	15年以上	14.4%	39.4%	32.5%	8.4%	4.9%	0.6%	53.7%	13.2%
	無回答	25.0%	41.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%

（注）会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「満足+やや満足」については50%以上の数字が赤字、「不満+やや不満」については10%以上の数字が赤字

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

イ 横浜市の施策、事業・取組に関する満足度

①各施策、事業・取組における満足度の違い

横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」によると、「満足+やや満足」の割合が50%以上（半数以上）の施策、事業・取組は、以下のようなであった。

- ・山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくり（68.0%）
- ・散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理（56.7%）
- ・街路樹による美しい景観づくり（54.1%）
- ・地域で進める緑や花のまちづくり（50.7%）

一方、「知らない・分からぬ」の割合が20%以上の施策、事業・取組は、以下のようにあった。

- ・自然観察会、クラフト教室など、森を楽しむきっかけづくり（27.9%）
- ・収穫体験や農体験ができる場所の整備（26.2%）
- ・市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理（24.0%）

図表 1-4-10 各施策、事業・取組における満足度の違い

	満足	どちらかといえど満足	どちらともいえない	どちらかといえど不満	不満	知らない・わからぬ	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
「まとまりのある森」の保全	15.5%	33.7%	24.5%	3.4%	1.6%	18.6%	2.6%	49.3%	5.0%
散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理	18.8%	37.9%	19.7%	4.6%	1.1%	15.8%	2.1%	56.7%	5.7%
自然観察会、クラフト教室など、森を楽しむきっかけづくり	9.3%	23.0%	32.2%	4.0%	1.2%	27.9%	2.4%	32.3%	5.2%
市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理	12.6%	25.5%	29.1%	4.5%	1.8%	24.0%	2.6%	38.1%	6.3%
収穫体験や農体験ができる場所の整備	9.6%	20.9%	31.3%	7.1%	1.4%	25.2%	3.6%	30.4%	8.5%
街路樹による美しい景観づくり	15.6%	38.5%	21.8%	10.5%	5.1%	6.5%	2.1%	54.1%	15.5%
地域で進める緑や花のまちづくり	14.7%	36.0%	25.1%	6.2%	3.0%	12.5%	2.5%	50.7%	9.2%
山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくり	28.0%	40.0%	15.7%	2.5%	2.0%	10.3%	1.6%	68.0%	4.4%

「満足」については、■は20%以上。「満足+やや満足」については、■は50%以上。

「知らない・わからぬ」については、■は20%以上。「不満+やや不満」については、■は10%以上。

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

以降では、施策、事業・取組ごとにターゲットとなる市民の属性を検討した。

②「まとまりのある森」の保全

「満足+やや満足」の全体の割合が49.3%で、50%以上の属性は多数存在する。

「知らない・わからない」の割合が高い（25%以上）属性は、居住地では「緑被率(低)の区」、年齢では「30～39歳」、居住年数では「2年末満」である。

「不満+やや不満」の全体の割合は5.0%で、居住区の「無回答」を除くと、すべての属性で10%未満である。

図表 1-4-11 「まとまりのある森」の保全における属性別満足度の違い

		合計	満足	どちらかといえれば満足	どちらともいえない	どちらかといえなく不満	不満	知らない・わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体		1423	15.5%	33.7%	24.5%	3.4%	1.6%	18.6%	2.6%	49.3%	5.0%
居住区	緑被率(高)の区	523	17.6%	34.2%	24.7%	3.8%	1.0%	15.5%	3.3%	51.8%	4.8%
	緑被率(中)の区	630	15.1%	36.3%	23.7%	3.3%	1.7%	17.5%	2.4%	51.4%	5.1%
	緑被率(低)の区	258	11.6%	26.7%	26.4%	1.9%	2.7%	28.7%	1.9%	38.4%	4.7%
	無回答	12	33.3%	25.0%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	58.3%	16.7%
年齢	29歳以下	112	17.0%	33.0%	22.3%	2.7%	0.9%	23.2%	0.9%	50.0%	3.6%
	30～39歳	138	15.2%	28.3%	22.5%	0.7%	0.7%	31.9%	0.7%	43.5%	1.4%
	40～49歳	235	20.0%	30.2%	22.6%	4.3%	1.7%	20.9%	0.4%	50.2%	6.0%
	50～59歳	294	18.7%	34.0%	24.8%	2.0%	1.7%	17.3%	1.4%	52.7%	3.7%
	60～69歳	247	12.1%	32.8%	28.7%	3.2%	2.4%	19.4%	1.2%	44.9%	5.7%
	70～79歳	237	11.4%	41.8%	24.9%	4.6%	1.7%	12.2%	3.4%	53.2%	6.3%
	80歳以上	145	12.4%	33.1%	22.8%	5.5%	1.4%	11.7%	13.1%	45.5%	6.9%
	無回答	15	26.7%	33.3%	26.7%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	60.0%	6.7%
就業状況	自営業	75	22.7%	30.7%	20.0%	5.3%	1.3%	20.0%	0.0%	53.3%	6.7%
	会社員（注）	744	15.6%	32.8%	24.6%	3.2%	1.7%	21.0%	1.1%	48.4%	5.0%
	主婦・主夫	265	12.8%	34.3%	27.5%	3.0%	0.8%	15.8%	5.7%	47.2%	3.8%
	学生	41	22.0%	36.6%	19.5%	0.0%	2.4%	17.1%	2.4%	58.5%	2.4%
	仕事はしていない	268	14.6%	36.6%	22.4%	3.7%	2.2%	16.4%	4.1%	51.1%	6.0%
	無回答	30	20.0%	30.0%	33.3%	6.7%	0.0%	3.3%	6.7%	50.0%	6.7%
居住年数	2年末満	56	16.1%	26.8%	17.9%	1.8%	0.0%	37.5%	0.0%	42.9%	1.8%
	2年以上5年末満	60	25.0%	33.3%	20.0%	1.7%	0.0%	16.7%	3.3%	58.3%	1.7%
	5年以上10年末満	97	20.6%	37.1%	16.5%	6.2%	1.0%	17.5%	1.0%	57.7%	7.2%
	10年以上15年末満	126	17.5%	27.8%	27.8%	1.6%	0.8%	22.2%	2.4%	45.2%	2.4%
	15年以上	1072	14.1%	34.6%	25.4%	3.5%	2.0%	17.6%	2.9%	48.7%	5.4%
	無回答	12	33.3%	25.0%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	58.3%	8.3%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については50%以上の数字が赤字、「不満・やや不満」については10%以上の数字が赤字

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

③散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理

「満足+やや満足」の全体の割合は 56.7%で、多くの属性が 50%以上である。60%以上の属性は、居住区では「緑被率(高)の区」、年齢では「50~59 歳」、就業状況では「学生」、居住年数では「5 年以上 10 年未満」、「10 年以上 15 年未満」であった。

「知らない・わからない」の割合が高い（25%以上）属性は、年齢では「30~39 歳」、居住年数では「2 年未満」であった。なお、年数が短いほど「知らない・わからない」の割合が高くなる傾向が見られた。

「不満+やや不満」については、居住区の「無回答」を除くと、すべての属性で 10%未満であった。

図表 1-4-12 散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理における属性別満足度の違い

	合計	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	知らない・わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体	1423	18.8%	37.9%	19.7%	4.6%	1.1%	15.8%	2.1%	56.7%	5.7%
居住区	緑被率(高)の区	523	20.3%	40.0%	19.3%	4.2%	1.1%	12.4%	2.7%	60.2%
	緑被率(中)の区	630	19.0%	38.7%	18.7%	4.9%	0.8%	16.3%	1.4%	57.8%
	緑被率(低)の区	258	14.0%	32.9%	22.9%	4.3%	1.9%	21.3%	2.7%	46.9%
	無回答	12	33.3%	25.0%	25.0%	16.7%	0.0%	0.0%	58.3%	16.7%
年齢	29 歳以下	112	18.8%	39.3%	16.1%	1.8%	0.9%	23.2%	0.0%	58.0%
	30~39 歳	138	20.3%	31.2%	16.7%	3.6%	1.4%	26.8%	0.0%	51.4%
	40~49 歳	235	23.0%	33.2%	19.1%	4.3%	1.3%	17.9%	1.3%	56.2%
	50~59 歳	294	21.8%	40.8%	18.0%	3.4%	2.0%	12.6%	1.4%	62.6%
	60~69 歳	247	15.0%	37.7%	23.1%	7.7%	1.2%	14.2%	1.2%	52.6%
	70~79 歳	237	16.0%	43.0%	23.6%	4.6%	0.4%	10.5%	1.7%	59.1%
	80 歳以上	145	13.8%	38.6%	17.2%	5.5%	0.0%	13.8%	11.0%	52.4%
	無回答	15	33.3%	26.7%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%
就業状況	自営業	75	22.7%	34.7%	14.7%	5.3%	2.7%	20.0%	0.0%	57.3%
	会社員（注）	744	19.6%	36.4%	20.2%	4.3%	1.3%	17.1%	1.1%	56.0%
	主婦・主夫	265	15.8%	42.3%	21.1%	6.0%	0.4%	10.9%	3.4%	58.1%
	学生	41	24.4%	39.0%	12.2%	0.0%	2.4%	22.0%	0.0%	63.4%
	仕事はしていない	268	16.0%	38.8%	20.1%	4.9%	0.7%	15.3%	4.1%	54.9%
	無回答	30	30.0%	36.7%	13.3%	0.0%	0.0%	13.3%	6.7%	66.7%
居住年数	2 年未満	56	17.9%	30.4%	19.6%	3.6%	0.0%	28.6%	0.0%	48.2%
	2 年以上 5 年未満	60	21.7%	36.7%	13.3%	3.3%	0.0%	20.0%	5.0%	58.3%
	5 年以上 10 年未満	97	24.7%	36.1%	16.5%	4.1%	2.1%	15.5%	1.0%	60.8%
	10 年以上 15 年未満	126	23.8%	36.5%	19.0%	3.2%	0.0%	17.5%	0.0%	60.3%
	15 年以上	1072	17.3%	39.0%	20.3%	4.9%	1.3%	14.7%	2.4%	56.3%
	無回答	12	41.7%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	58.3%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については 20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については 50%以上の数字が赤字、「不満+やや不満」については 10%以上の数字が赤字

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

④収穫体験や農体験ができる場所の整備

「満足+やや満足」の割合が高い（40%以上）属性は、居住年数では「5年以上10年未満」であった。

「知らない・わからない」の全体の割合が27.9%で、「主婦・主夫」を除くすべての属性で20%以上である。30%以上の属性は、居住区では「緑被率(低)の区」、年齢では「29歳以下」「30~39歳」、就業状況では「自営業」「会社員」「学生」、居住年数では「2年未満」「2年以上5年未満」であった。

「不満+やや不満」については、すべての属性で10%未満であった。

図表1-4-13 収穫体験や農体験ができる場所の整備における属性別満足度の違い

		合計	満足	どちらかといえども満足	どちらともいえない	どちらかといえども不満	不満	知らない・わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体		1423	9.3%	23.0%	32.2%	4.0%	1.2%	27.9%	2.4%	32.3%	5.2%
居住区	緑被率(高)の区	91	9.9%	24.7%	31.5%	4.6%	1.3%	24.9%	3.1%	34.6%	5.9%
	緑被率(中)の区	46	9.7%	23.0%	31.7%	3.7%	1.0%	29.2%	1.7%	32.7%	4.6%
	緑被率(低)の区	70	5.8%	19.8%	36.0%	3.5%	1.6%	30.6%	2.7%	25.6%	5.0%
	無回答	12	33.3%	25.0%	0.0%	8.3%	0.0%	33.3%	0.0%	58.3%	8.3%
年齢	29歳以下	112	13.4%	24.1%	25.0%	3.6%	0.9%	32.1%	0.9%	37.5%	4.5%
	30~39歳	138	8.7%	23.2%	29.0%	1.4%	2.2%	34.8%	0.7%	31.9%	3.6%
	40~49歳	235	15.7%	19.6%	29.4%	4.3%	0.9%	29.8%	0.4%	35.3%	5.1%
	50~59歳	294	10.5%	27.2%	29.3%	2.0%	1.7%	27.9%	1.4%	37.8%	3.7%
	60~69歳	247	3.6%	22.3%	39.7%	5.7%	1.2%	26.7%	0.8%	25.9%	6.9%
	70~79歳	237	6.8%	23.6%	39.2%	5.1%	0.4%	22.8%	2.1%	30.4%	5.5%
	80歳以上	145	5.5%	18.6%	29.7%	6.2%	1.4%	24.8%	13.8%	24.1%	7.6%
	無回答	15	26.7%	33.3%	6.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	60.0%	0.0%
	自営業	75	9.3%	24.0%	30.7%	4.0%	1.3%	30.7%	0.0%	33.3%	5.3%
就業状況	会社員(注)	744	9.8%	22.8%	30.8%	4.2%	1.3%	30.0%	1.1%	32.7%	5.5%
	主婦・主夫	265	8.3%	25.3%	39.6%	3.4%	1.1%	19.6%	2.6%	33.6%	4.5%
	学生	41	14.6%	22.0%	24.4%	2.4%	2.4%	31.7%	2.4%	36.6%	4.9%
	仕事はしていない	268	7.5%	20.1%	31.7%	4.9%	0.7%	29.1%	6.0%	27.6%	5.6%
	無回答	30	13.3%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%	26.7%	6.7%	46.7%	0.0%
	2年未満	56	8.9%	17.9%	33.9%	0.0%	0.0%	39.3%	0.0%	26.8%	0.0%
居住年数	2年以上5年未満	60	13.3%	21.7%	25.0%	3.3%	0.0%	31.7%	5.0%	35.0%	3.3%
	5年以上10年未満	97	17.5%	23.7%	24.7%	3.1%	3.1%	27.8%	0.0%	41.2%	6.2%
	10年以上15年未満	126	11.1%	27.0%	25.4%	5.6%	0.0%	29.4%	1.6%	38.1%	5.6%
	15年以上	1072	7.8%	22.9%	34.2%	4.2%	1.3%	26.9%	2.7%	30.7%	5.5%
	無回答	12	33.3%	25.0%	8.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	58.3%	0.0%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については50%以上の数字が赤字、「不満+やや不満」については10%以上の数字が赤字

出所:横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

⑤市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理

「満足+やや満足」の割合が高い（45%以上）属性は、年齢では「29歳以下」、就業状況では「自営業」「学生」、居住年数では「5年以上10年未満」であった。

「知らない・わからない」の割合が24.0%で、居住区の「緑被率(高)の区」を除くすべての属性で20%以上であった。30%以上の属性については、居住区では「緑被率(低)の区」、就業状況では「自営業」、居住年数では「2年未満」であった。

「不満+やや不満」については、年齢の「80歳以上」を除くと、すべての属性で10%未満であった。

図表 1-4-14 市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理における属性別満足度の違い

		合計	満足	どちらかといえれば満足	どちらともいえない	どちらかといえれば不満	不満	知らない・わからぬ	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体		1423	12.6%	25.5%	29.1%	4.5%	1.8%	24.0%	2.6%	38.1%	6.3%
居住区	緑被率(高)の区	91	14.0%	27.7%	30.8%	5.0%	1.0%	18.4%	3.3%	41.7%	5.9%
	緑被率(中)の区	82	13.5%	25.2%	26.3%	4.8%	2.2%	25.9%	2.1%	38.7%	7.0%
	緑被率(低)の区	49	6.6%	21.7%	32.6%	3.1%	1.9%	31.4%	2.7%	28.3%	5.0%
	無回答	12	33.3%	25.0%	25.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	58.3%	8.3%
年齢	29歳以下	112	16.1%	31.3%	17.0%	3.6%	2.7%	28.6%	0.9%	47.3%	6.3%
	30～39歳	138	13.8%	27.5%	26.1%	3.6%	1.4%	27.5%	0.0%	41.3%	5.1%
	40～49歳	235	17.0%	27.7%	26.0%	2.1%	1.3%	24.7%	1.3%	44.7%	3.4%
	50～59歳	294	15.3%	27.9%	27.6%	2.0%	1.4%	23.8%	2.0%	43.2%	3.4%
	60～69歳	247	6.1%	24.7%	35.6%	6.5%	1.6%	23.9%	1.6%	30.8%	8.1%
	70～79歳	237	11.4%	21.5%	35.4%	6.3%	1.7%	21.9%	1.7%	32.9%	8.0%
	80歳以上	145	7.6%	18.6%	27.6%	8.3%	3.4%	21.4%	13.1%	26.2%	11.7%
	無回答	15	26.7%	26.7%	33.3%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	53.3%	6.7%
就業状況	自営業	75	21.3%	25.3%	17.3%	4.0%	1.3%	30.7%	0.0%	46.7%	5.3%
	会社員（注）	744	12.8%	27.6%	28.0%	4.2%	1.5%	24.5%	1.6%	40.3%	5.6%
	主婦・主夫	265	9.8%	26.4%	34.3%	4.9%	0.8%	20.8%	3.0%	36.2%	5.7%
	学生	41	14.6%	31.7%	19.5%	0.0%	4.9%	26.8%	2.4%	46.3%	4.9%
	仕事はしていない	268	11.6%	18.3%	31.3%	6.3%	3.4%	23.9%	5.2%	29.9%	9.7%
	無回答	30	16.7%	23.3%	33.3%	0.0%	0.0%	20.0%	6.7%	40.0%	0.0%
居住年数	2年未満	56	14.3%	16.1%	30.4%	1.8%	1.8%	35.7%	0.0%	30.4%	3.6%
	2年以上5年未満	60	15.0%	26.7%	21.7%	0.0%	1.7%	30.0%	5.0%	41.7%	1.7%
	5年以上10年未満	97	17.5%	30.9%	23.7%	2.1%	1.0%	24.7%	0.0%	48.5%	3.1%
	10年以上15年未満	126	12.7%	27.0%	31.0%	3.2%	0.0%	23.8%	2.4%	39.7%	3.2%
	15年以上	1072	11.7%	25.3%	29.7%	5.3%	2.1%	23.1%	2.9%	36.9%	7.4%
	無回答	12	33.3%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	58.3%	0.0%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからぬ」については20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については50%以上の数字が赤字、「不満・やや不満」については10%以上の数字が赤字

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

⑥収穫体験や農体験ができる場所の整備

「満足+やや満足」の割合が高い（40%以上）属性は、年齢では「29歳以下」、居住年数では「5年以上10年未満」であった。

「知らない・わからない」の全体の割合が26.2%で、多くの属性で20%以上である。30%以上の属性は、居住区では「緑被率(中)の区」、年齢では「30～39歳」、就業状況では「自営業」「学生」、居住年数では「2年未満」「2年以上5年未満」であった。

「不満+やや不満」の割合が高い（10%以上）属性は、居住区では「緑被率(低)の区」、年齢では「40～49歳」「80歳以上」、就業状況では「仕事はしていない」、居住年数では「10年以上15年未満」であった。

図表1-4-15 収穫体験や農体験ができる場所の整備における属性別満足度の違い

	合計	満足	どちらかといえれば満足	どちらともいえない	どちらかといえれば不満	不満	知らない・わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体	1423	9.6%	20.9%	31.3%	7.1%	1.4%	26.2%	3.6%	30.4%	8.5%
居住区	緑被率(高)の区	523	10.3%	22.8%	32.9%	8.0%	1.0%	20.8%	4.2%	33.1%
	緑被率(中)の区	630	9.7%	21.4%	28.3%	5.9%	1.6%	30.2%	3.0%	31.1%
	緑被率(低)の区	258	6.6%	15.1%	36.4%	8.1%	1.9%	27.9%	3.9%	21.7%
	無回答	12	33.3%	33.3%	8.3%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%	66.7%
年齢	29歳以下	112	17.0%	23.2%	25.9%	4.5%	0.9%	27.7%	0.9%	40.2%
	30～39歳	138	13.8%	18.8%	25.4%	7.2%	2.2%	31.2%	1.4%	32.6%
	40～49歳	235	13.2%	23.8%	26.4%	9.4%	0.9%	25.1%	1.3%	37.0%
	50～59歳	294	12.6%	24.1%	29.6%	4.1%	1.0%	26.2%	2.4%	36.7%
	60～69歳	247	2.8%	21.1%	36.0%	8.1%	2.4%	26.7%	2.8%	23.9%
	70～79歳	237	5.9%	17.3%	40.9%	6.3%	1.3%	24.5%	3.8%	23.2%
	80歳以上	145	3.4%	13.1%	29.7%	11.7%	1.4%	25.5%	15.2%	16.6%
	無回答	15	26.7%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	66.7%
就業状況	自営業	75	10.7%	26.7%	24.0%	6.7%	1.3%	30.7%	0.0%	37.3%
	会社員（注）	744	10.6%	22.3%	30.5%	6.9%	1.5%	26.2%	2.0%	32.9%
	主婦・主夫	265	6.4%	21.9%	33.6%	7.9%	0.4%	25.3%	4.5%	28.3%
	学生	41	19.5%	14.6%	24.4%	4.9%	2.4%	31.7%	2.4%	34.1%
	仕事はしていない	268	6.7%	15.3%	34.7%	7.8%	2.2%	25.7%	7.5%	22.0%
	無回答	30	20.0%	20.0%	26.7%	3.3%	0.0%	20.0%	10.0%	40.0%
	（注）会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む									
居住年数	2年未満	56	12.5%	16.1%	17.9%	8.9%	0.0%	42.9%	1.8%	28.6%
	2年以上5年未満	60	15.0%	21.7%	21.7%	5.0%	1.7%	30.0%	5.0%	36.7%
	5年以上10年未満	97	18.6%	23.7%	23.7%	8.2%	1.0%	21.6%	3.1%	42.3%
	10年以上15年未満	126	10.3%	20.6%	27.8%	11.1%	0.0%	29.4%	0.8%	31.0%
	15年以上	1072	7.9%	20.7%	33.8%	6.6%	1.7%	25.3%	4.0%	28.6%
	無回答	12	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	66.7%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については50%以上の数字が赤字、「不満・やや不満」については10%以上の数字が赤字

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

⑦街路樹による美しい景観づくり

「満足+やや満足」の全体の割合が54.1%で、多くの属性で50%以上であった。60%以上は、以下の属性は、年齢では「29歳以下」「30~39歳」、就業状況では「学生」、居住年数では「2年未満」「5年以上10年未満」であった。

「知らない・わからない」の全体の割合が6.5%で、年齢の「29歳以下」、居住年数では「2年未満」「2年以上5年未満」を除く属性で10%未満であった。

「不満+やや不満」の全体の割合が15.5%で、年齢の「29歳以下」、就業状況の「学生」、居住年数の「無回答」を除くすべての属性で10%以上であった。

図表1-4-16 街路樹による美しい景観づくりにおける属性別満足度の違い

		合計	満足	どちらかといえれば満足	どちらともいえない	どちらかといえれば不満	不満	知らない・わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体		1423	15.6%	38.5%	21.8%	10.5%	5.1%	6.5%	2.1%	54.1%	15.5%
居住区	緑被率(高)の区	523	15.9%	39.4%	22.2%	9.2%	5.0%	5.9%	2.5%	55.3%	14.1%
	緑被率(中)の区	630	16.0%	39.2%	20.5%	11.0%	5.6%	6.0%	1.7%	55.2%	16.5%
	緑被率(低)の区	258	13.6%	35.7%	23.6%	12.0%	3.9%	8.9%	2.3%	49.2%	15.9%
	無回答	12	25.0%	25.0%	33.3%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	50.0%	16.7%
年齢	29歳以下	112	17.9%	44.6%	17.0%	4.5%	3.6%	11.6%	0.9%	62.5%	8.0%
	30~39歳	138	19.6%	40.6%	15.9%	12.3%	2.2%	9.4%	0.0%	60.1%	14.5%
	40~49歳	235	19.6%	32.8%	22.6%	9.8%	6.8%	8.5%	0.0%	52.3%	16.6%
	50~59歳	294	18.4%	39.5%	21.4%	9.2%	4.8%	5.8%	1.0%	57.8%	13.9%
	60~69歳	247	10.5%	38.5%	24.7%	13.8%	6.5%	4.5%	1.6%	49.0%	20.2%
	70~79歳	237	12.7%	42.6%	22.8%	11.4%	5.1%	3.4%	2.1%	55.3%	16.5%
	80歳以上	145	10.3%	33.1%	23.4%	9.7%	4.8%	6.9%	11.7%	43.4%	14.5%
	無回答	15	26.7%	33.3%	26.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	13.3%
就業状況	自営業	75	17.3%	38.7%	21.3%	12.0%	5.3%	4.0%	1.3%	56.0%	17.3%
	会社員(注)	744	16.3%	37.6%	21.5%	10.8%	5.2%	7.8%	0.8%	53.9%	16.0%
	主婦・主夫	265	15.1%	41.1%	23.4%	9.4%	4.2%	4.2%	2.6%	56.2%	13.6%
	学生	41	19.5%	51.2%	14.6%	4.9%	2.4%	4.9%	2.4%	70.7%	7.3%
	仕事はしていない	268	13.1%	36.6%	22.0%	11.2%	6.0%	6.7%	4.5%	49.6%	17.2%
	無回答	30	16.7%	36.7%	23.3%	10.0%	3.3%	0.0%	10.0%	53.3%	13.3%
居住年数	2年未満	56	21.4%	39.3%	16.1%	10.7%	0.0%	12.5%	0.0%	60.7%	0.7%
	2年以上5年未満	60	16.7%	30.0%	18.3%	10.0%	6.7%	13.3%	5.0%	46.7%	16.7%
	5年以上10年未満	97	21.6%	40.2%	13.4%	11.3%	7.2%	6.2%	0.0%	61.9%	18.6%
	10年以上15年未満	126	17.5%	36.5%	23.0%	10.3%	2.4%	8.7%	1.6%	54.0%	12.7%
	15年以上	1072	14.4%	39.2%	22.7%	10.4%	5.4%	5.6%	2.3%	53.5%	15.9%
	無回答	12	25.0%	25.0%	41.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	8.3%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については50%以上の数字が赤字、「不満+やや不満」については10%以上の数字が赤字

出所:横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

⑧地域で進める緑や花のまちづくり

「満足+やや満足」の全体の割合が 50.7%で、多くの属性において 50%以上であった。

「満足+やや満足」の割合が 60%以上の属性は、年齢では「29歳以下」、就業状況では「学生」であった。

「知らない・わからない」の全体の割合が 12.5%で、すべての属性で 20%未満であった。

「不満+やや不満」の割合が高い（10%以上）属性は、年齢では「30～39歳」「40～49歳」「60～69歳」、就業状況では「会社員」、居住年数では「2年以上5年未満」「10年以上15年未満」であった。

図表 1-4-17 地域で進める緑や花のまちづくりにおける属性別満足度の違い

		合計	満足	どちらか といえれば 満足	どちらと もいえない	どちらか といえれば 不満	不満	知らな い・わか らない	無回答	満足+やや 満足	不満+やや 不満
全体		1423	14.7%	36.0%	25.1%	6.2%	3.0%	12.5%	2.5%	50.7%	9.2%
居住区	緑被率(高)の区	523	13.6%	36.7%	26.6%	6.5%	3.1%	10.5%	3.1%	50.3%	9.6%
	緑被率(中)の区	630	15.9%	36.3%	23.3%	6.0%	3.2%	13.0%	2.2%	52.2%	9.2%
	緑被率(低)の区	258	13.6%	32.9%	26.7%	6.2%	2.3%	15.9%	2.3%	46.5%	8.5%
	無回答	12	25.0%	50.0%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	75.0%	8.3%
年齢	29歳以下	112	21.4%	40.2%	14.3%	4.5%	1.8%	17.0%	0.9%	61.6%	6.3%
	30～39歳	138	20.3%	32.6%	19.6%	8.7%	2.9%	15.2%	0.7%	52.9%	11.6%
	40～49歳	235	17.9%	35.3%	22.6%	4.7%	5.5%	13.6%	0.4%	53.2%	10.2%
	50～59歳	294	15.3%	37.8%	24.5%	6.8%	2.4%	11.2%	2.0%	53.1%	9.2%
	60～69歳	247	8.1%	36.0%	32.4%	6.5%	4.0%	11.7%	1.2%	44.1%	10.5%
	70～79歳	237	12.2%	38.8%	29.1%	5.5%	1.7%	10.5%	2.1%	51.1%	7.2%
	80歳以上	145	11.7%	26.9%	25.5%	7.6%	2.1%	13.1%	13.1%	38.6%	9.7%
	無回答	15	26.7%	53.3%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%
就業状況	自営業	75	16.0%	37.3%	24.0%	6.7%	2.7%	13.3%	0.0%	53.3%	9.3%
	会社員（注）	744	14.7%	35.6%	24.7%	6.9%	3.6%	13.3%	1.2%	50.3%	10.5%
	主婦・主夫	265	12.1%	41.9%	24.5%	6.4%	3.0%	8.7%	3.4%	54.0%	9.4%
	学生	41	24.4%	39.0%	14.6%	2.4%	2.4%	14.6%	2.4%	63.4%	4.9%
	仕事はしていない	268	14.2%	30.6%	28.4%	5.2%	1.9%	14.2%	5.6%	44.8%	7.1%
	無回答	30	26.7%	33.3%	26.7%	0.0%	0.0%	6.7%	6.7%	60.0%	0.0%
居住年数	2年未満	56	19.6%	32.1%	25.0%	5.4%	0.0%	17.9%	0.0%	51.8%	5.4%
	2年以上5年未満	60	16.7%	31.7%	23.3%	8.3%	1.7%	13.3%	5.0%	48.3%	10.0%
	5年以上10年未満	97	23.7%	32.0%	20.6%	3.1%	5.2%	15.5%	0.0%	55.7%	8.2%
	10年以上15年未満	126	14.3%	36.5%	23.8%	7.1%	3.2%	14.3%	0.8%	50.8%	10.3%
	15年以上	1072	13.4%	36.6%	25.8%	6.3%	3.1%	11.8%	3.0%	50.0%	9.3%
	無回答	12	25.0%	50.0%	16.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	8.3%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については 20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については 50%以上の数字が赤字、「不満・やや不満」については 10%以上の数字が赤字

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

⑨山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくり

「満足+やや満足」の全体の割合が 68.0%で、すべての属性で 50%以上であった。70%以上の属性は、年齢では「29歳以下」「30~39歳」、就業状況では「主婦・主夫」「学生」、居住年数では「5年以上 10年未満」であった。

「知らない・わからない」の全体の割合が 10.3%で、すべての属性で 20%未満であった。

「不満+やや不満」の全体の割合が 4.4%で、すべての属性で 10%未満であった。

図表 1-4-18 山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくりにおける属性別満足度の違い

	合計	満足	どちらかといえども満足	どちらともいえない	どちらかといえども不満	不満	知らない・わからない	無回答	満足+やや満足	不満+やや不満
全体	1423	28.0%	40.0%	15.7%	2.5%	2.0%	10.3%	1.6%	68.0%	4.4%
居住区	緑被率(高)の区	523	26.6%	41.5%	14.9%	3.4%	2.5%	9.4%	1.7%	68.1% 5.9%
	緑被率(中)の区	630	30.3%	37.5%	17.0%	1.7%	1.0%	11.1%	1.4%	67.8% 2.7%
	緑被率(低)の区	258	25.2%	42.2%	14.7%	2.3%	3.1%	10.5%	1.9%	67.4% 5.4%
	無回答	12	33.3%	58.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	91.7%	8.3%
年齢	29歳以下	112	40.2%	34.8%	7.1%	0.9%	1.8%	14.3%	0.9%	75.0% 2.7%
	30~39歳	138	26.8%	44.9%	13.8%	2.9%	1.4%	10.1%	0.0%	71.7% 4.3%
	40~49歳	235	28.9%	35.3%	19.1%	0.9%	1.7%	13.2%	0.9%	64.3% 2.6%
	50~59歳	294	30.6%	39.1%	14.3%	3.1%	2.4%	9.2%	1.4%	69.7% 5.4%
	60~69歳	247	21.9%	41.3%	22.3%	2.0%	2.0%	9.7%	0.8%	63.2% 4.0%
	70~79歳	237	28.3%	45.1%	11.8%	3.8%	2.1%	8.0%	0.8%	73.4% 5.9%
	80歳以上	145	23.4%	35.2%	17.9%	3.4%	2.1%	9.7%	8.3%	58.6% 5.5%
	無回答	15	26.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	93.3% 0.0%
就業状況	自営業	75	28.0%	38.7%	13.3%	5.3%	2.7%	12.0%	0.0%	66.7% 8.0%
	会社員(注)	744	27.7%	39.1%	16.7%	2.2%	2.0%	11.4%	0.9%	66.8% 4.2%
	主婦・主夫	265	26.8%	45.3%	17.4%	1.5%	1.1%	5.7%	2.3%	72.1% 2.6%
	学生	41	43.9%	31.7%	4.9%	0.0%	2.4%	14.6%	2.4%	75.6% 2.4%
	仕事はしていない	268	28.0%	37.7%	13.8%	3.7%	2.6%	11.2%	3.0%	65.7% 6.3%
	無回答	30	26.7%	50.0%	13.3%	3.3%	0.0%	3.3%	3.3%	76.7% 3.3%
居住年数	2年未満	56	28.6%	41.1%	14.3%	0.0%	0.0%	16.1%	0.0%	69.6% 0.0%
	2年以上5年未満	60	23.3%	41.7%	13.3%	3.3%	0.0%	13.3%	5.0%	65.0% 3.3%
	5年以上10年未満	97	39.2%	37.1%	11.3%	2.1%	2.1%	8.2%	0.0%	76.3% 4.1%
	10年以上15年未満	126	28.6%	38.1%	19.0%	2.4%	1.6%	9.5%	0.8%	66.7% 4.0%
	15年以上	1072	27.1%	40.1%	16.0%	2.6%	2.2%	10.2%	1.8%	67.2% 4.9%
	無回答	12	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0% 0.0%

(注)会社員には、公務員・団体職員・パート・アルバイトを含む

「知らない・わからない」については 20%以上の数字が赤字、「満足+やや満足」については 50%以上の数字が赤字、「不満・やや不満」については 10%以上の数字が赤字

出所: 横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

ウ ターゲットとする属性に関する総括

①「満足+やや満足」

就業状況では「学生」、年齢では「29歳以下」、居住年数では「5年以上10年未満」の割合が高かった。

「街路樹による美しい景観づくり」「地域で進める緑や花のまちづくり」「山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくり」については、「29歳以下」「学生」の「満足+やや満足」の割合が高かった。

「市民の森」の開園や維持管理については、「緑被率(高)の区」、「50～59歳」、「学生」の「満足+やや満足」の割合が高かった。

図表1-4-19 「満足+やや満足」に関する属性別のまとめ

	全体での回答結果				「満足+やや満足」の割合が高い属性			
	満足	満足+やや満足	知らない・わからない	不満+やや不満	居住地	年齢	就業状況	居住年数
「まとまりのある森」の保全	15.5%	49.3%	18.6%	5.0%			学生(58.5%)	2年以上5年未満(58.3%) 5年以上10年未満(57.7%)
散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理	16.8%	56.7%	15.8%	5.7%	緑被率(高)の区 (60.2%)	50～59歳(62.5%)	学生(63.4%)	2年以上5年未満(60.4%) 5年以上10年未満(60.3%)
自然観察会、クラフト教室など、森を楽しむきっかけづくり	9.3%	32.3%	27.9%	5.2%				5年以上10年未満(41.2%)
市内の畑や水田などの保全や農原觀の維持管理	12.6%	38.1%	24.0%	6.3%		29歳以下(47.3%)	学生(46.3%)	5年以上10年未満(48.5%)
収穫体験や農体験ができる場所の整備	9.6%	30.4%	26.2%	8.5%		29歳以下(40.2%)		5年以上10年未満(42.3%)
街路樹による美しい景観づくり	15.6%	54.1%	6.5%	15.5%		29歳以下(62.5%) 30～39歳(60.1%)	学生(70.7%)	2年未満(60.7%) 5年以上10年未満(61.9%)
地域で進める緑や花のまちづくり	14.7%	50.7%	12.5%	9.2%		29歳以下(61.6%)	学生(63.4%)	
山下公園などの都心部や、里山ガーデンで行う緑や花による魅力づくり	26.0%	68.0%	10.3%	4.4%		29歳以下(75.0%) 30～39歳(71.7%) 70～79歳(73.4%)	主婦・主夫(72.1%) 学生(75.6%)	5年以上10年未満(76.3%)

「満足」については、□は20%以上、「満足+やや満足」については、□は50%以上。

「知らない・わからない」については、□は20%以上。

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

②「知らない・わからない」

「自然観察会、クラフト教室など、森を楽しむきっかけづくり」「市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理」「収穫体験や農体験ができる場所」については、「知らない・わからない」の割合が高かった。

居住区では「緑被率(低)の区」、年齢では「30～39歳」、居住年数では「2年未満」の割合が高い施策、事業・取組が多かった。なお、居住年数が長くなると「知らない・わからない」の割合は低下していた。

図表 1-4-20 「知らない・わからない」に関する属性別のまとめ

	全体での回答結果				「知らない・わからない」の割合が高い属性			
	満足	満足+やや満足	知らない・わからぬ	不満+やや不満	居住地	年齢	就業状況	居住年数
「まとまりのある森」の保全	15.5%	49.3%	18.6%	5.0%	緑被率(低)の区 (25.7%)	30～39歳(31.9%)		2年未満(37.5%)
政策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開園や維持管理	18.8%	56.7%	15.8%	5.7%		30～39歳(26.8%)		2年未満(25.6%)
自然観察会、クラフト教室など、森を楽しむきっかけづくり	9.3%	32.3%	27.9%	5.2%	緑被率(低)の区 (30.5%)	29歳以下(32.1%) 30～39歳(34.8%)	自営業(30.7%) 会社員(30.0%) 学生(31.7%)	2年未満(39.3%) 2年以上5年未満(31.7%)
市内の畠や水田などの保全や農景観の維持管理	12.6%	38.1%	24.0%	6.3%	緑被率(低)の区 (31.4%)		自営業(30.7%)	2年未満(35.7%)
収穫体験や農体験ができる場所の整備	9.6%	30.4%	26.2%	8.5%	緑被率(中)の区 (30.2%)	30～39歳(31.2%)	自営業(30.7%) 学生(31.7%)	2年未満(42.9%) 2年以上5年未満(30.0%)
街路樹による美しい景観づくり	15.6%	54.1%	6.5%	15.5%				
地域で進める緑や花のまちづくり	14.7%	50.7%	12.5%	9.2%				
山下公園などの都心部や、里山ガーデンで育う緑や花による魅力づくり	28.0%	68.0%	10.3%	4.4%				

「満足」については、■は20%以上、「満足+やや満足」については、■は50%以上。

「知らない・わからない」については、■は20%以上。

出所:横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

③「不満+やや不満」

「不満+やや不満」の割合が10%以上であった施策、事業・取組が多い属性は、居住区では「緑被率(低)の区」、年齢では「40~49歳」「80歳以上」、就業状況では「会社員」「仕事はしていない」、居住年数では「10年以上15年未満」であった。なお、「不満+やや不満」の割合が20%以上となった属性はなかった。

「街路樹による美しい景観づくり」については、多くの属性で「不満+やや不満」の割合が10%以上となっていた。

図表1-4-21 「不満+やや不満」に関する属性別のまとめ

	全体での回答結果				「不満+やや不満」の割合が高い属性				
	満足	満足+やや満足	知らない・わからない	不満+やや不満	居住地	年齢	就業状況	属性年齢	
「まとまりのある森」の保全	15.5%	49.2%	18.6%	5.0%					
散策やウォーキングなどに利用ができる「市民の森」の開発や維持管理	18.8%	56.7%	15.8%	5.7%					
自然観察会、クラブ活動など、森を楽しむきっかけづくり	9.3%	32.3%	27.9%	5.2%					
市内の保全や水田などの保全や農地の維持管理	12.6%	38.1%	24.0%	6.3%	40歳以上(11.7%)				
収穫体験や農体験ができる場所の整備	9.6%	30.4%	26.2%	8.5%	緑被率(低)の(10.1%) 40~49歳(10.2%) 50歳以上(13.1%)	仕事はしていない(10.1%)	10年以上15年未満(11.1%)		
街路樹による美しい景観づくり	15.6%	54.1%	6.5%	15.3%	緑被率(高)の(14.1%) 緑被率(中)の(16.5%) 緑被率(低)の(15.9%) 30~39歳(14.5%) 40~49歳(16.6%) 50~59歳(12.9%) 60~69歳(20.2%) 70~79歳(15.5%) 80歳以上(14.5%)	自営業(17.3%) 会社員(16.0%) 主婦・主夫(13.6%) 仕事はしていない(17.2%)	2年未満(10.7%) 2年以上5年未満(16.7%) 5年以上10年未満(18.6%) 10年以上15年未満(12.7%) 15年以上(15.9%)		
地域で進める緑や花のまちづくり	14.7%	50.7%	12.5%	9.2%	30~39歳(11.6%) 40~49歳(10.2%) 50~69歳(10.5%)	会社員(10.5%)	2年以上5年未満(10.0%) 10年以上15年未満(10.3%)		
山下公園などの都心部や、里山ガーデンで育む緑や花による魅力づくり	28.0%	55.0%	10.3%	4.4%					

「満足」については、■は20%以上、「満足+やや満足」については、■は50%以上。

「知らない・わからない」については、■は20%以上。

出所：横浜市「横浜の緑に関する市民意識調査」より作成

(5) ロジックツリーの検討による今後の方向性

これまでの検討から、施策、事業・取組の今後の方向性を以下に示す。

今回のロジックツリーの検討により、これまで取り組んできた「環境の維持・回復・充実」と社会潮流である「Well-being」に向けて、重要と考えられる要素を中間アウトカムとして明確化でき、さらには中間アウトカムを満たす施策、事業・取組を網羅的に整理できた。今後は、これらの施策、事業・取組を実施していくことが基本的な方向性と考えられる。

施策、事業・取組を実施するために重要な検討内容等を以下に示す。

ア 中間アウトカムの目標（ゴール）の設定

今後の個別の事業の検討にあたっては、まず、目標の設定が重要である。今回整理された中間アウトカムの目標（ゴール）を、定量的（場合によっては定性的）に設定することが考えられる。

これまでの横浜市の実績や現在の状況、国等の方向性を踏まえて設定することが望ましい。

イ 事業化検討の前提条件

横浜市においては厳しい財政状況であり、今回整理された全ての事業を実施するのは難しいことが想定され、事業の選択と集中が求められる。

また、各中間アウトカムに寄与する事業に偏りが無いよう、事業の全体像を把握しながら事業化の検討を行うことが望ましい。

ウ 事業化の検討

以上を踏まえて、個別の事業の検討を進めることとなるが、事業化にあたっては、短期及び中期での事業成果と必要コスト、既存事業とのすみわけの整理、ターゲット（ペルソナ）の設定、事業成果の広がり等を各事業で設定し、事業の全体像を踏まえて検討していくことが考えられる。

また、今回のロジックツリーで事業・取組例に記載できていない事業や、現時点で取り組んでいない事業、特に市民の幸福（Well-being）に関する事業については、積極的に事業化の検討をすることが重要と考えられる。その場合、府内をはじめ、国や県、NPO 法人等の団体などとの連携することも考えられる。

なお、ターゲットについては、「(4) ターゲットとなる市民の属性」のように整理しており、その内容も踏まえながら設定していくことが望まれる。

エ 事業を有効に機能させるための仕組み整理

最終アウトカムを達成するために、事業が有効に機能することが重要である。

そのために、各事業で設定した短期及び中期での事業成果と必要コスト等について、事業実施後に検証するとともに、事業の継続の可否や改善を定期的に実施するための仕組みの整理が重要と考えられる。

なお、横浜市のみどり関連の施策と環境・Well-beingへの関係性を整理したものが図表1-4-22から図表1-4-25である。（赤字は実施していない事業）

図表 1-4-22 横浜市施策と環境・Well-beingへの関係性の整理（幸福関連の中間アウトカムに関する取組①）

エリア	縦の10大地点	水辺	流域 (グリーンインフラ)	樹林地	農地	公園
お金の獲得・貯蓄・自己投資	多様な就業・起業の機会の確保	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）	事業に対する就農支援 地帯内に残る人材等の育成・支援	多様な担い手に対する就農支援 地帯内に残る人材等の育成・支援	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）	公園
自分らしさの形成・自己実現・成長	自身のやりがい（関心領域）の発見 やりがい（関心領域）における必要な能力の開発、学びの機会の提供 やりがいのある領域での取り組みの支援	公井施設での体験の場・機会の提供 (水再生センター等)	事業に必要な専門知識の学習機会の提供 ビンターセンターの運営、運用 森づくり活動（体験・学習） イベントの開催（体験・学習） 専門家によるレクチャー	イベントの開催（体験・学習） 専門家によるレクチャー	多様な担い手・市民に対する研修や学習機会の提供 イベントの情報の発信（体験・学習） 広報誌	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）
幸福関連の中間資本の構築・強化	（ひととの関連性、活動に対する提供） （学びの機会の提供） （継続的な学び合いの仕組み作り） （他者や公共のためにつくる組織） （近なみどりの自給）	（ひととの関連性、活動に対する提供） （継続的な学び合いの仕組み作り） （他者や公共のためにつくる組織） （近なみどりの自給）	事業に必要な専門知識の学習機会の提供 ビンターセンターの運営、運用 森づくり活動（体験・学習） イベントの開催（体験・学習） 専門家によるレクチャー	イベントの開催（体験・学習） 専門家によるレクチャー	多様な担い手・市民に対する研修や学習機会の提供 イベントの情報の発信（体験・学習） 広報誌	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）
心身の健康	こころの健康 からだの健康	豊かなことによる安心感 豊かなストレス解消で生きる健康	豊かなことによる安心感 豊かなストレス解消で生きる健康	豊かなことによる安心感 豊かなストレス解消で生きる健康	豊かなことによる安心感 豊かなストレス解消で生きる健康	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）
防災／安全・安心の確立	防災／安全・安心の強化	河川の護岸整備・下水道雨水幹線や雨水調整池等の整備 水・緑の拠点の保全	河川の護岸整備・下水道雨水幹線や雨水調整池等の整備 水・緑の拠点の保全	河川の護岸整備・下水道雨水幹線や雨水調整池等の整備 水・緑の拠点の保全	河川の護岸整備・下水道雨水幹線や雨水調整池等の整備 水・緑の拠点の保全	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）

図表 1-4-23 横浜市施策と環境・Well-beingへの関係性の整理（幸福関連の中間アウトカムに関する取組②）

エリア		緑化施策			
	公共建築物	街路樹	住宅地	民地	その他（市全域等）
幸福 関連 の中 間 地域内の社会関 係資本の構築・ 強化 ト カ ム に 関 す る 取 組 	多様な就業・起業の機会の確保 （お金の獲得・貯蓄・自己投資 学ぶ機会）	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（場所、補助金、マッチング等）		環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（補助金、マッチング等）	環境関連企業の誘致、支援、連携 起業家の支援（補助金、マッチング等）
	自分らしさの形成・ 自己実現・ 成長	自身のやりがい（開心領域）の発見 ややりがい（開心領域）における必要な能力 の開発、学びの機会の提供 ややりがいのある領域での取り組みの支援 つながりの形成	小中学校の緑化へのアドバイザーペ 選（笠生、ビオトープ） 関連する起業への支援	専門家によるレクチャー 人生記念樹の配布 関連する起業への支援	事業に必要な専門知識の学習機会の 提供
	ア ウ ト カ ム に 関 す る 取 組 	（人との関連性、活動 に関する）学びの機会 の提供 継続的な学び合いの仕 組み作り	（人との関連性、活動 に関する）学びの機会 の提供 継続的な学び合いの仕 組み作り	（人との関連性、活動 に関する）学びの機会 の提供 継続的な学び合いの仕 組み作り	地域の緑化活動へのコンサルティン グ
	心身の健康 組	他者や公共のためにつくる場、機会の提供			地域の緑化活動への専門家の紹介
	こ そ の こ と く れ る 取 組 	こころの健康 よくな情報や機会の提 供	ガーデンネットワーク事業 緑化（行倉、公民館等）	人生記念樹 身近な緑化（説教）	地域の緑化活動
	からだの健康 組	感 心 感 気分転換、ストレス解消で 感じる場づくり（例：メイン ドフルネス）	緑化（行倉、公民館等） 生活導線における緑化	生活導線における緑化 気分転換の場の提供	地域の緑化活動
	楽しく歩けて、運動で きる水緑空間	身近な緑化（公園整備）	生活導線における緑化 身近な緑化（誘導）	生活導線における緑化 身近な緑化（誘導）	地域の緑化活動
	防災／安全・安 心の確立	防災の強化			

図表 1-4-24 横浜市施策と環境・Well-beingへの関係性の整理（環境関連の中間アウトカムに関する取組①）

エリア	縁の10大地点	水辺	(グリーンインフラ)	流域	樹林地		農地	公園
					公共	民地		
環境 関連 の中間 ア ウ ト カ ム に す る 取 組	保全	水・緑の開拓前の保全 一定期の開拓前の調整（土地利用 統合調整会議）	環境影響評価 水質調査・生物調査	周辺環境との調和に配慮した河川整備 生態系に配慮した河川整備	水・緑の観点の維持管理	緑地保全制度による保全 樹林地の買取り 縫引きによる保全 生物多様性に配慮した保全管理計画 の策定	生産基盤整備 農地や周辺施設（道水路等）維持管 理用地区域や生産継続地区の指定による保全 防災協力農地 縫引きによる保全	生産基盤整備 農地の創出
						公共による維持管理 森づくり活動団体による維持管理 森づくり活動団体への物品支援・助 成 保全管理計画を活用した維持管理 森づくり活動団体への広報・参加促 進	公共による維持管理 森づくり活動団体による維持管理 森づくり活動団体への物品支援・助 成 保全管理計画を活用した維持管理 森づくり活動団体への広報・参加促 進	市民農園（農園付公園）
	くる 維持管理の実践 維持管理（維持・向上）	緑・水辺など創出 学びの機会、教える機 会の提供	愛護会による維持管理 （実践）	河川の護岸整備・雨水調整池等の整 備	愛護会による維持管理 （実践）	森林地の活用のための施設整備（道路 等）	樹林地活用のための施設整備（道路 等）	公園整備
						森林地の運営によるイベント ビジターセンターの運営・運用	森林地での維持管理に必要な技術情 報の提供 維持管理活動に関する広報	市民農園（農園付公園）
	生物多様性 の適用 （実践）	情報提供、きっかけ作り 適応策の推進	河川の護岸整備・雨水調整池等の整 備	水の開拓の保全 水循環の保全	ブルーカーがん事業	森林地の買取り 縫引きによる保全 樹林地保全制度等による保全 樹林地の買取り 縫引きによる保全 木質バイオマスの活用（伐採木等）	水田の保全 農地等による農地等の維持管理 農地等による保全 水田の保全 縫引きによる保全	公園整備 絆を保つ耕栽培管理
						水田の保全 農地等による農地等の維持管理 農地等による保全 木質バイオマスの活用（リサイクル プラント）	水田の保全 農地等による保全 縫引きによる保全 地産地消の推進	文化財等の継承 ガーデンネットワーク事業
	歴史・文化・景観 学び機会							

図表 1-4-25 横浜市施策と環境・Well-beingへの関係性の整理（環境関連の中間アウトカムに関する取組②）

エリア		緑化施策						
環境 開 連 の 生物多様性 の中 間 ア ウ ト カ ム に 関 す る 取 組	保全 つくる 維持管理（維持・向上） 市民、企業等による 緑の活用 緩和策の推進 気候変動 歴史・文化・景観	公共 公共建築物 緑・水辺など創出 維持管理の実践 学びの機会、教える機 会の提供 活用（の実践） 情報提供、きづかげ作り 緩和策の推進 緩和策の推進 学ぶ機会 ガーデンネットレス事業		街路樹 緑化（併舎、公民館等） 緑化の助成 緑化率の最低限度の設定（緑化地域 制度） 公共による維持管理 小中学校の緑化へのアドバイザー派 遣（芝生、ビオトープ） 活用（の実践） 情報提供、きづかげ作り 緩和策の推進 緩和策の推進 学ぶ機会 ガーデンネットレス事業	住宅地 一定規模の開発前の調整（土地利用 総合調整会議） 緑化の助成 緑化率の最低限度の設定（緑化地域 制度） 公共による維持管理 小中学校の緑化へのアドバイザー派 遣（芝生、ビオトープ） 活用（の実践） 情報提供、きづかげ作り 緩和策の推進 緩和策の推進 学ぶ機会 ガーデンネットレス事業	商業地 一定規模の開発前の調整（土地利用 総合調整会議） 緑化の助成 緑化率の最低限度の設定（緑化地域 制度） 公共による維持管理 小中学校の緑化へのアドバイザー派 遣（芝生、ビオトープ） 活用（の実践） 情報提供、きづかげ作り 緩和策の推進 緩和策の推進 学ぶ機会 ガーデンネットレス事業	工業地 一定規模の開発前の調整（土地利用 総合調整会議） 開発に伴う緑化率の設定（工場緑化 等） 地区計画による緑化率の設定 建築物の基準以上の緑化への認定制 度・税の逓減 地域の緑化活動への助成 地域の緑化活動への広報・参加促進 維持管理活動に関する広報 維持管理活動に関する広報 名木古木 市の花・市の木等の普及	その他（市全域等）

第2章 市内の緑被地の現状把握と増減要因の調査

第2章 市内の緑被地の現状把握と増減要因の調査

横浜市内の緑被地の現状を把握するために、概ね5年間隔で実施している調査手法に基づき、目視判読による300m²以上の緑被地（樹林地・草地・農地）と、画像分類による10m²以上の緑被地（樹木・草本・農地）について、調査及び集計を行った。また、300m²以上の緑被地は、前回調査時点との比較により、増加箇所・減少箇所の抽出とその要因による分類を行い、前回と同様に集計した。

1 緑被地の調査及び集計・整理

緑被地の調査及び集計・整理の業務を実施するにあたっての収集した資料は、図表2-1-1に示す通りである。

図表 2-1-1 収集資料名とその形式

	資料名	形式
1	「横浜市第12次緑地環境診断調査」航空写真データ	電子データ
2	「横浜市第11次緑被地データ現況詳細調査」報告書	電子データ
3	「横浜市第11次緑地環境診断調査」報告書	電子データ
3	都市計画基本図データ（横浜市建築局都市計画課）	shape ファイル形式
4	用途地域 GIS データ（横浜市建築局都市計画課）	shape ファイル形式
5	土地利用現況 GIS データ（横浜市建築局都市計画課）	shape ファイル形式
6	建物現況 GIS データ（横浜市建築局都市計画課）	shape ファイル形式
7	行政界 GIS データ（横浜市建築局都市計画課）	shape ファイル形式
8	区域区分 GIS データ（横浜市建築局都市計画課）	shape ファイル形式
9	横浜市統計書（横浜市 HP掲載）	EXCEL 形式
10	用途地域等の全市的な見直し（横浜市 HP掲載）	HP掲載文およびpdf等

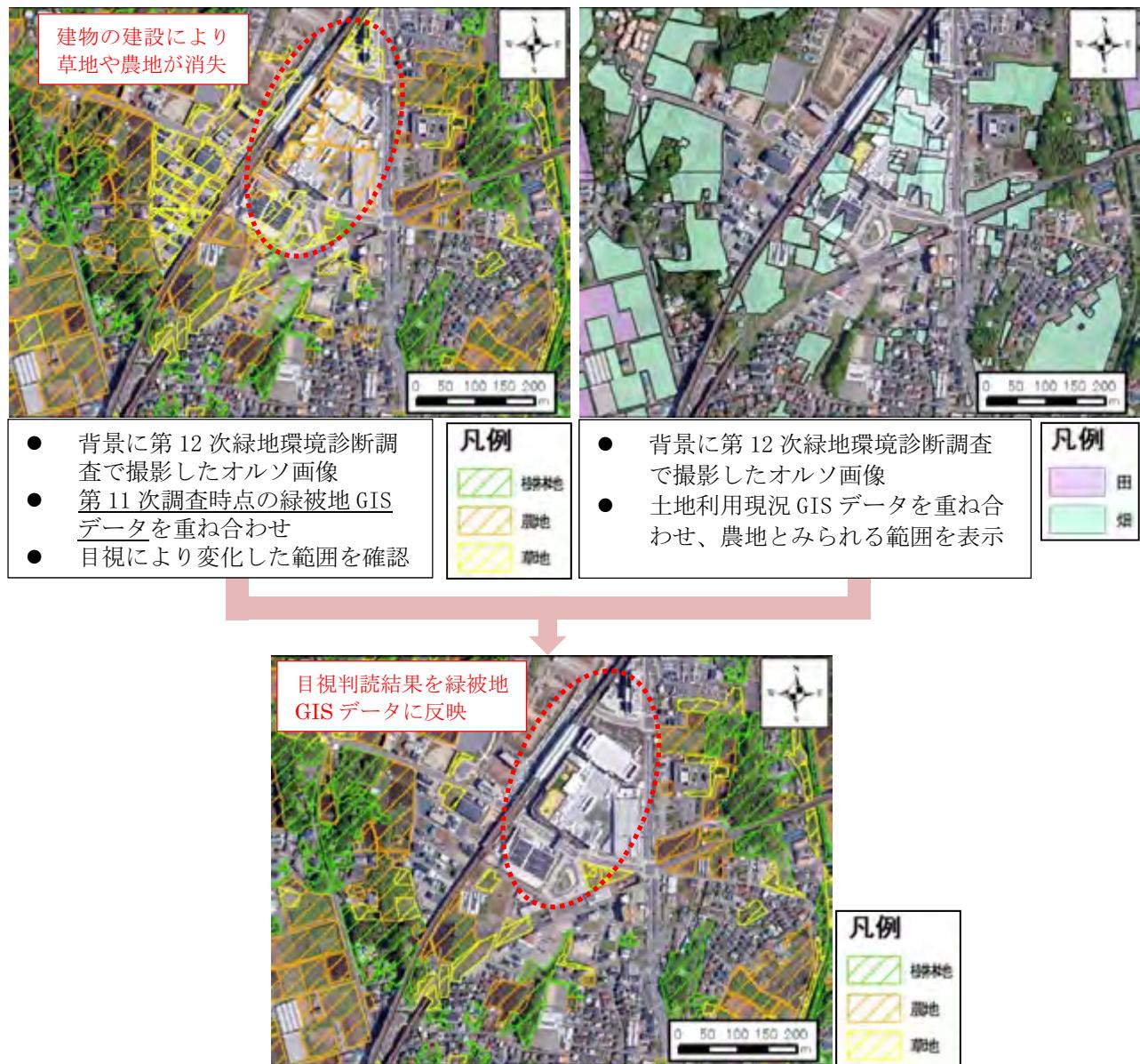
出所：アジア航測株式会社が作成

(1) 300 m²以上の緑被地の調査・GIS データ化（目視判読）

ア 緑被地の調査

第 11 次緑地環境診断調査結果（以下略、第 11 次調査という）におけるオルソ画像と、第 12 次緑地環境診断調査で整備したオルソ画像を比較し、増減箇所を目視判読により確認した。第 11 次調査における緑被 GIS データを基に、その確認結果を反映することで新たな GIS データとして整備した（図表 2-1-2）。緑被区分については、第 11 次調査での区分を踏まえ、樹林地、農地、草地の 3 区分とした。農地については裸地との誤判読を可能な限り避けるため、土地利用現況 GIS データの田畠も参考に重ねあわせて確認した。なお、目視判読による確認が困難な建物の倒れ込みや影については、第 11 次調査時点の緑被地 GIS データをそのまま活用した（図表 2-1-3）。

図表 2-1-2 緑被地の調査・GISデータ化の作業例

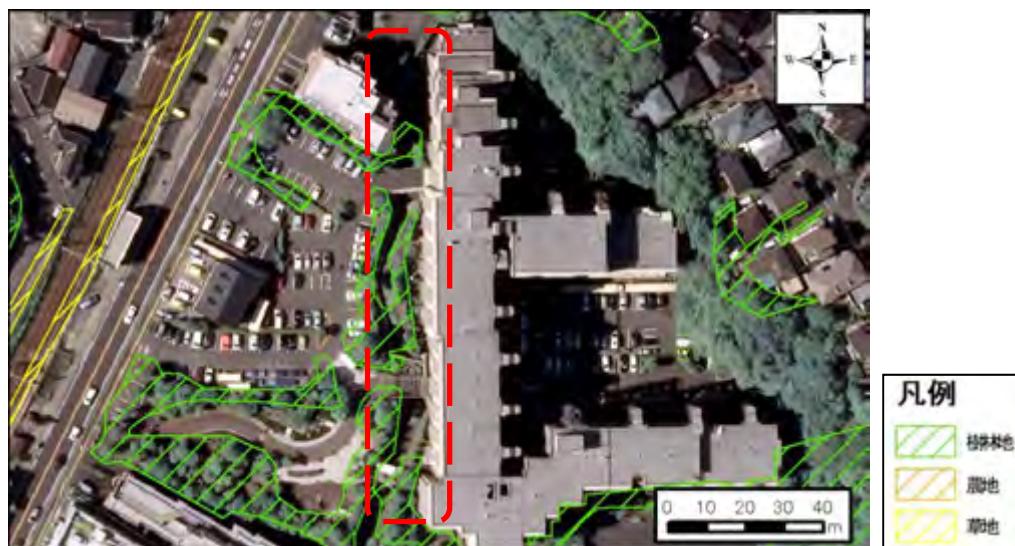


※第12次緑地環境診断調査で整備したオルソ画像の撮影日は2024年5月

※土地利用現況データは、令和2年度都市計画基礎調査土地・建物現況GISデータを使用

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-3 目視判読が困難な例（赤枠内：建物の影により緑被地の見直しが困難な場所）



※背景に第11次調査でのオルソ画像（2019年8月撮影）を使用



※背景に第12次緑地環境診断調査で整備したオルソ画像（2024年5月撮影）を使用

出所：アジア航測株式会社が作成

イ 緑被地の集計

整備した 300 m²以上の緑被地 GIS データを用いて、市全域、18 区別、市街化区域・市街化調整区域、用途地域別に緑被地面積及び緑被率を集計した。

①市全域の集計結果

目視判読による 300 m²以上の緑被地を集計した結果、令和 6 年度における横浜市全域の緑被地面積は 11,822 ha、緑被率は 27.1% であった（図表 2-1-4）。

また、第 11 次調査と比較すると、緑被地面積は 295ha 減少し、緑被率は 27.8% から 0.7 ポイント低下であった（図表 2-1-5）。

図表 2-1-4 横浜市全域の300m²以上の緑被地面積及び緑被率

		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	市全域面積 (ha)
緑被地	樹林地	7,199	16.5%	43,650
	農地	2,277	5.2%	
	草地	2,346	5.4%	
	合 計	11,822	27.1%	

※市全域面積は、令和5年度時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-5 横浜市全域の300m²以上の緑被地面積及び緑被率の経年変化

		令和元年		令和 6 年		前回からの増減	
		面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (ポイント)
緑被地	樹林地	7,281	16.7%	7,199	16.5%	-82	-0.2
	農地	2,411	5.5%	2,277	5.2%	-134	-0.3
	草地	2,425	5.6%	2,346	5.4%	-79	-0.2
	合 計	12,117	27.8%	11,822	27.1%	-295	-0.7
市全域面積		43,650		43,650		0	

（参考）平成26年以前の緑被率の推移

		平成 16 年		平成 21 年		平成 26 年	
		面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (%)
緑被地	樹林地	7,799	17.9%	7,569	17.4%	7,383	16.9%
	農地	2,937	6.8%	2,815	6.5%	2,600	6.0%
	草地	2,753	6.3%	2,588	5.9%	2,552	5.9%
	合 計	13,489	31.0%	12,972	29.8%	12,534	28.8%
市全域面積		43,547		43,560		43,580	

※令和 6 年の区面積と区面積の合計および市全域面積は、令和5年度時点の値（出典：第103回横浜市統計書）、令和元年の区面積と区面積の合計および市全域面積は、平成30年度末時点の値（出典：第98回横浜市統計書）、平成26年の区面積と区面積の合計および市全域面積は、平成25年度末時点の値（出典：第93回横浜市統計書）、平成21年の区面積と区面積の合計および市全域面積は、平成20年度末時点の値（出典：第88回横浜市統計書）、平成16年の区面積と区面積の合計および市全域面積は、平成15年度末時点の値（出典：第83回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

②18 区別の集計結果

目視判読による 300 m²以上の緑被地を集計した結果、18 区別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-6、図表 2-1-7 の通りであった。緑被地面積をみると、最も大きかったのは戸塚区で、最も小さかったのは西区であった。緑被率では、最も大きかったのは緑区（40.1%）で、最も小さかったのは西区（10.9%）であった。

18 区別の緑被地面積及び緑被率の推移を図表 2-1-8、図表 2-1-9 に示す。18 区全てにおいて、第 11 次調査時点から緑被地は減少し、瀬谷区が -2.5 ポイントと最も減少していた。

図表 2-1-6 18 区別の 300 m²以上の緑被地面積及び緑被率

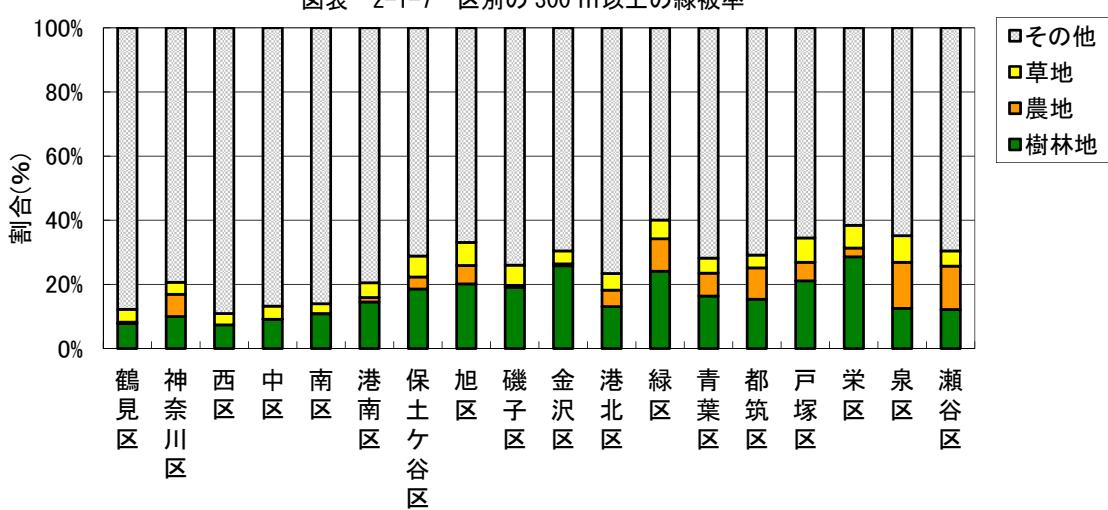
区名	区面積 (ha)	緑被地面積(ha)				緑被率
		樹林地	農地	草地	総計	
鶴見区	3,250	253	15	129	397	12.2%
神奈川区	2,360	236	164	88	487	20.6%
西区	700	52	0	25	76	10.9%
中区	2,150	196	0	88	285	13.2%
南区	1,270	138	1	38	177	14.0%
港南区	1,990	289	28	91	408	20.5%
保土ヶ谷区	2,180	404	82	142	628	28.8%
旭区	3,280	661	188	236	1,085	33.1%
磯子区	1,900	362	13	119	493	26.0%
金沢区	3,070	792	18	124	935	30.4%
港北区	3,140	411	161	163	735	23.4%
緑区	2,540	612	257	149	1,018	40.1%
青葉区	3,520	577	251	165	993	28.2%
都筑区	2,790	428	274	112	813	29.1%
戸塚区	3,580	756	207	271	1,234	34.5%
栄区	1,850	529	51	131	711	38.4%
泉区	2,350	295	337	195	827	35.2%
瀬谷区	1,710	208	231	81	520	30.4%
合計	43,650	7,199	2,277	2,346	11,822	27.1%

※区面積と区面積の合計は、令和5年度時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-7 区別の 300 m²以上の緑被率



出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-8 (1/3) 18 区別の 300 m²以上の緑被地面積及び緑被率の経年変化

区名	年度	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)			合計	緑被率
			樹林地	農 地	草 地		
鶴見区	H16	3,252	278	28	172	478	14.7%
	H21	3,250	279	26	142	446	13.7%
	H26	3,252	266	21	139	425	13.1%
	R1(第11次)	3,250	261	18	132	412	12.7%
	R6(今回)	3,250	253	15	129	397	12.2%
	R6 - R1	0	-8	-3	-3	-15	-0.5 ポイント
神奈川区	H16	2,363	271	198	87	555	23.5%
	H21	2,360	256	190	88	534	22.6%
	H26	2,360	245	180	95	520	22.0%
	R1	2,360	241	171	92	504	21.4%
	R6	2,360	236	164	88	487	20.6%
	R6 - R1	0	-6	-7	-4	-17	-0.7 ポイント
西区	H16	698	50	0	41	91	13.1%
	H21	700	49	0	29	78	11.2%
	H26	700	48	0	34	81	11.6%
	R1	700	50	0	29	79	11.3%
	R6	700	52	0	25	76	10.9%
	R6 - R1	0	2	0	-4	-2	-0.3 ポイント
中区	H16	2,042	207	0	102	310	15.2%
	H21	2,050	211	0	83	294	14.3%
	H26	2,077	202	0	89	291	14.0%
	R1	2,150	202	0	87	289	13.4%
	R6	2,150	196	0	88	285	13.2%
	R6 - R1	0	-6	0	1	-5	-0.2 ポイント
南区	H16	1,266	163	3	36	202	16.0%
	H21	1,270	155	2	38	195	15.4%
	H26	1,266	140	2	41	183	14.4%
	R1	1,270	139	2	38	179	14.1%
	R6	1,270	138	1	38	177	14.0%
	R6 - R1	0	-1	-0	0	-2	-0.1 ポイント
港南区	H16	1,991	333	37	89	459	23.0%
	H21	1,990	325	38	93	456	22.9%
	H26	1,991	305	35	101	440	22.1%
	R1	1,990	296	32	92	420	21.1%
	R6	1,990	289	28	91	408	20.5%
	R6 - R1	0	-7	-4	-2	-13	-0.6 ポイント
保土ヶ谷区	H16	2,185	449	111	145	705	32.2%
	H21	2,190	432	104	144	680	31.1%
	H26	2,185	412	92	151	655	30.0%
	R1	2,180	407	90	143	641	29.4%
	R6	2,180	404	82	142	628	28.8%
	R6 - R1	0	-3	-8	-1	-12	-0.6 ポイント
旭区	H16	3,278	699	259	258	1,215	37.1%
	H21	3,280	680	247	255	1,181	36.0%
	H26	3,278	676	219	252	1,147	35.0%
	R1	3,280	665	204	242	1,111	33.9%
	R6	3,280	661	188	236	1,085	33.1%
	R6 - R1	0	-4	-16	-6	-26	-0.8 ポイント

図表 2-1-8 (2/3) 18区別の300m²以上の緑被地（目視判読）の面積及び緑被率の経年変化

区名	年度	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)			合 計	緑被率
			樹林地	農 地	草 地		
磯子区	H16	1,901	396	17	117	529	27.8%
	H21	1,900	387	16	120	524	27.6%
	H26	1,901	368	15	129	512	26.9%
	R1	1,900	365	15	126	505	26.6%
	R6	1,900	362	13	119	493	26.0%
	R6 - R1	0	-3	-2	-7	-12	-0.6ポイント
金沢区	H16	3,071	792	18	167	977	31.8%
	H21	3,070	792	19	166	977	31.8%
	H26	3,071	794	19	154	967	31.5%
	R1	3,070	791	18	142	951	31.0%
	R6	3,070	792	18	124	935	30.4%
	R6 - R1	0	2	0	-18	-17	-0.5ポイント
港北区	H16	3,143	473	225	177	875	27.8%
	H21	3,140	447	208	176	831	26.5%
	H26	3,143	424	186	178	789	25.1%
	R1	3,140	421	174	163	758	24.1%
	R6	3,140	411	161	163	735	23.4%
	R6 - R1	0	-10	-13	0	-24	-0.8ポイント
緑区	H16	2,544	627	300	201	1,128	44.3%
	H21	2,540	615	292	179	1,086	42.8%
	H26	2,545	610	274	170	1,054	41.4%
	R1	2,540	613	261	156	1,030	40.6%
	R6	2,540	612	257	149	1,018	40.1%
	R6 - R1	0	-1	-4	-7	-12	-0.5ポイント
青葉区	H16	3,518	620	306	272	1,198	34.0%
	H21	3,520	600	293	212	1,105	31.4%
	H26	3,518	599	274	181	1,055	30.0%
	R1	3,520	589	257	167	1,014	28.8%
	R6	3,520	577	251	165	993	28.2%
	R6 - R1	0	-13	-7	-2	-21	-0.6ポイント
都筑区	H16	2,793	429	389	191	1,009	36.1%
	H21	2,790	418	368	151	938	33.6%
	H26	2,793	422	335	133	890	31.8%
	R1	2,790	432	287	118	837	30.0%
	R6	2,790	428	274	112	813	29.1%
	R6 - R1	0	-3	-14	-6	-23	-0.8ポイント
戸塚区	H16	3,580	867	245	283	1,395	39.0%
	H21	3,580	821	244	288	1,353	37.8%
	H26	3,578	798	227	282	1,306	36.5%
	R1	3,580	767	218	268	1,253	35.0%
	R6	3,580	756	207	271	1,234	34.5%
	R6 - R1	0	-11	-11	3	-19	-0.5ポイント
栄区	H16	1,854	569	75	136	780	42.1%
	H21	1,850	554	73	147	774	41.8%
	H26	1,854	547	63	144	753	40.6%
	R1	1,850	533	53	132	717	38.8%
	R6	1,850	529	51	131	711	38.4%
	R6 - R1	0	-4	-2	-1	-6	-0.3ポイント

図表 2-1-8 (3/3) 18区別の300m²以上の緑被地（目視判読）の面積及び緑被率の経年変化

区名	年度	区面積 (ha)	緑被地面積 (h a)				緑被率
			樹林地	農地	草地		
泉区	H16	2,353	344	440	184	967	41.1%
	H21	2,350	324	415	177	916	39.0%
	H26	2,353	311	398	177	886	37.6%
	R1	2,350	295	354	203	852	36.3%
	R6	2,350	295	337	195	827	35.2%
	R6 - R1	0	-1	-17	-8	-25	-1.1ポイント
瀬谷区	H16	1,715	234	286	96	616	35.9%
	H21	1,720	224	281	99	604	35.1%
	H26	1,714	216	262	104	582	34.0%
	R1	1,710	213	255	95	563	32.9%
	R6	1,710	208	231	81	520	30.4%
	R6 - R1	0	-4	-24	-14	-43	-2.5ポイント
合計	H16	43,547	7,799	2,937	2,753	13,489	31.0%
	H21	43,560	7,569	2,815	2,588	12,972	29.8%
	H26	43,580	7,383	2,600	2,552	12,534	28.8%
	R1	43,650	7,280	2,410	2,426	12,117	27.8%
	R6	43,650	7,199	2,277	2,346	11,822	27.1%
	R6 - R1	0	-81	-133	-80	-295	-0.7ポイント

※R6の区面積と区面積の合計は、令和5年末時点の値（出典：第103回横浜市統計書）、

R1の区面積と区面積の合計は、平成30年度末時点の値（出典：第98回横浜市統計書）、

H26の区面積と区面積の合計は、平成25年度末時点の値（出典：第93回横浜市統計書）、

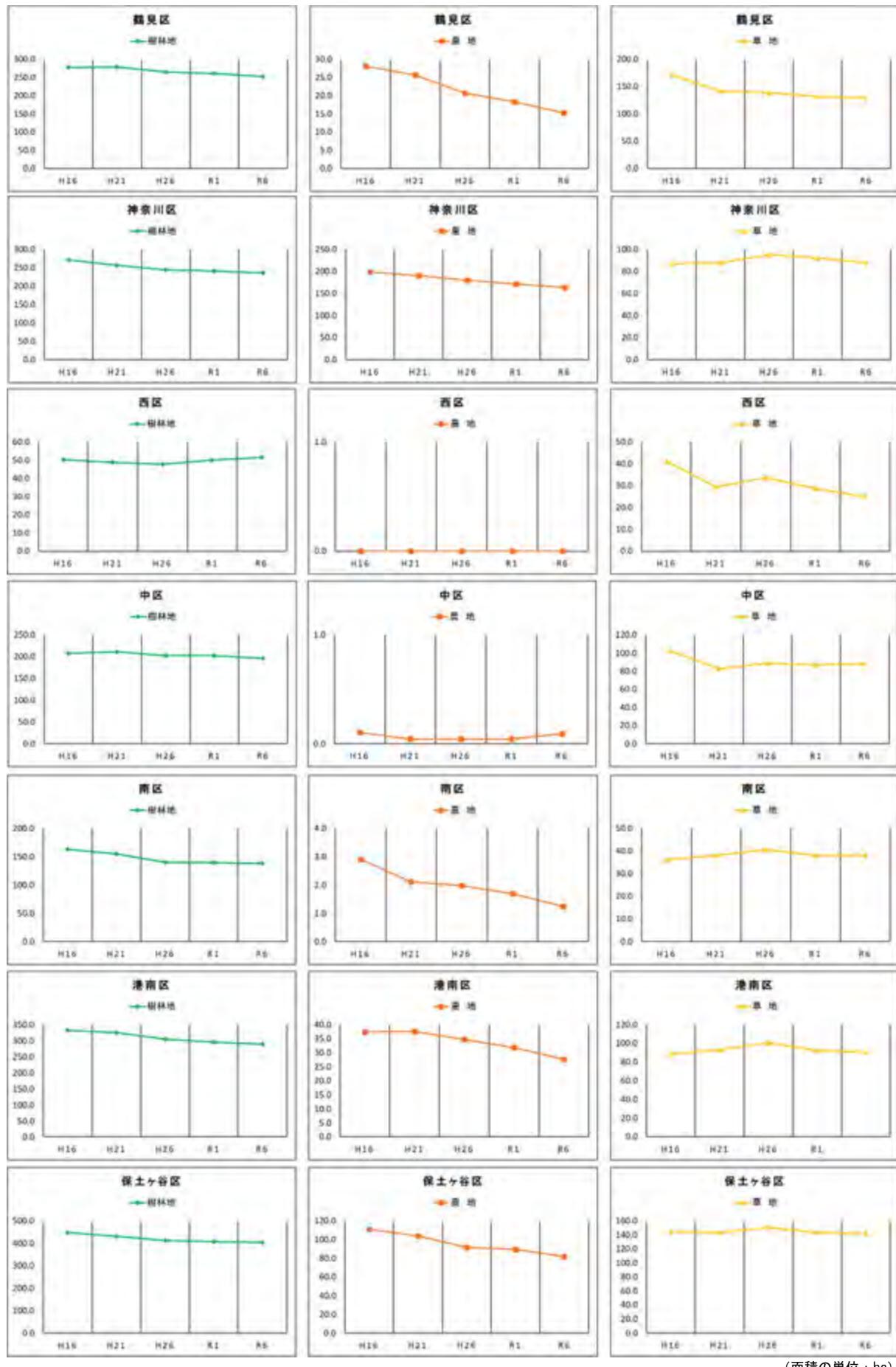
H21の区面積と区面積の合計は、平成20年度末時点の値（出典：第88回横浜市統計書）、

H16の区面積と区面積の合計は、平成16年度末時点の値（出典：第83回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

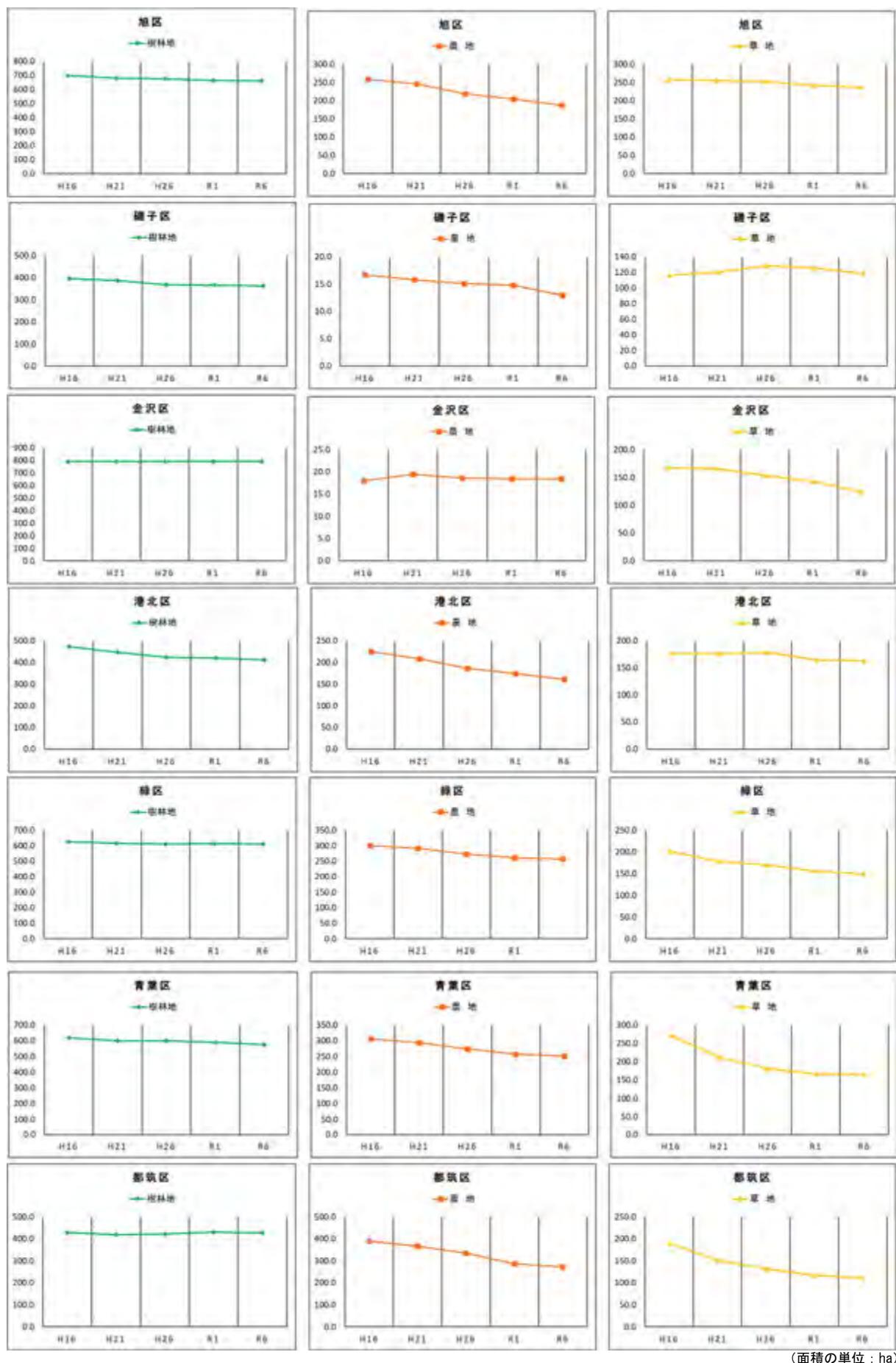
出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-9 (1/3) 18 区別の 300 m²以上の緑被地面積の経年変化



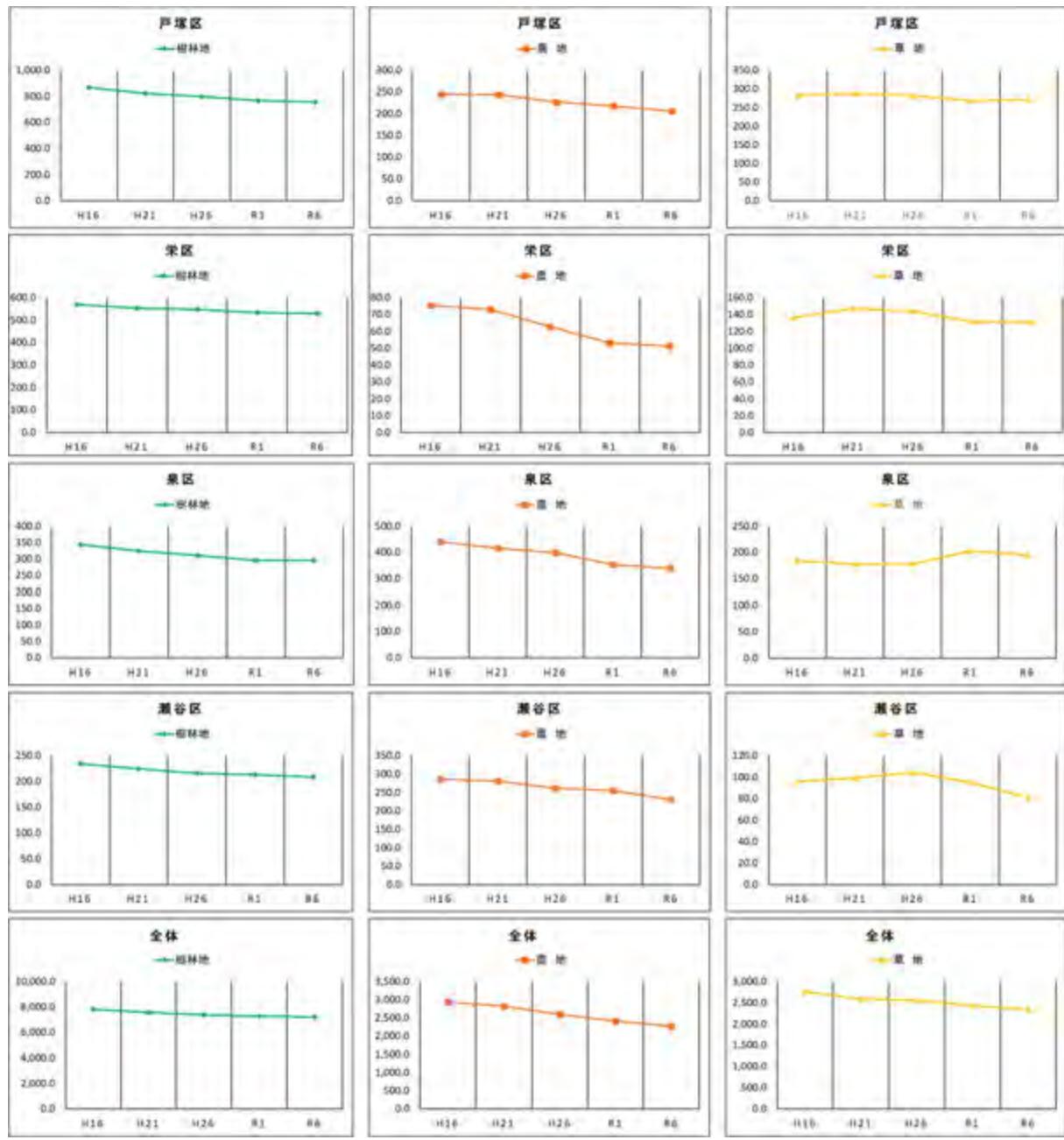
(面積の単位 : ha)

図表 2-1-9 (2/3) 18 区別の 300 m²以上の緑被地面積の経年変化



(面積の単位 : ha)

図表 2-1-9 (3/3) 18 区別の 300 m²以上の緑被地面積の経年変化



(面積の単位 : ha)

出所：アジア航測株式会社が作成

③市街化区域・市街化調整区域別の集計結果

目視判読による 300 m²以上の緑被地を集計した結果、市街化区域・市街化調整区域別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-10 の通りであった。

図表 2-1-10 市街化区域・市街化調整区域別の300m²以上の緑被地面積及び緑被率

	区域面積 (ha)	緑被地面積(ha)			合 計	緑被率 (%)
		樹林地	農地	草地		
市街化区域	33,770	3,845	294	1,340	5,478	16.2%
市街化調整区域	9,900	3,354	1,983	1,007	6,344	64.1%

※区域面積は、令和5年度時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

④用途地域別の集計結果

目視判読による 300 m²以上の緑被地を集計した結果、用途地域別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-11 の通りであった。なお、用途地域は、令和 6 年 5 月に見直しが行われ、住宅地内の大きな道路沿いに分布する第一種低層住居専用地域が第二種低層住居専用地域に変更された。用途地域面積は第 103 回横浜市統計書に記載されている令和 5 年度時点の値であり、上記内容が未反映であるため、横浜市より借用した最新の用途地域境界（GIS データ）の面積を用いた。

図表 2-1-11 用途地域別の300m²以上の緑被地面積及び緑被率

	用途地域面積 (ha)	緑被地面積(ha)			合 計	緑被率 (%)
		樹林地	農地	草地		
第 1 種低層住居専用地域	13,329	1,841	208	432	2,481	18.6%
第 2 種低層住居専用地域	516	37	5	9	51	10.0%
第 1 種中高層住居専用地域	2,700	565	12	197	774	28.7%
第 2 種中高層住居専用地域	1,766	257	8	67	332	18.8%
第 1 種住居地域	4,629	506	33	214	753	16.3%
第 2 種住居地域	531	59	3	32	93	17.5%
準住居地域	1,491	141	11	50	201	13.5%
近隣商業地域	1,426	50	0	16	67	4.7%
商業地域	1,928	67	0	41	108	5.6%
準工業地域	1,836	78	7	76	162	8.8%
工業地域	1,716	116	7	99	222	12.9%
工業専用地域	1,831	126	0	106	232	12.7%

※用途地域面積は、GIS ソフトウェアにより算出した値

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

⑤18 区別・区域区別の集計結果

目視判読による 300 m²以上の緑被地を集計した結果、18 区別・区域区別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-12 の通りであった。

市街化区域内の緑被率をみると、栄区が 23.9%と最も大きく、次いで金沢区、保土ヶ谷区となっていた。一方で、市街化調整区域内では、磯子区が 83.8%と最も大きく、次いで金沢区、栄区であった。

図表 2-1-12 18 区別・区域区別の 300 m²以上の緑被地面積及び緑被率

区名	市街化区域					市街化調整区域						
	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)			緑被率	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)			緑被率		
		樹林地	農 地	草 地			樹林地	農 地	草 地			
鶴見区	3,120	236	9	121	366	11.7%	130	17	6	31	24.0%	
神奈川区	1,930	154	13	66	232	12.0%	430	82	151	22	255	59.3%
西区	700	52	0	25	76	10.9%	-	-	-	-	-	-
中区	2,150	196	0	88	285	13.2%	-	-	-	-	-	-
南区	1,260	135	1	38	174	13.8%	10	3	0	0	3	31.4%
港南区	1,890	248	12	78	338	17.9%	100	41	16	13	70	69.5%
保土ヶ谷区	1,720	228	19	82	330	19.2%	470	176	63	60	299	63.5%
旭区	2,060	205	22	79	306	14.9%	1,220	456	166	157	779	63.8%
磯子区	1,680	219	1	80	301	17.9%	230	143	12	38	193	83.8%
金沢区	2,600	456	5	99	560	21.5%	470	336	14	25	375	79.8%
港北区	2,480	292	34	65	391	15.8%	660	119	126	98	344	52.1%
緑区	1,520	177	25	77	278	18.3%	1,020	435	232	73	740	72.5%
青葉区	2,610	272	34	105	411	15.7%	910	305	217	61	582	64.0%
都筑区	1,930	256	28	65	350	18.1%	860	172	245	47	464	53.9%
戸塚区	2,340	289	22	101	412	17.6%	1,240	467	185	169	821	66.2%
栄区	1,330	224	15	79	318	23.9%	530	305	36	52	393	74.1%
泉区	1,260	108	22	47	177	14.1%	1,090	187	315	148	649	59.6%
瀬谷区	1,190	97	31	45	173	14.6%	530	111	200	36	347	65.5%

※区面積は、令和5年度末時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

ウ 緑被分布図の作成

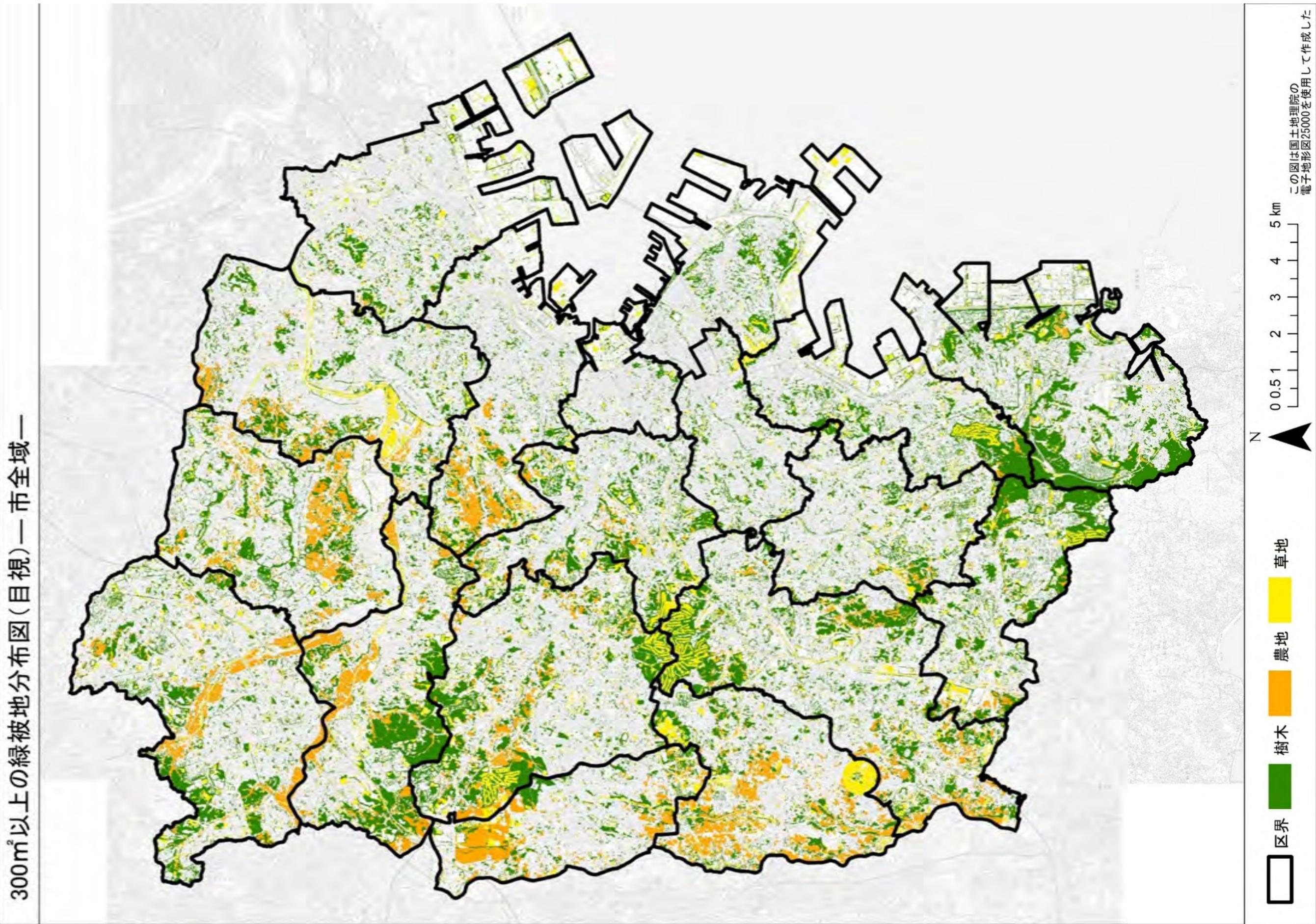
整備した 300 m²以上の緑被地 GIS データを用いて、樹林地・草地・農地の分布を表示した緑被分布図を作成した。図表 2-1-14～図表 2-1-31 に示す。

図表 2-1-13 緑被地分布図一覧

図番号	緑被分布図の範囲
図表 2-1-14	市全域
図表 2-1-15	鶴見区
図表 2-1-16	神奈川区
図表 2-1-17	西区・南区
図表 2-1-18	中区
図表 2-1-19	港南区
図表 2-1-20	保土ヶ谷区
図表 2-1-21	旭区
図表 2-1-22	磯子区
図表 2-1-23	金沢区
図表 2-1-24	港北区
図表 2-1-25	緑区
図表 2-1-26	青葉区
図表 2-1-27	都筑区
図表 2-1-28	戸塚区
図表 2-1-29	栄区
図表 2-1-30	泉区
図表 2-1-31	瀬谷区

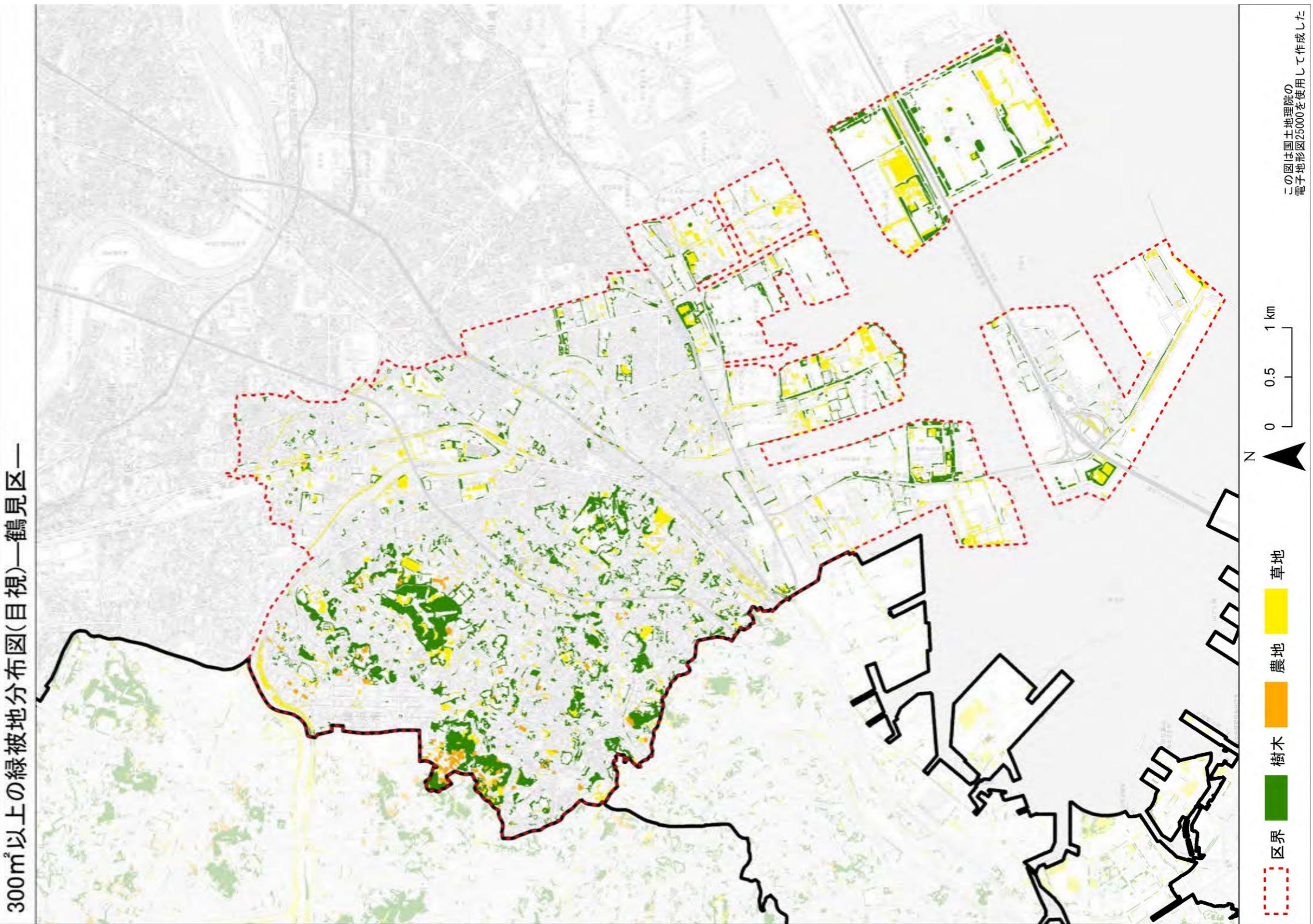
出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-14 市全域の緑被地分布図(目視)―市全域―

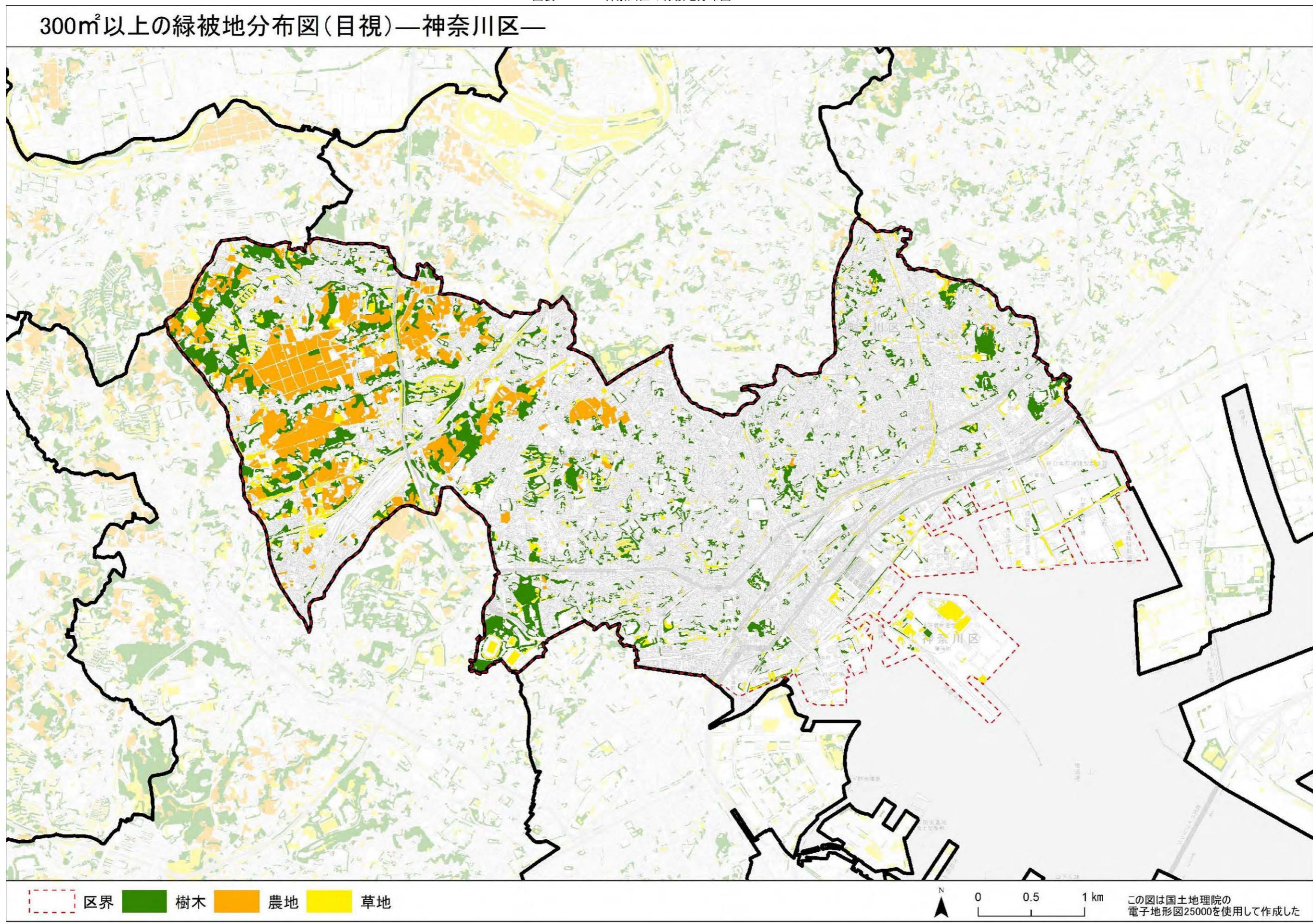


出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-15 鶴見区の緑被地分布図(目視)—鶴見区—



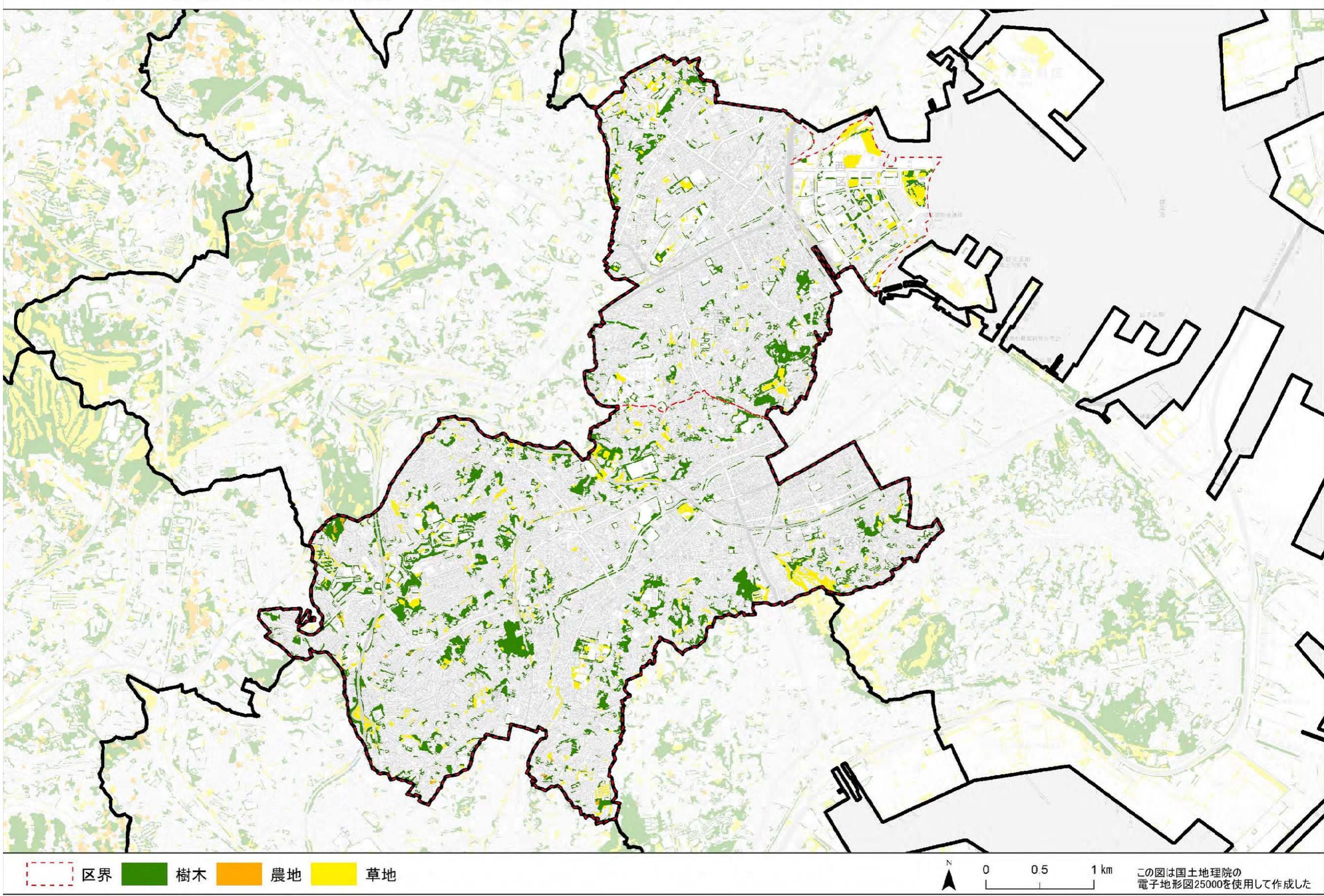
図表 2-1-16 神奈川区の緑被地分布図



出所：アジア航測株式会社が作成

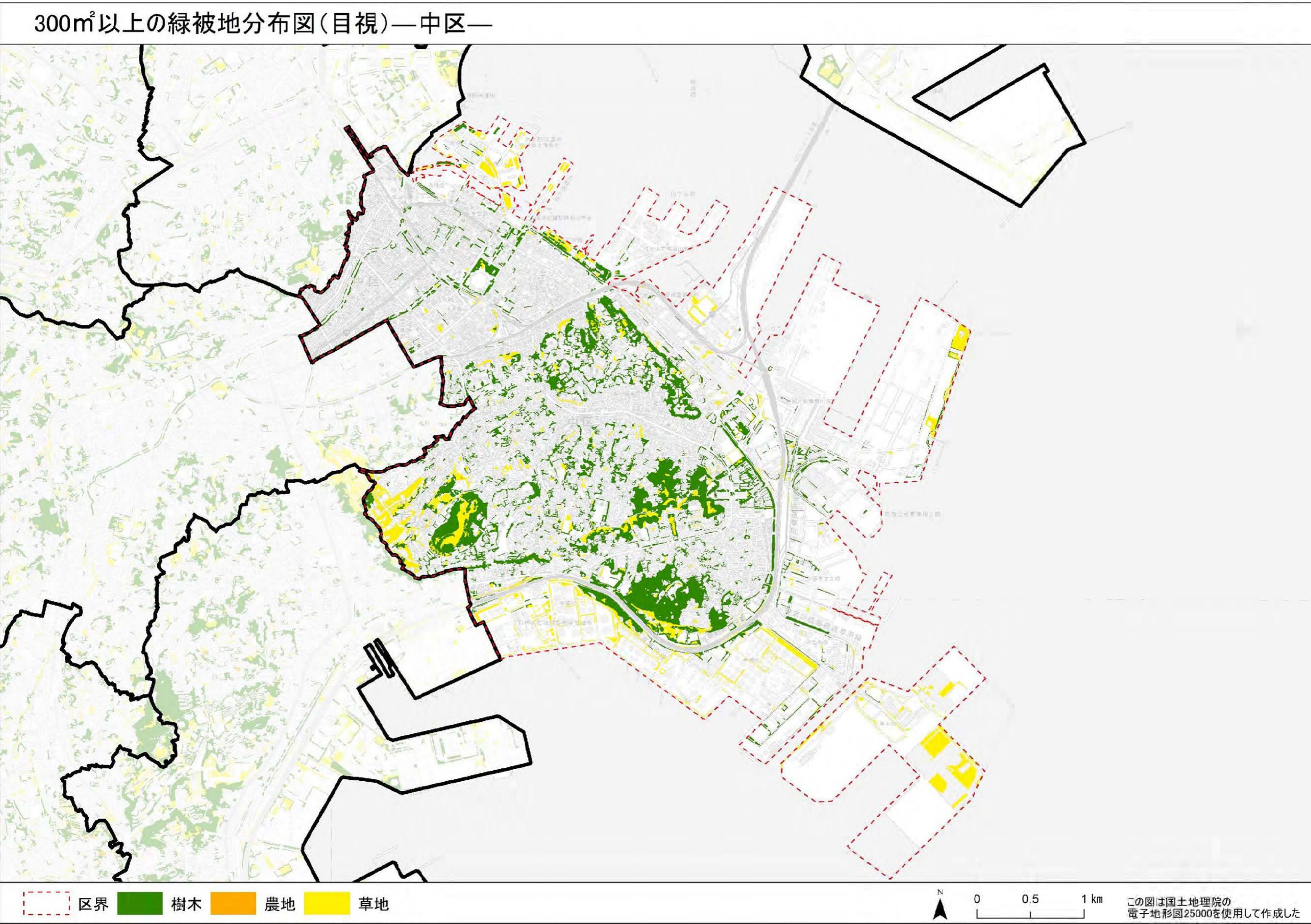
図表 2-1-17 西・南区の緑被地分布図

300m²以上の緑被地分布図(目視)—西区・南区—

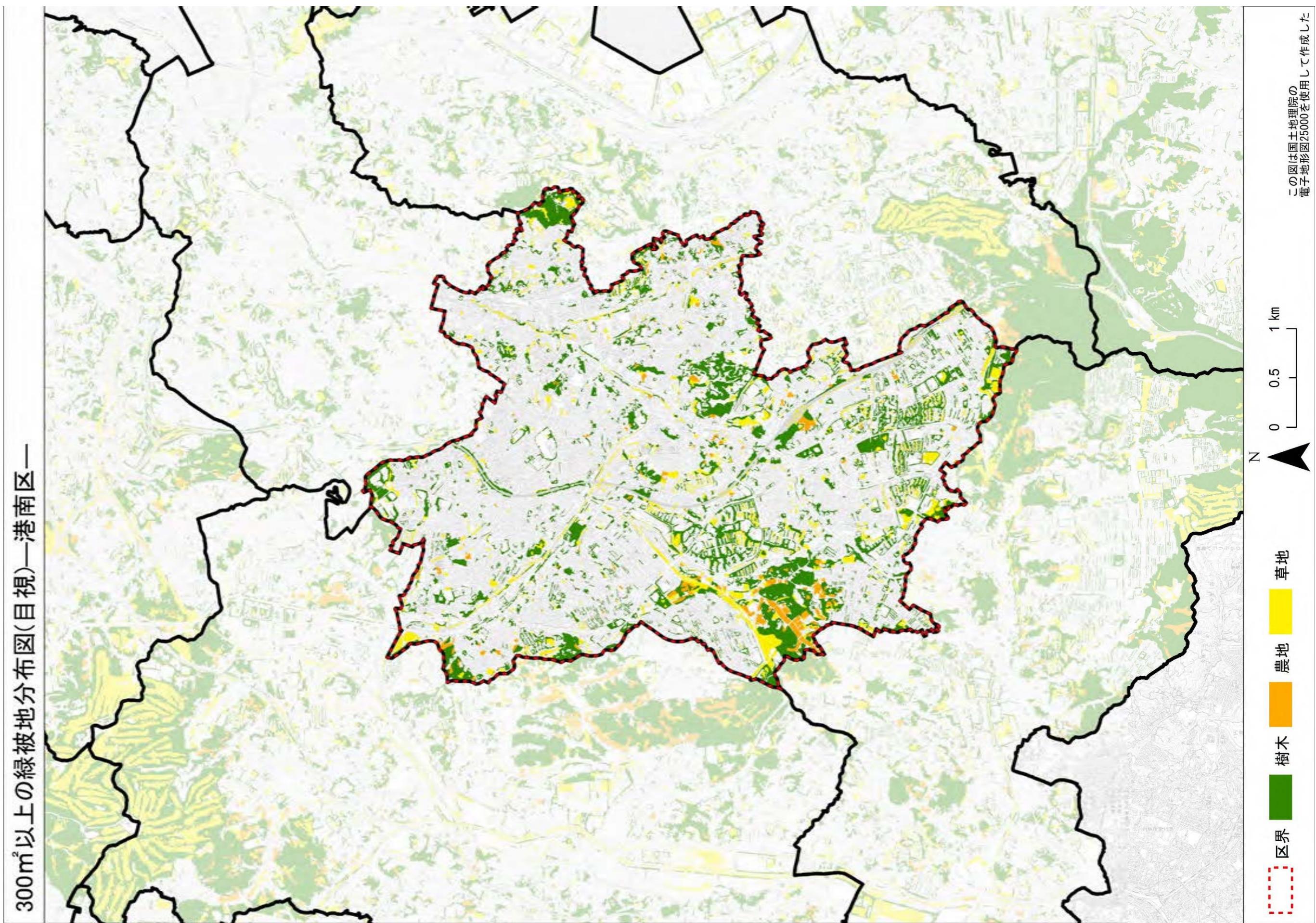


出所：アジア航測株式会社が作成

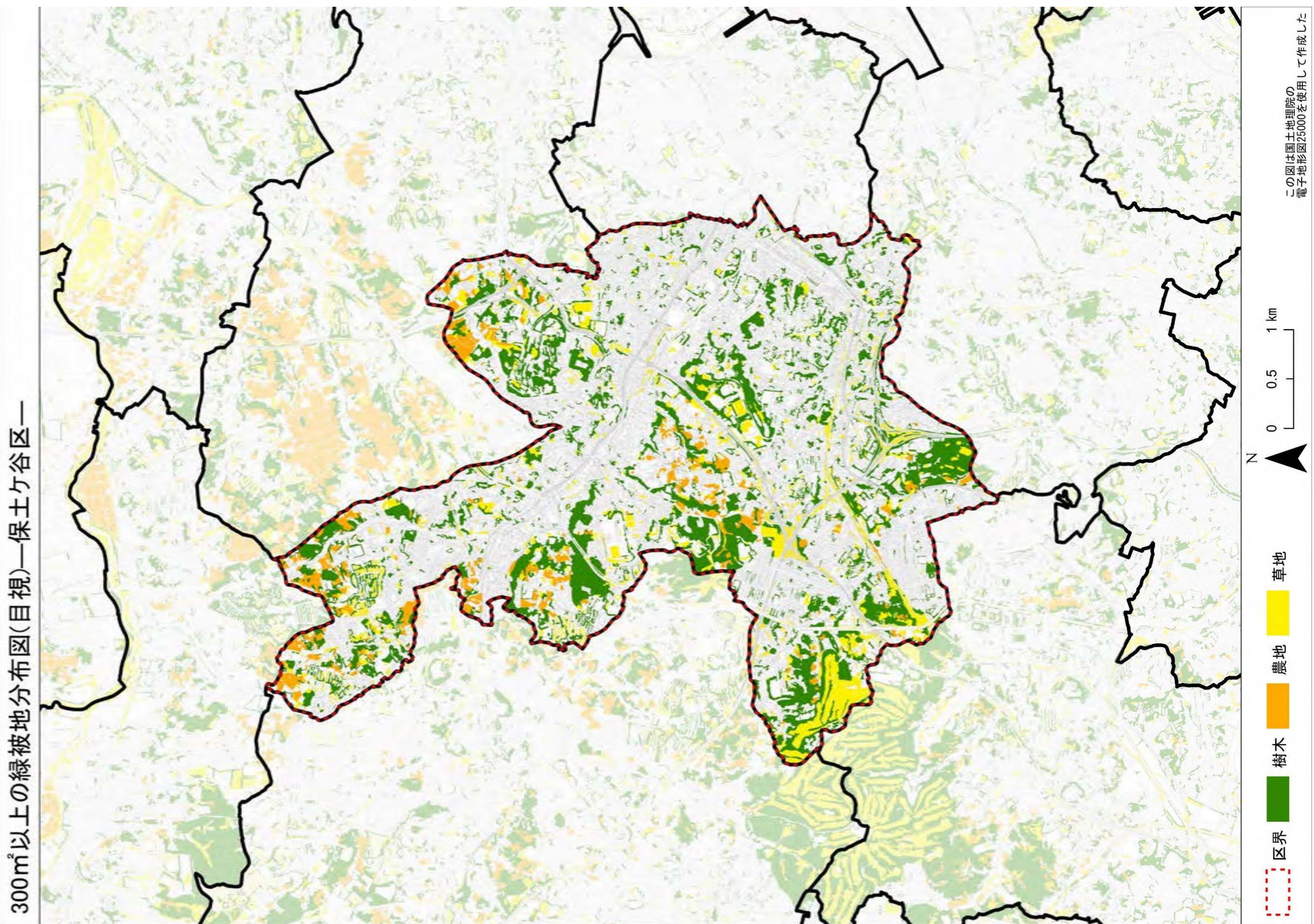
図表 2-1-18 中区の緑被地分布図



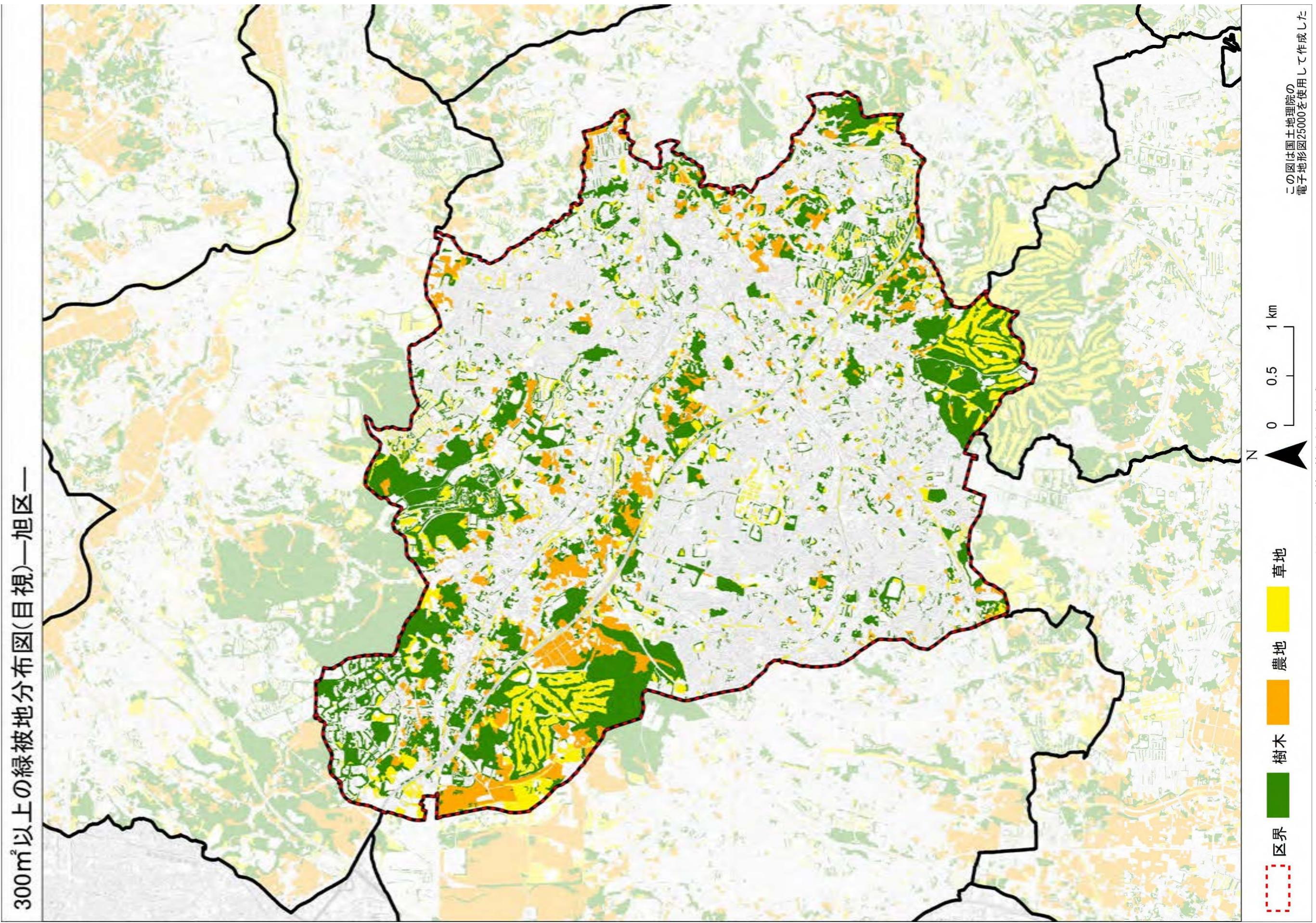
図表 2-1-19 港南区の緑被地分布図



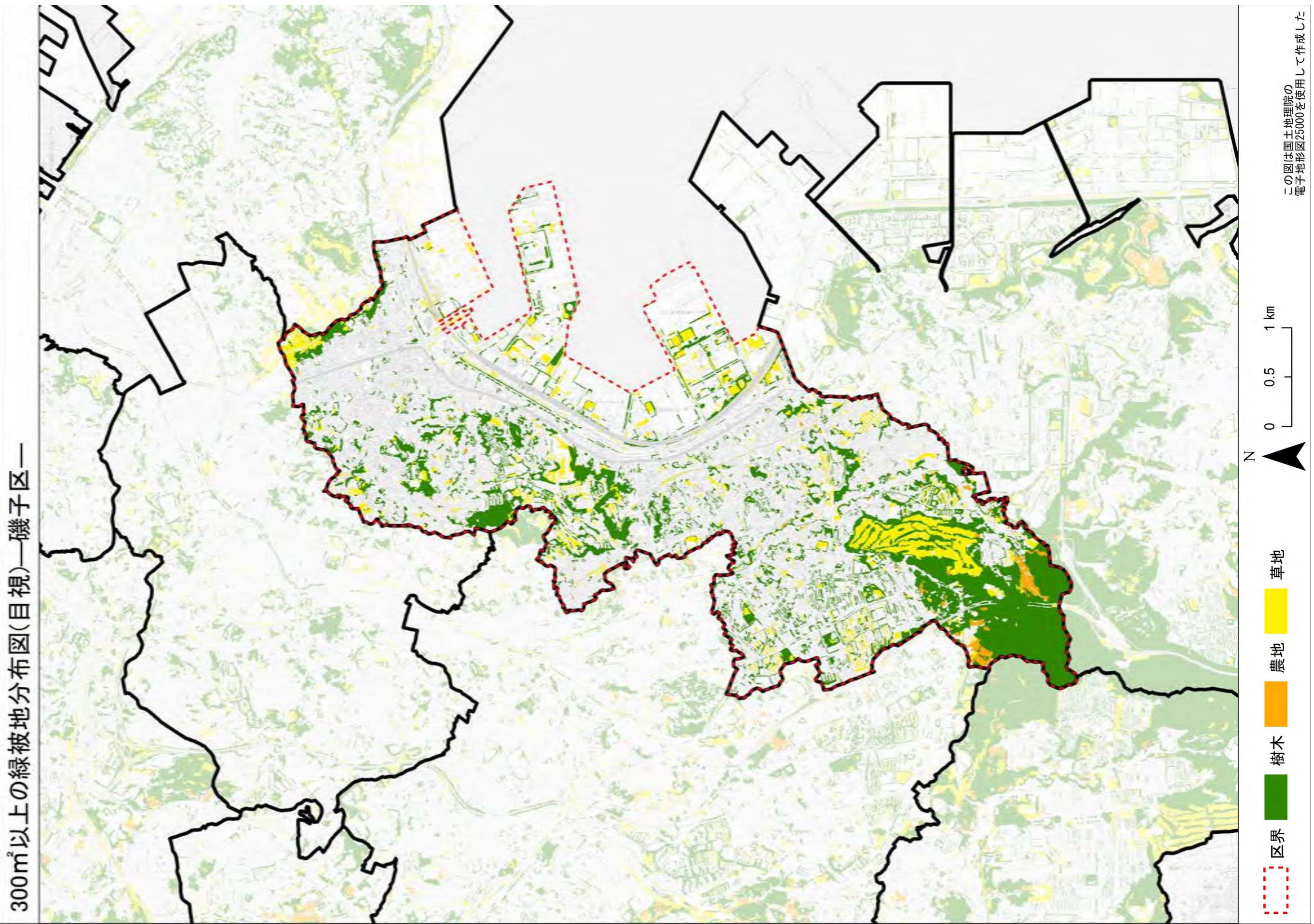
図表 2-1-20 保土ヶ谷区の緑被地分布図



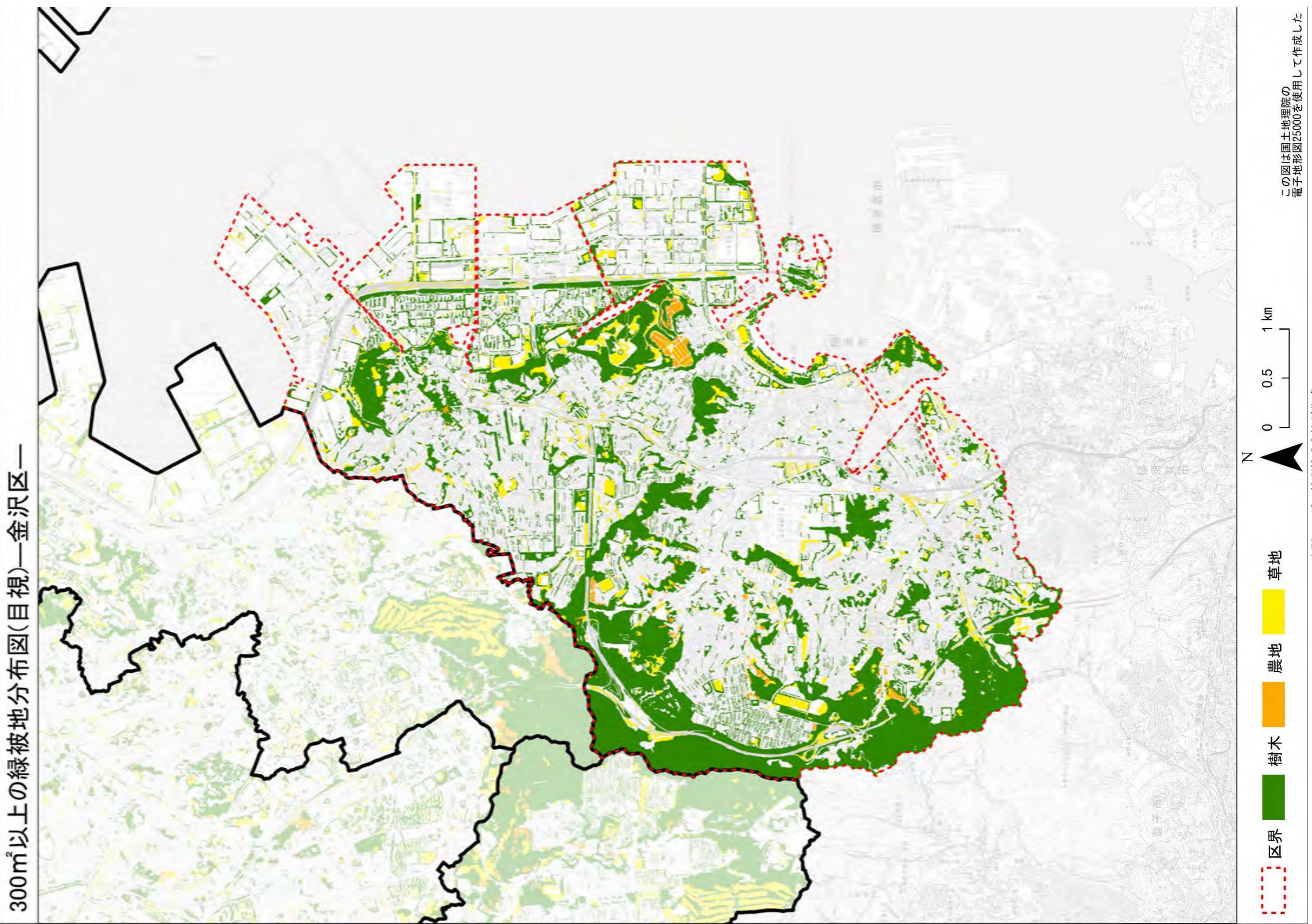
図表 2-1-21 旭区の緑被地分布図(目視)ー旭区ー



図表 2-1-22 磯子区の緑被地分布図

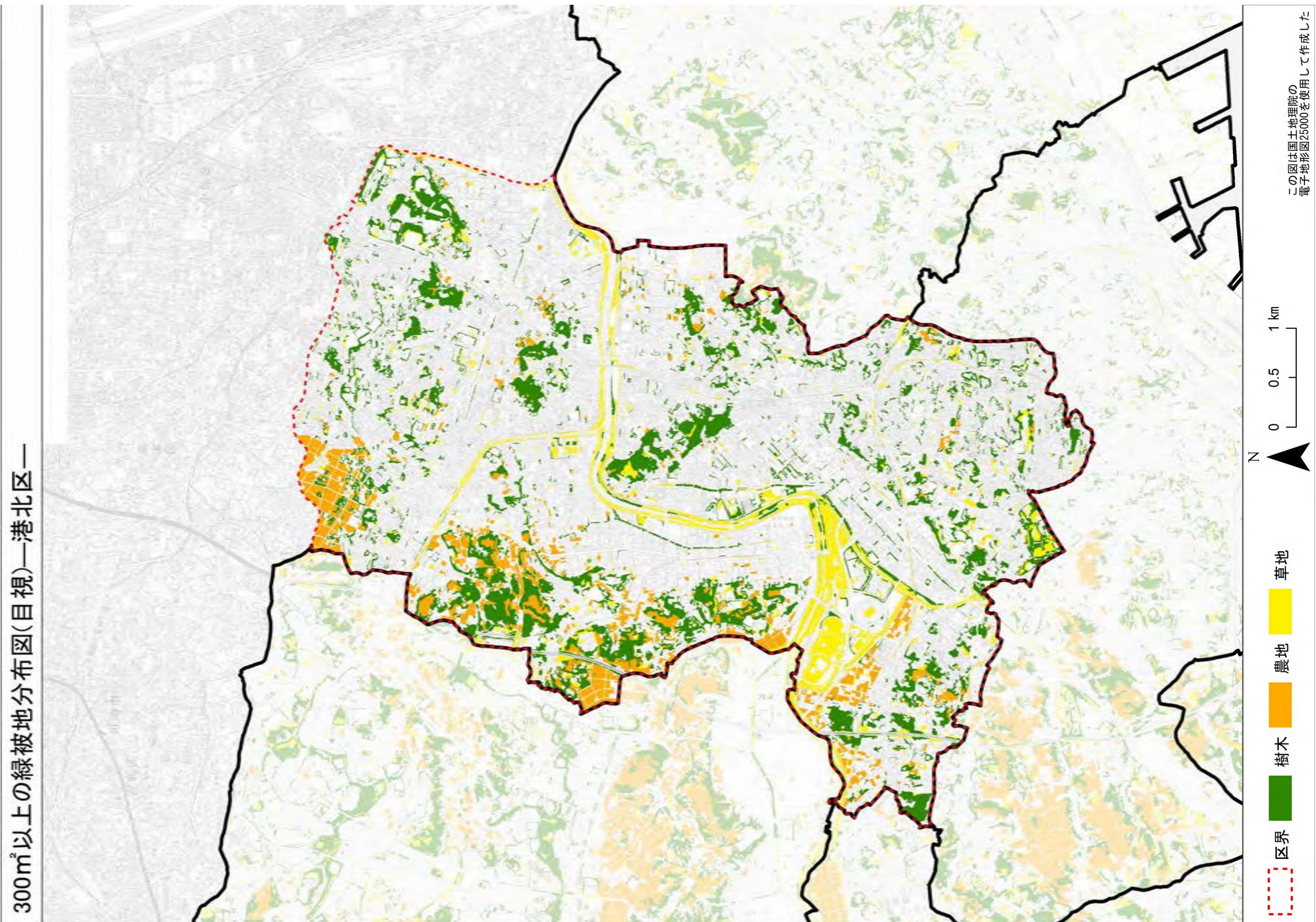


図表 2-1-23 金沢区の緑被地分布図(目視)—金沢区—

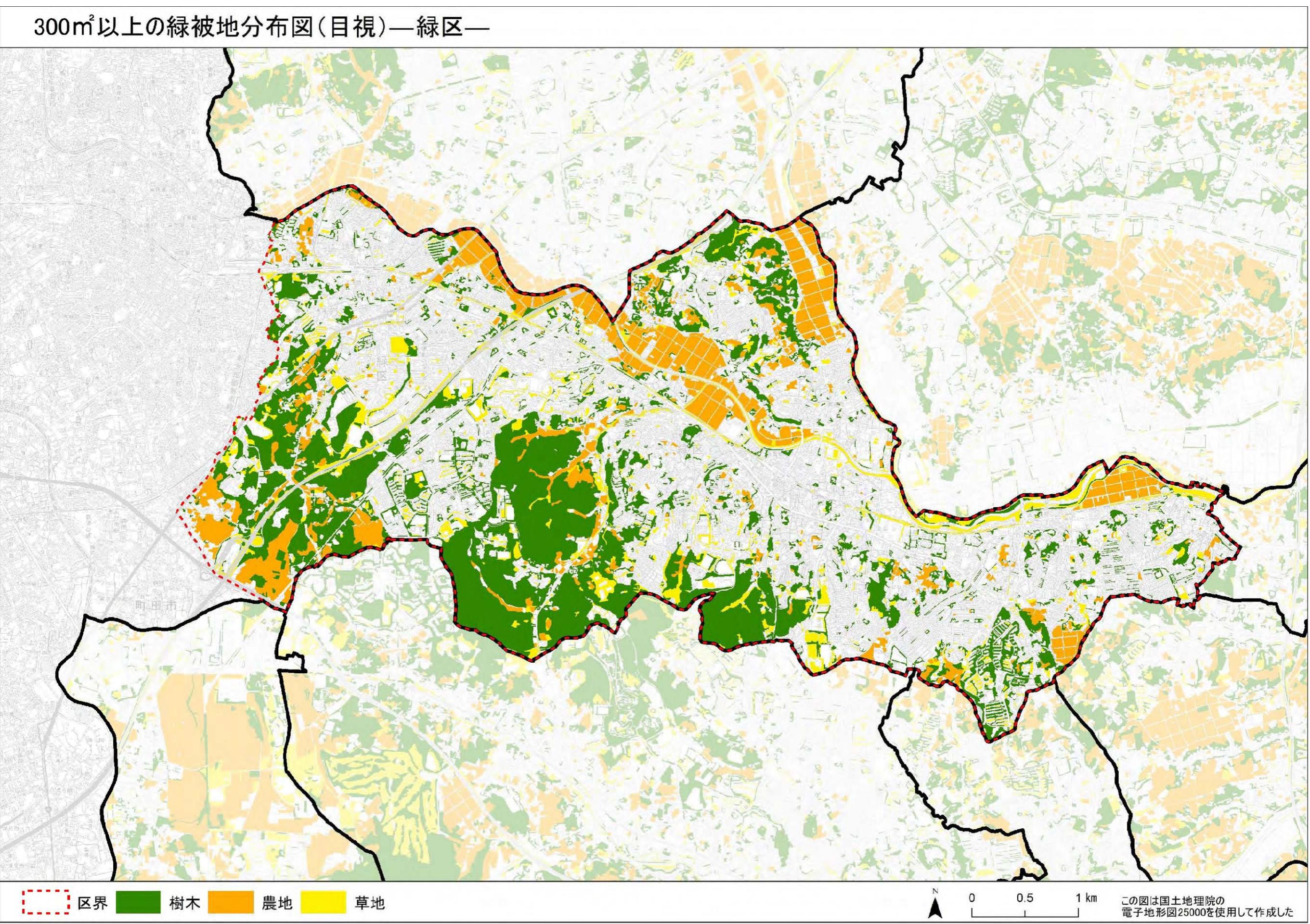


図表 2-1-24 港北区の緑被地分布図

300m²以上の緑被地分布図(目視)—港北区—

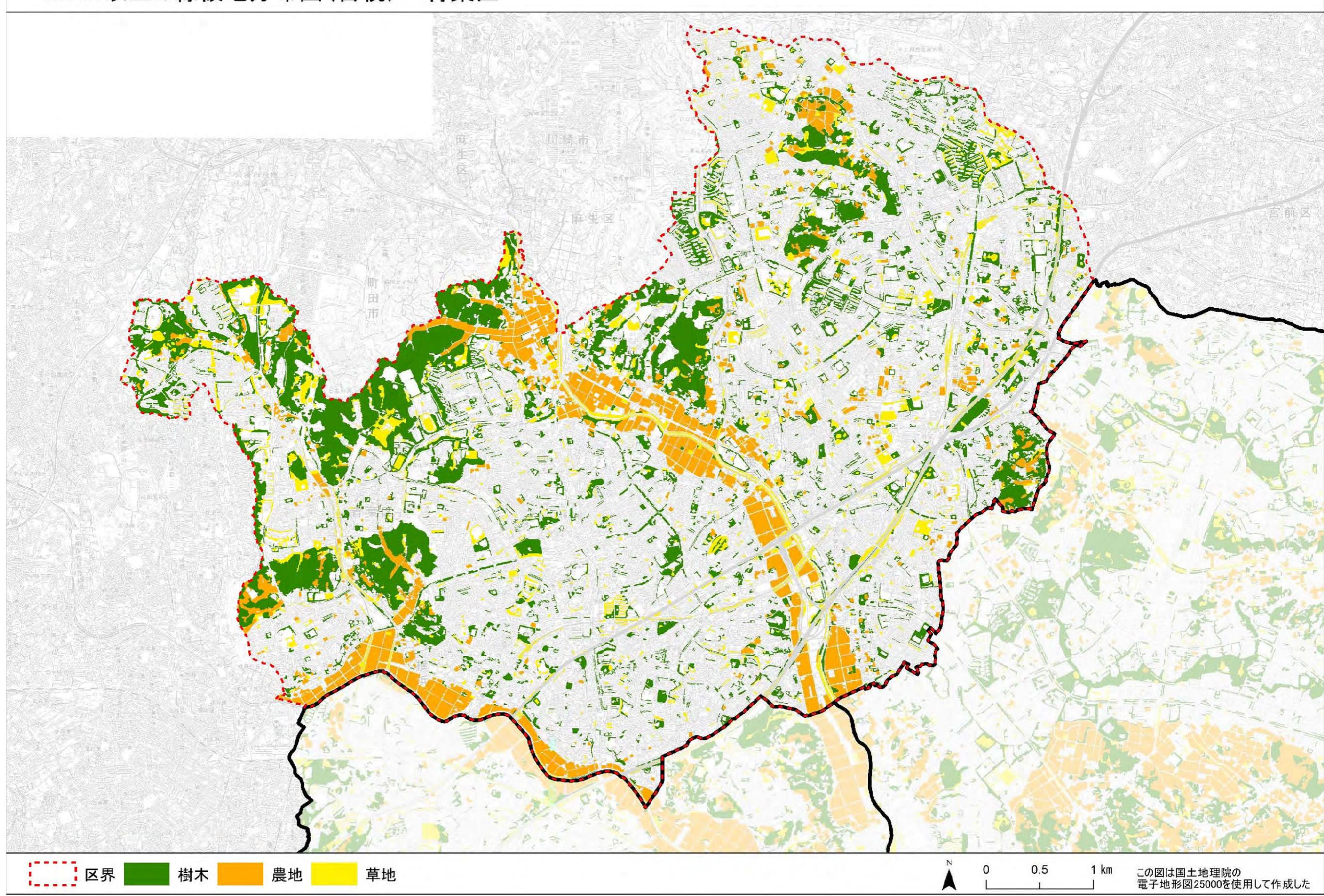


図表 2-1-25 緑区の緑被地分布図



図表 2-1-26 青葉区の緑被地分布図

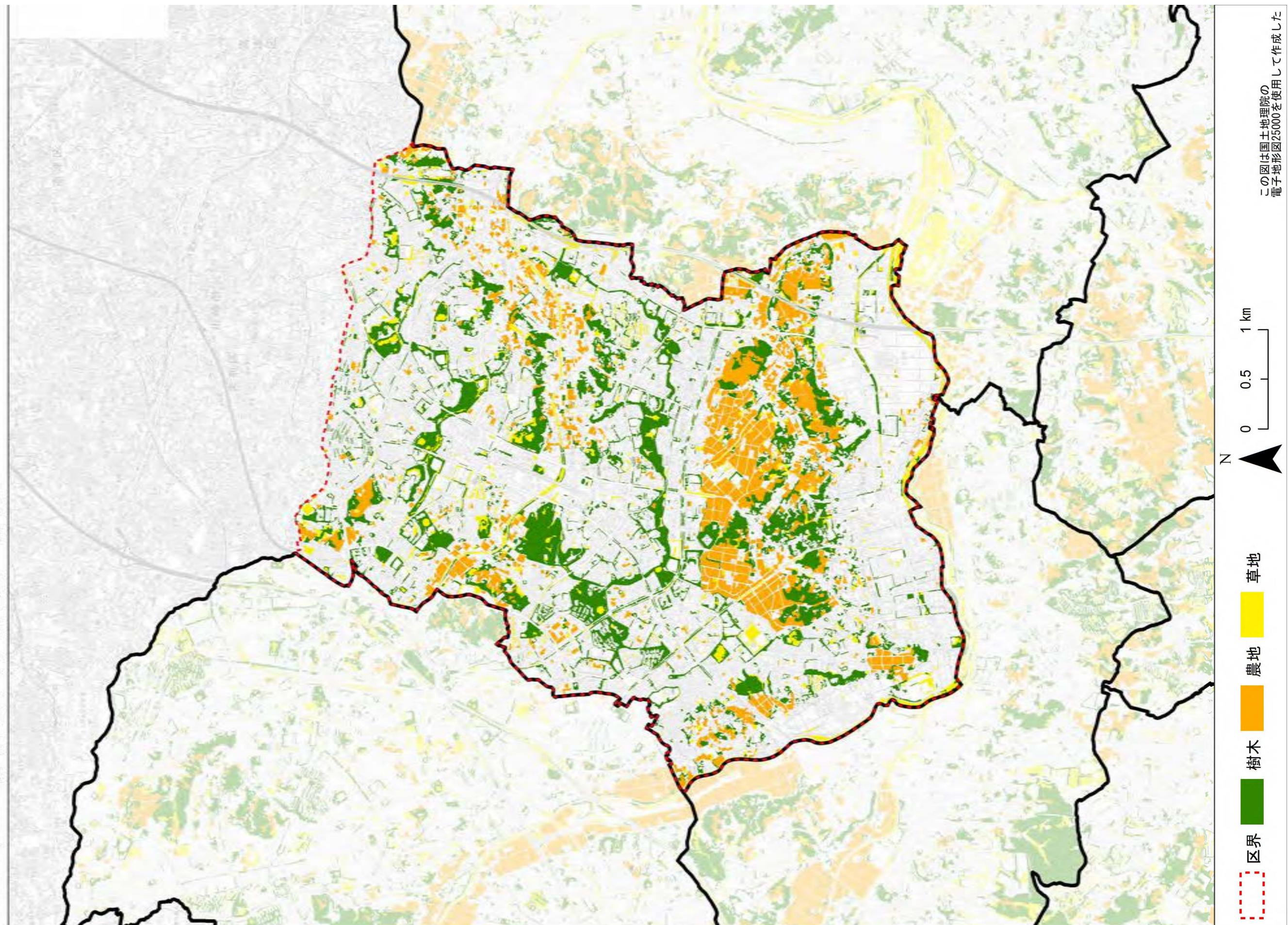
300m²以上の緑被地分布図(目視)—青葉区—



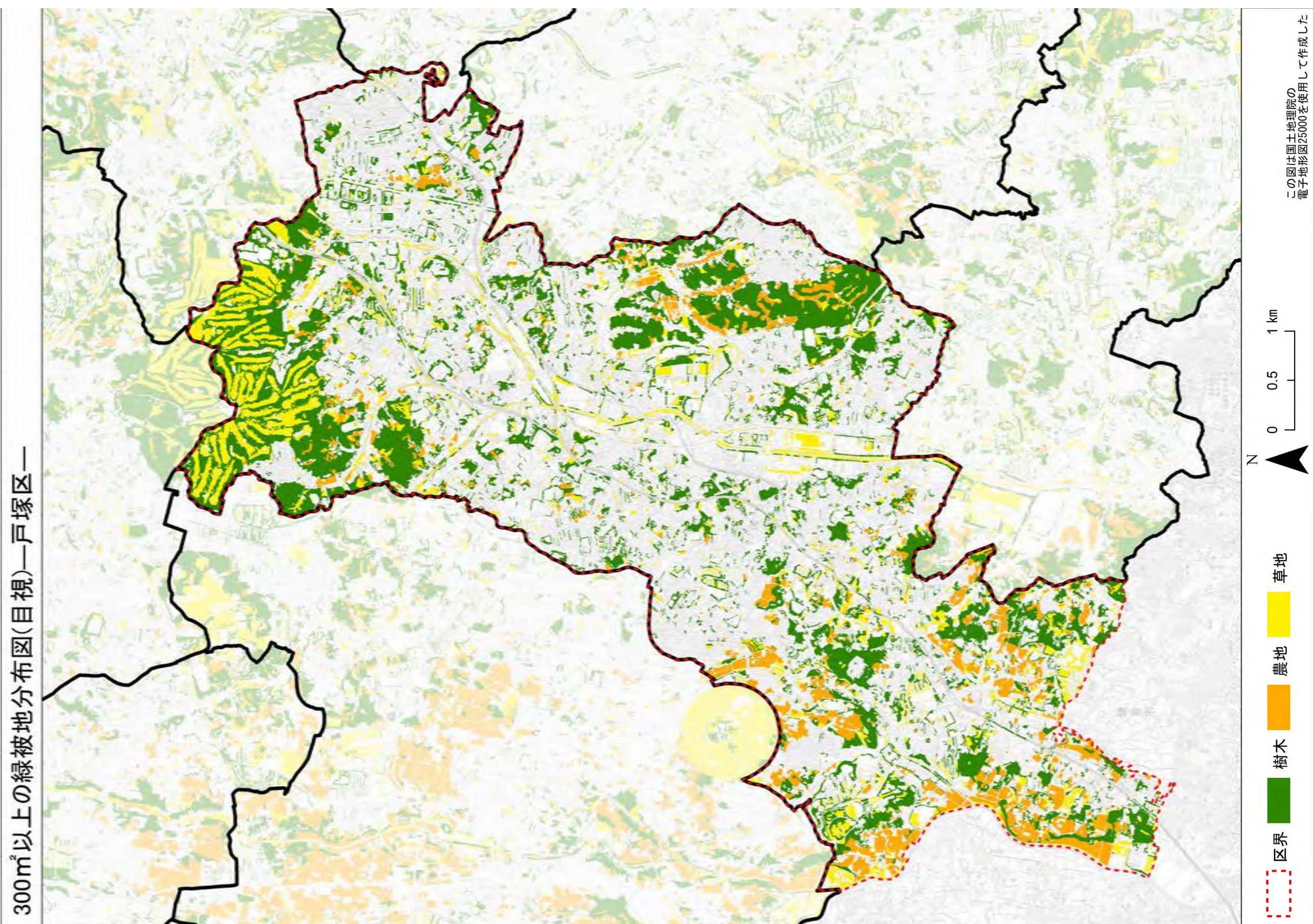
出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-27 都筑区の緑被地分布図

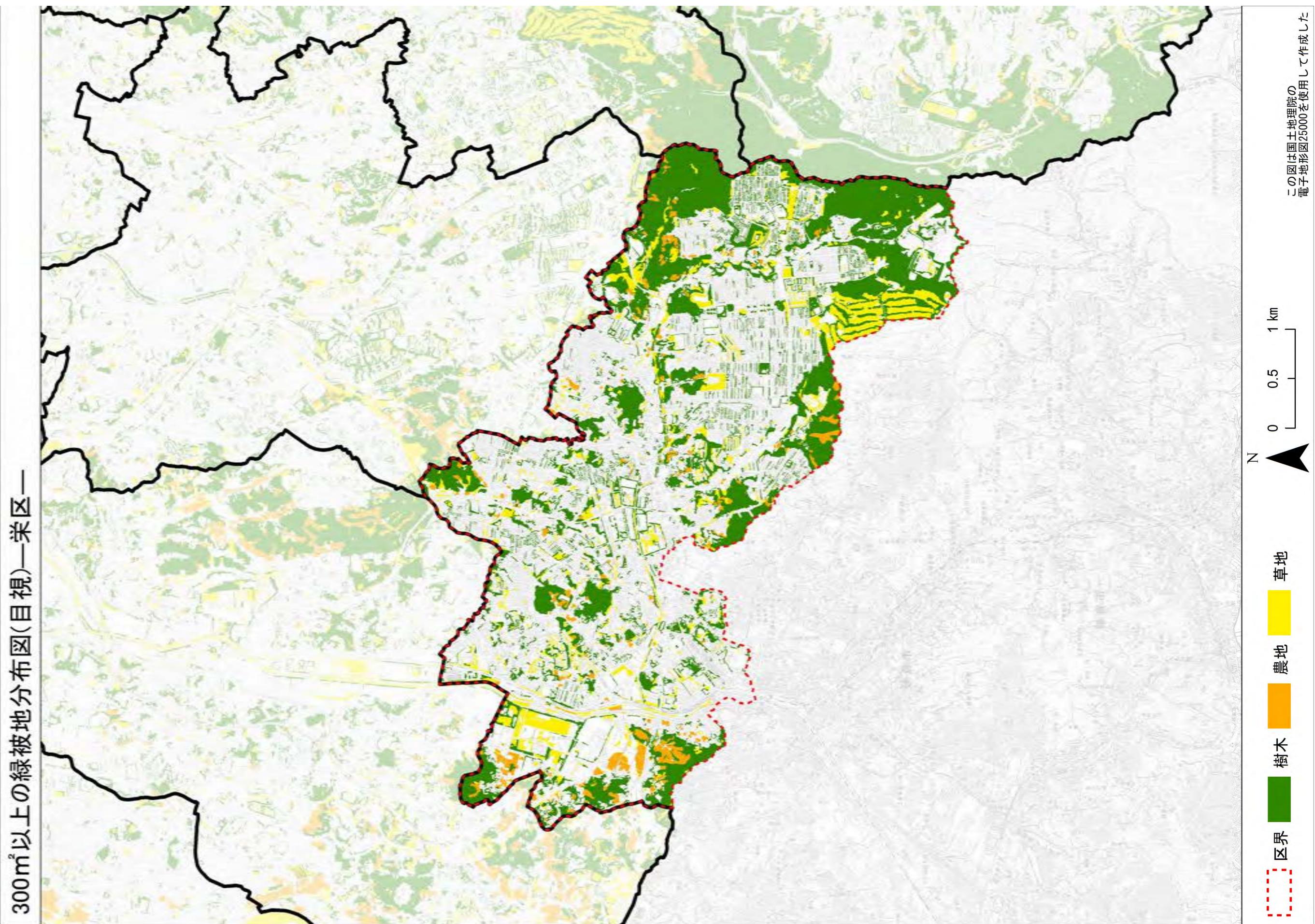
300m²以上の緑被地分布図(目視)—都筑区—



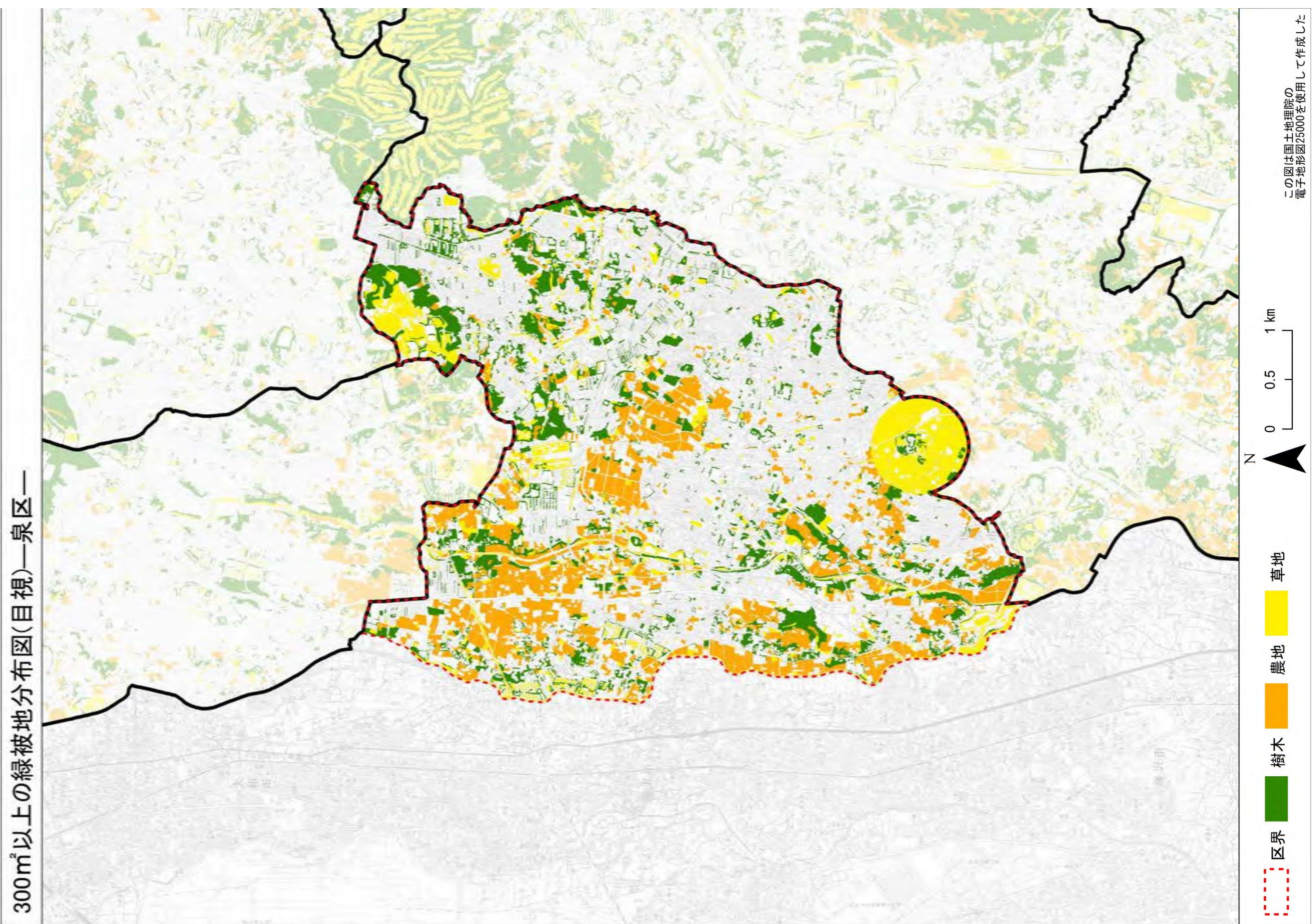
図表 2-1-28 戸塚区の緑被地分布図



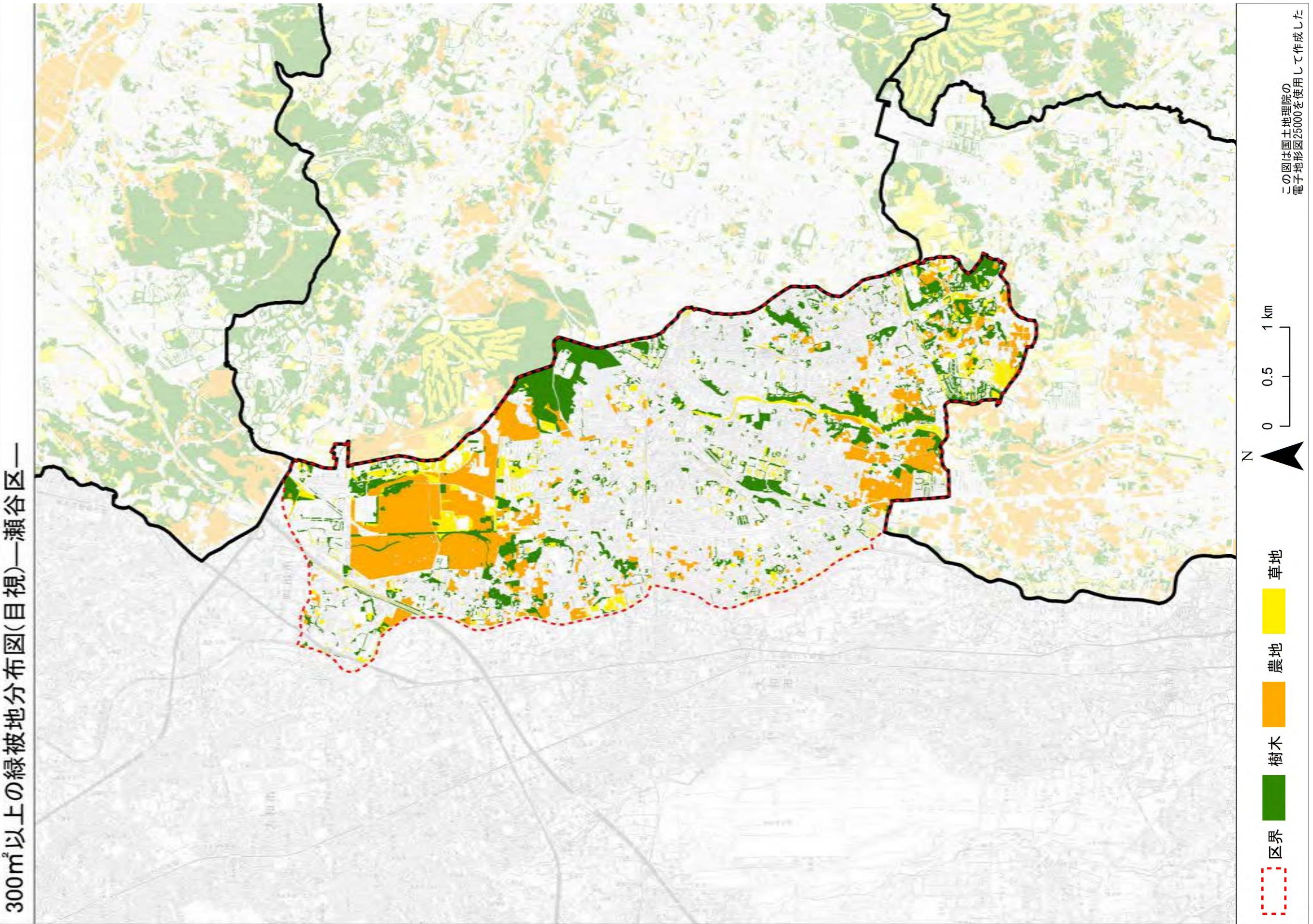
図表 2-1-29 神区の緑被地分布図



図表 2-1-30 泉区の緑被地分布図



図表 2-1-31 濑谷区の緑被地分布図

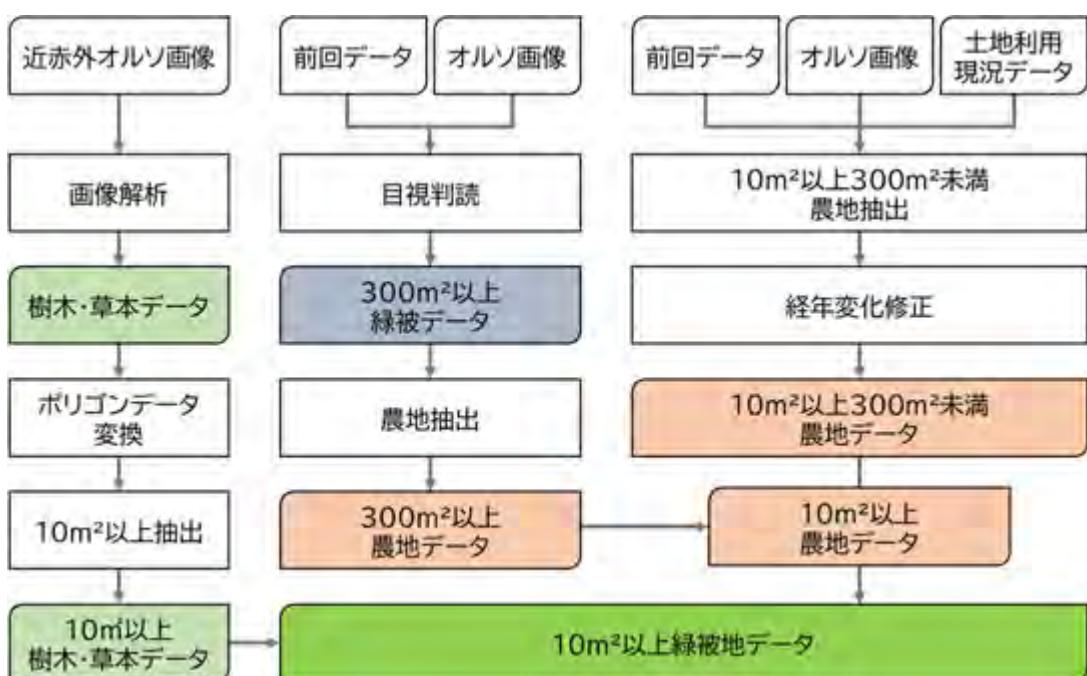


(2) 10 m²以上の緑被地（画像解析）

ア 緑被地の調査

10 m²以上の細かな緑被地については、目視による取得が困難なため、18 区に分割した近赤外カラーオルソ画像データを用いた画像解析（オブジェクト指向分類）により抽出し、新たな緑被地 GIS データとして整備した。緑被地の区分については、第 11 次調査と同様に、樹木、農地、草地の 3 区分とした。なお、農地については、画像解析による分類が困難であるため、前項（1）で整備した農地等のデータを用いた。以上のような調査フローを図表 2-1-32 に示す。

図表 2-1-32 10 m²以上の緑被地の調査フロー



※前回データ：第 11 次調査における緑被地 GIS データ

オルソ画像：第 12 次緑地環境診断調査で整備された画像（令和 6 年 5 月撮影）

土地利用現況データ：横浜市より借用した令和 2 年度都市計画基礎調査成果

出所：アジア航測株式会社が作成

画像解析に使用したソフトウェア、オブジェクト分割時のパラメータ設定値、教師情報の取得方法、教師情報の輝度値の特徴についてとりまとめ、①～④に整理した。

①使用ソフトウェア及びオブジェクト分割時のパラメータ設定

解析は、画像分類をするための専用ソフトウェアである eCognition Developer 8.0 を使用し、オブジェクトに基づく分割処理を行った。オブジェクト分割時のパラメータ設定値は、第 11 次調査と同様に、以下のように設定した。オブジェクト分割の例を図表 2-1-33 に示す。

- SP 値：「15」
- Compactness : 「0.8」
- Smoothness : 「0.2」

図表 2-1-33 オブジェクト分割の例

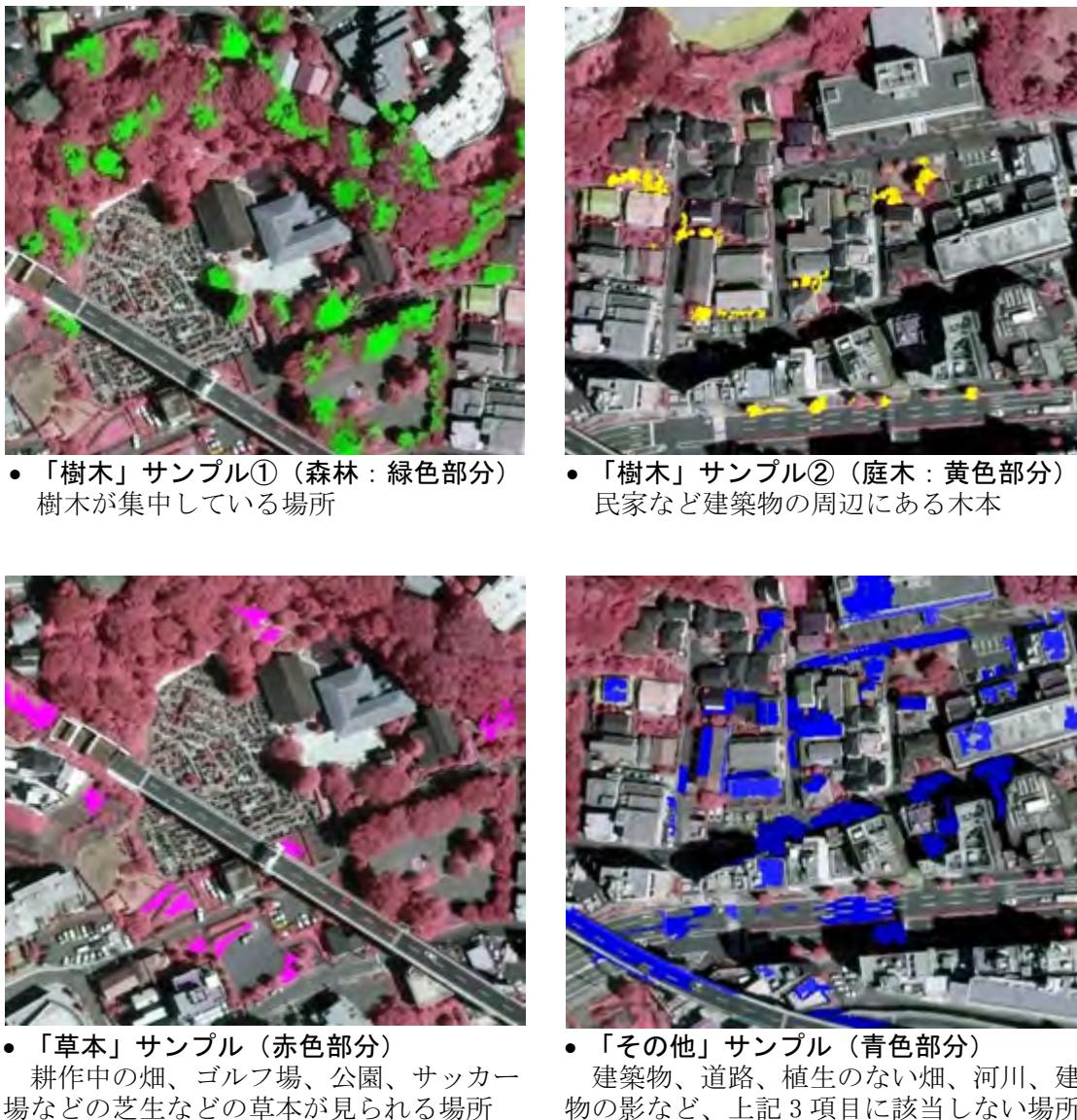


出所：アジア航測株式会社が作成

②教師情報の取得

画像解析により抽出する「樹木」、「草本」、および「それ以外」について、画像処理を実施する区域ごとに約1000～2000個所のサンプルを取得した。各サンプルイメージを図表2-1-34に示す。

図表 2-1-34 各サンプルイメージ



出所：アジア航測株式会社が作成

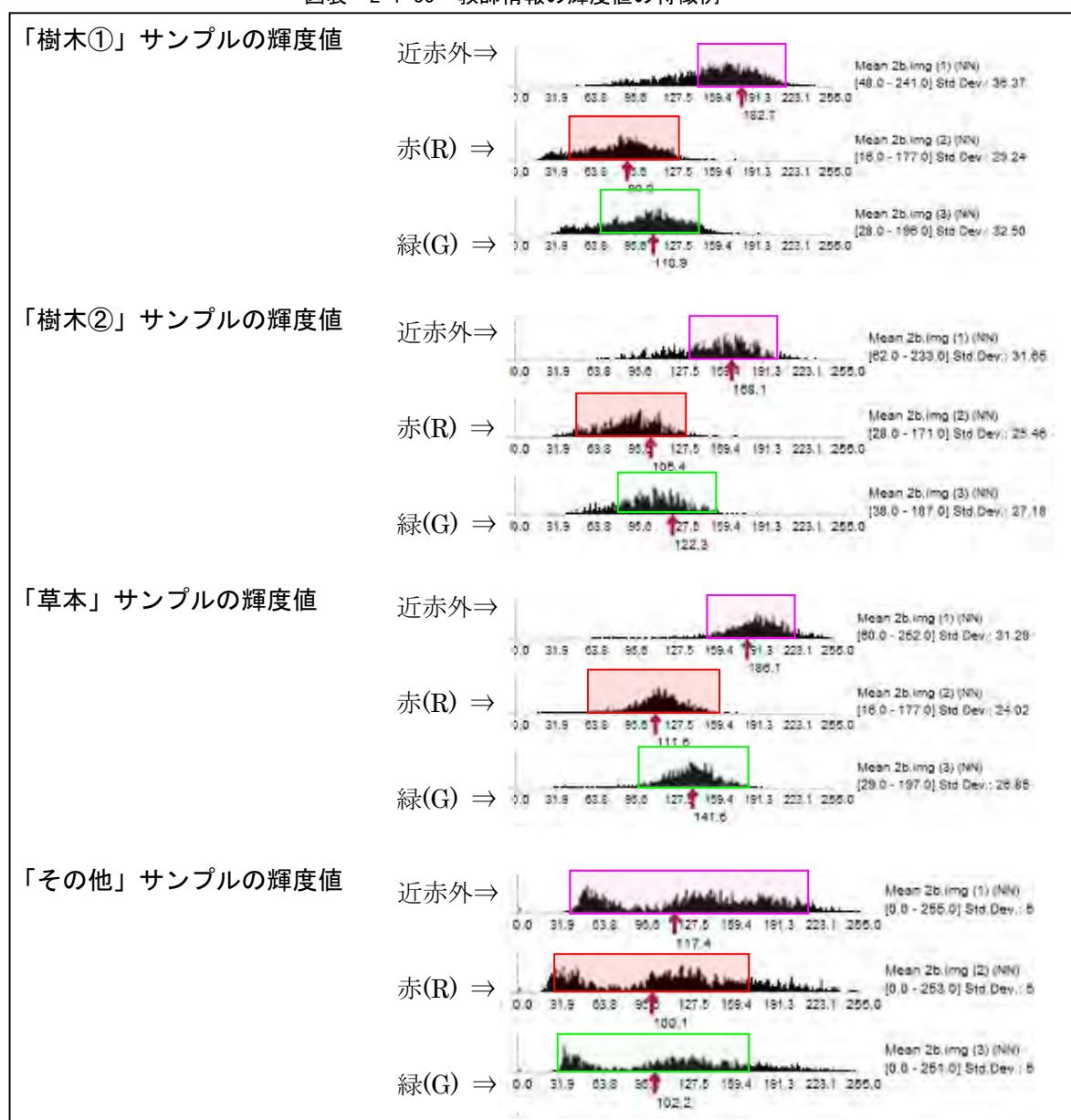
③統計処理に基づく画像分類の実施

取得した教師情報のサンプルをもとに、解析単位（18 区）ごとに統計処理に基づく画像分類を行い「樹木」「草本」の抽出を行った。

教師情報について画像の色調の強弱を示す輝度値の特徴をみると、「樹木①」「樹木②」と「草本」は、いずれも植生を含むため近赤外の輝度が高く大きな違いは見られないが、「草本」の方が「樹木①」「樹木②」に比べ赤、緑の輝度が若干高い傾向があった。また、「その他」は、植生を含まないため「樹木①②」「草本」に比べ近赤外の輝度が低く、また様々な地物を含んでいるため近赤外、赤、緑とも輝度値の分布幅も広くなっている（図表 2-1-35）。

画像解析においては、以上の特徴（差異）を基に統計的に分類した。

図表 2-1-35 教師情報の輝度値の特徴例



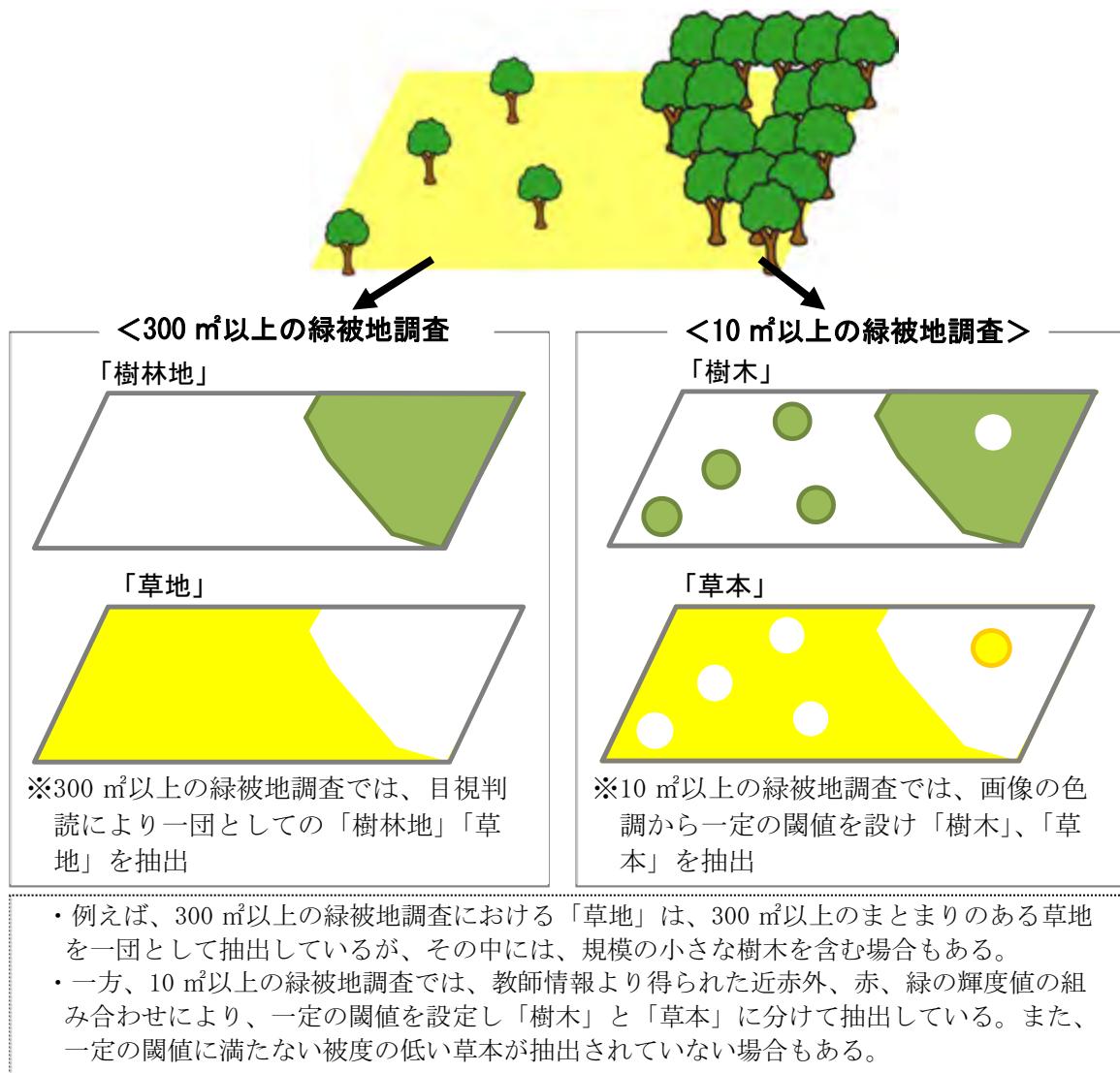
出所：アジア航測株式会社が作成

④画像解析結果の特徴

画像解析による 10 m^2 以上の緑被地調査における「樹木」「草本」と、目視判読による 300 m^2 以上の緑被地調査における「樹林地」「草地」では、図表2-1-36に示すような調査手法の違いにより同じ範囲であっても「樹木」と「樹林地」、「草地」と「草本」同士で面積が異なる場合があり、両者を単純に比較することはできない。

また、 10 m^2 以上の緑被地調査では、画像の色調に基づき統計的手法に基づく画像分類を行っているが、陰影の影響、教師としたサンプルの輝度値の分散状況、ミクセル（画像1ピクセルに複数の土地被覆が混在しているピクセルのこと(mixed pixel)）などの影響により分類結果には一定の不確実性を伴う。また、写真地図画像の位置精度が異なれば（同一地点であっても画像の空間的な配置が異なれば）、正射投影した地図上の分類結果は異なる。そのため仮に土地被覆に変化のない同一地点であっても、使用した画像の違いにより分類結果が異なる可能性があり、異なる画像の解析結果を単純に比較することはできない。

図表 2-1-36 10 m^2 以上の緑被地調査と 300 m^2 以上の緑被地調査の違い



出所：アジア航測株式会社が作成

イ 緑被地の集計

整備した 10 m²以上の緑被地 GIS データを用いて、市全域、18 区別、市街化区域・市街化調整区域、用途地域別に緑被地面積及び緑被率を集計した。

① 市全域の集計結果

画像解析による 10 m²以上の緑被地を集計した結果、令和 6 年度における横浜市全域の緑被地面積は 14,360 ha、緑被率は 32.9% であった（図表 2-1-37）。また、第 11 次調査と比較すると、緑被地面積は 388ha 減少し、緑被率は 33.8% から 0.9 ポイント低下していた（図表 2-1-38）。

図表 2-1-37 市全域の 10 m²以上の緑被地面積及び緑被率

		緑被地面積 (ha)	緑被率 (%)	市全域面積 (ha)
緑被地	樹木	9,431	21.6%	43,650
	農地	2,326	5.3%	
	草本	2,603	6.0%	
	合計	14,360	32.9%	

※市全域面積は、令和5年度時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-38 横浜市全域の 10 m²以上の緑被地面積及び緑被率の経年変化

		平成 26 年		令和元年		令和 6 年		前回からの増減	
緑被地	面積 (ha)	面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (%)	面積 (ha)	緑被率 (ポイント)
		9,605	22.0%	9,496	21.8%	9,431	21.6%	-65	-0.1%
		2,630	6.0%	2,435	5.6%	2,326	5.3%	-109	-0.3%
		2,606	6.0%	2,817	6.5%	2,603	6.0%	-214	-0.5%
		14,841	34.1%	14,748	33.8%	14,360	32.9%	-388	-0.9%
市全域面積		43,580		43,650		43,650		0	

※令和 6 年の市全域面積は令和5年度時点の値（出典：第103回横浜市統計書）、

令和元年の市全域面積は平成30年度末時点の値（出典：第98回横浜市統計書）、

平成26年の市全域面積は、平成25年度末時点の値（km²単位）（出典：第93回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

② 18 区別の集計結果

画像解析による 10 m²以上の緑被地を集計した結果、18 区別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-39、図表 2-1-40 の通りであった。緑被地面積をみると、最も大きかったのは戸塚区で、最も小さかったのは西区であった。緑被率では、最も大きかったのは緑区（45.5%）で、最も小さかったのは西区（14.4%）であった。

18 区別の緑被地面積及び緑被率の推移を図表 2-1-41、図表 2-1-42 に示す。18 区全てにおいて、第 11 次調査から緑被地は減少していた。

図表 2-1-39 緑被区別の 10 m²以上の緑被地の面積及び緑

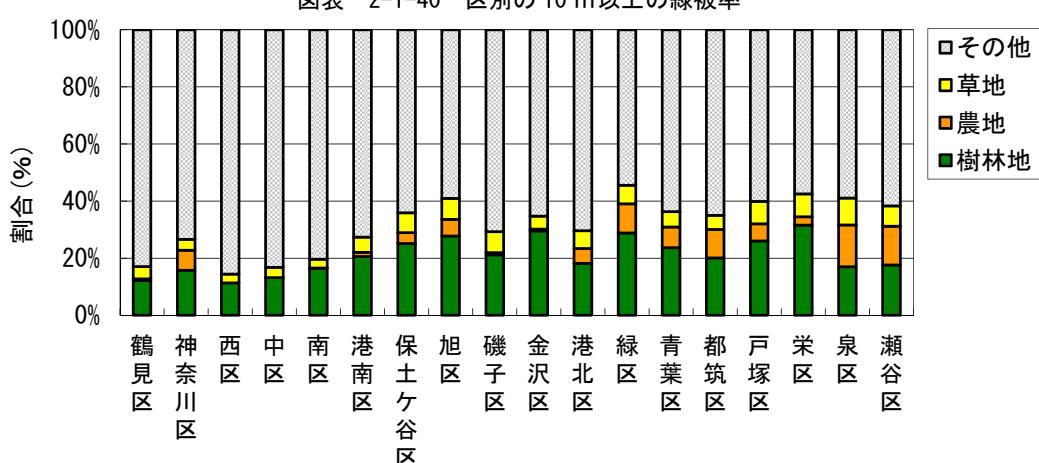
区名	区面積 (ha)	緑被地面積(ha)			合 計	緑被率 (%)
		樹木	農地	草本		
鶴見区	3,250	398	16	140	554	17.1%
神奈川区	2,360	373	165	89	627	26.6%
西区	700	79	0	22	101	14.4%
中区	2,150	283	0	78	361	16.8%
南区	1,270	208	2	39	249	19.6%
港南区	1,990	410	30	106	545	27.4%
保土ヶ谷区	2,180	547	84	151	783	35.9%
旭区	3,280	910	192	240	1,342	40.9%
磯子区	1,900	402	15	139	556	29.3%
金沢区	3,070	907	20	140	1,067	34.7%
港北区	3,140	570	165	195	930	29.6%
緑区	2,540	733	259	164	1,156	45.5%
青葉区	3,520	833	256	189	1,278	36.3%
都筑区	2,790	560	278	138	976	35.0%
戸塚区	3,580	933	214	281	1,428	39.9%
栄区	1,850	584	54	147	786	42.5%
泉区	2,350	400	344	222	965	41.1%
瀬谷区	1,710	301	232	121	655	38.3%
合計	43,650	9,431	2,326	2,603	14,360	32.9%

※区面積及び区面積の合計は、令和 5 年度末時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-40 区別の 10 m²以上の緑被率



出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-41 (1/2) 18 区別の 10 m²以上の緑被地の面積及び緑被率の経年変化

区名	年度	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)			緑被率
			樹木	農地	草本	
鶴見区	H21	3,250	491	26	105	622 19.1%
	H26	3,252	400	21	132	554 17.0%
	R1	3,250	394	19	149	562 17.3%
	R6	3,250	398	16	140	554 17.1%
	R6-R1	0	4	-3	-9	-7 -0.2 ポイント
神奈川区	H21	2,360	437	191	73	701 29.7%
	H26	2,360	370	179	96	645 27.3%
	R1	2,360	379	172	96	647 27.4%
	R6	2,360	373	89	89	627 26.6%
	R6-R1	0	-7	-82	-7	-20 -0.9 ポイント
西区	H21	700	79	0	34	113 16.1%
	H26	700	73	0	25	98 14.0%
	R1	700	78	0	24	103 14.7%
	R6	700	79	0	22	101 14.4%
	R6-R1	0	1	0	-3	-2 -0.3 ポイント
中区	H21	2,050	306	0	91	397 19.4%
	H26	2,077	274	0	79	353 17.0%
	R1	2,150	287	0	83	370 17.2%
	R6	2,150	283	0	78	361 16.8%
	R6-R1	0	-4	0	-5	-9 -0.4 ポイント
南区	H21	1,270	251	3	46	300 23.6%
	H26	1,266	198	2	47	247 19.5%
	R1	1,270	207	2	47	256 20.2%
	R6	1,270	208	2	39	249 19.6%
	R6-R1	0	1	-0	-8	-7 -0.6 ポイント
港南区	H21	1,990	499	39	83	621 31.2%
	H26	1,991	401	35	104	540 27.1%
	R1	1,990	403	33	119	555 27.9%
	R6	1,990	410	30	106	545 27.4%
	R6-R1	0	7	-4	-13	-10 -0.5 ポイント
保土ヶ谷区	H21	2,190	633	105	119	858 39.2%
	H26	2,185	580	92	150	822 37.6%
	R1	2,180	561	91	167	818 37.5%
	R6	2,180	547	84	151	783 35.9%
	R6-R1	0	-13	-7	-16	-35 -1.6 ポイント
旭区	H21	3,280	997	249	217	1,463 44.6%
	H26	3,278	951	213	256	1,420 43.3%
	R1	3,280	917	207	249	1,373 41.9%
	R6	3,280	910	192	240	1,342 40.9%
	R6-R1	0	-7	-15	-9	-31 -0.9 ポイント
磯子区	H21	1,900	499	16	136	651 34.3%
	H26	1,901	401	15	136	551 29.0%
	R1	1,900	401	16	149	565 29.7%
	R6	1,900	402	15	139	556 29.3%
	R6-R1	0	1	-1	-9	-9 -0.5 ポイント
金沢区	H21	3,070	1,033	20	189	1,243 40.5%
	H26	3,071	895	19	180	1,095 35.6%
	R1	3,070	911	19	169	1,099 35.8%
	R6	3,070	907	20	140	1,067 34.7%
	R6-R1	0	-4	0	-29	-33 -1.1 ポイント
港北区	H21	3,140	671	210	152	1,032 32.9%
	H26	3,143	571	187	182	940 29.9%
	R1	3,140	569	176	206	951 30.3%
	R6	3,140	570	165	195	930 29.6%
	R6-R1	0	1	-11	-10	-21 -0.7 ポイント

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-41 (2/2) 18 区別の 10 m²以上の緑被地の面積及び緑被率の経年変化

区名	年度	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)				緑被率
			樹木	農地	草本	合計	
緑区	H21	2,540	829	294	163	1,287	50.7%
	H26	2,545	829	294	163	1,287	50.6%
	R1	2,540	775	273	170	1,218	47.9%
	R6	2,540	733	259	164	1,156	45.5%
	R6-R1	0	-42	-14	-6	-61	-2.4 ポイント
青葉区	H21	3,520	919	296	230	1,445	41.1%
	H26	3,518	861	271	217	1,349	38.3%
	R1	3,520	839	260	227	1,326	37.7%
	R6	3,520	833	256	189	1,278	36.3%
	R6-R1	0	-6	-5	-38	-48	-1.4 ポイント
都筑区	H21	2,790	625	370	112	1,107	39.7%
	H26	2,793	574	328	155	1,057	37.8%
	R1	2,790	563	290	159	1,012	36.3%
	R6	2,790	560	278	138	976	35.0%
	R6-R1	0	-3	-12	-20	-35	-1.3 ポイント
戸塚区	H21	3,580	1,059	247	257	1,563	43.6%
	H26	3,578	985	225	264	1,474	41.2%
	R1	3,580	947	221	284	1,452	40.6%
	R6	3,580	933	214	281	1,428	39.9%
	R6-R1	0	-15	-7	-2	-24	-0.7 ポイント
栄区	H21	1,850	663	74	110	848	45.8%
	H26	1,854	570	63	141	774	41.7%
	R1	1,850	587	55	157	798	43.1%
	R6	1,850	584	54	147	786	42.5%
	R6-R1	0	-3	-0	-9	-12	-0.7 ポイント
泉区	H21	2,350	493	417	143	1,054	44.8%
	H26	2,353	431	389	185	1,005	42.7%
	R1	2,350	400	356	238	994	42.3%
	R6	2,350	400	344	222	965	41.1%
	R6-R1	0	-0	-12	-17	-29	-1.2 ポイント
瀬谷区	H21	1,720	370	282	84	736	42.8%
	H26	1,714	324	258	100	682	39.8%
	R1	1,710	301	257	113	671	39.2%
	R6	1,710	301	232	121	655	38.3%
	R6-R1	0	1	-25	9	-16	-0.9 ポイント
合計	H21	43,560	10,857	2,839	2,344	16,040	36.8%
	H26	43,580	9,634	2,571	2,619	14,824	34.0%
	R1	43,650	9,496	2,435	2,817	14,748	33.8%
	R6	43,650	9,431	2,326	2,603	14,360	32.9%
	R6-R1	0	-65	-109	-214	-388	-0.9 ポイント

※R6の区面積及び合計は令和5年度末時点の値（出典：第103回横浜市統計書）、

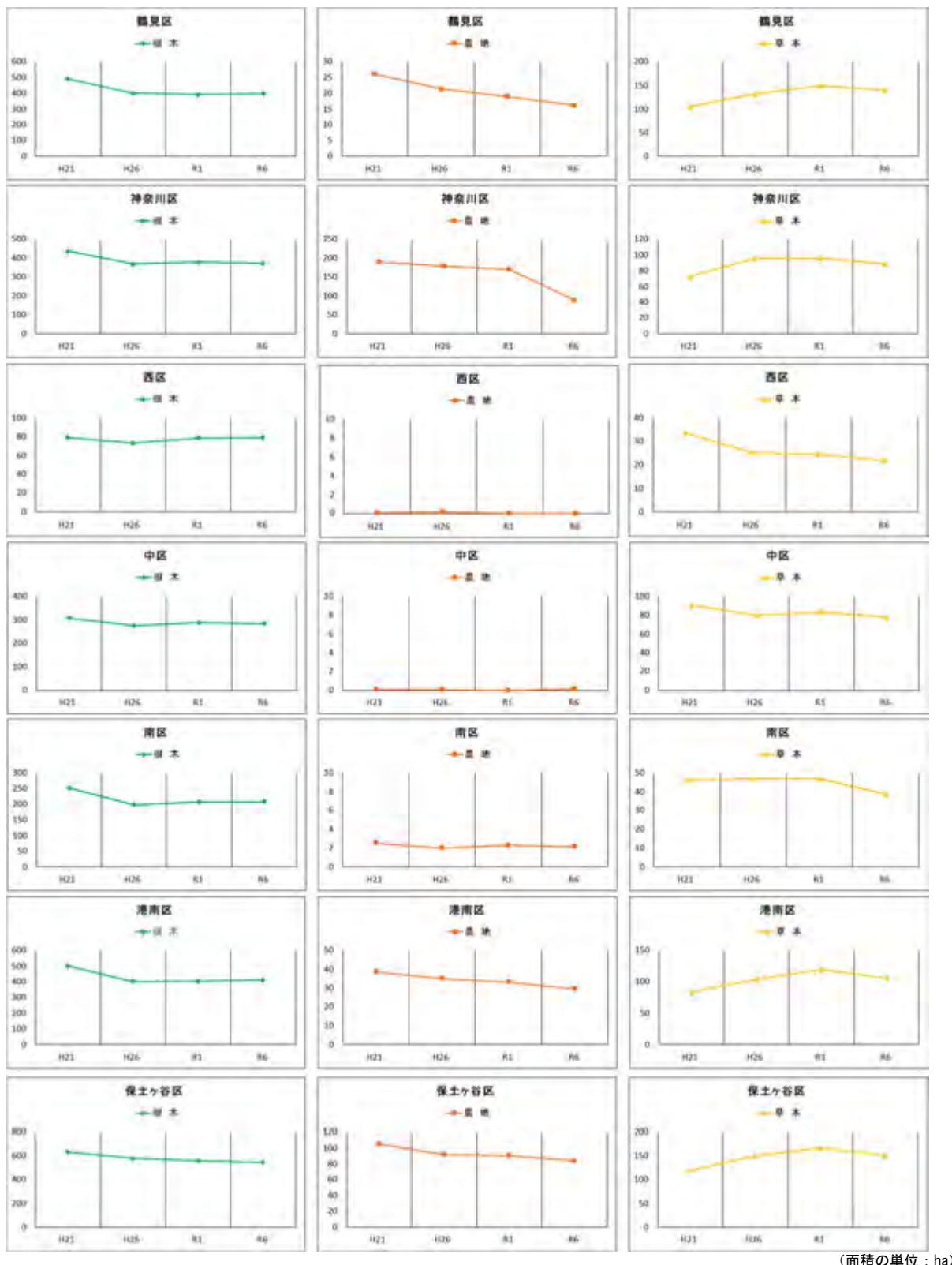
R1の区面積及び合計は平成30年度末時点の値（出典：第98回横浜市統計書）、

H26の区面積と区面積の合計は、平成25年度末時点の値（出典：第93回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

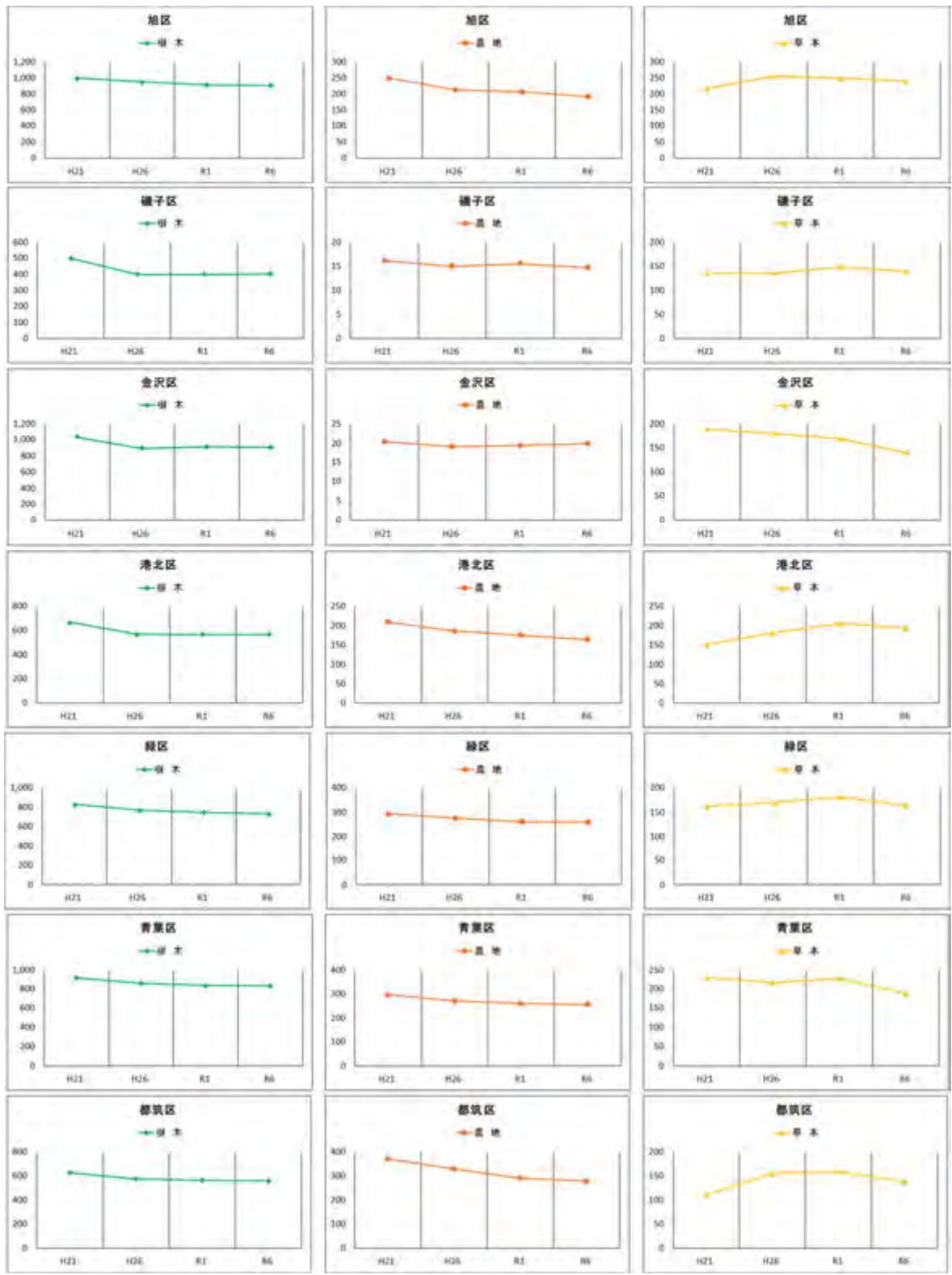
図表 2-1-42 (1/3) 18 区別の 10 m²以上の緑被地面積の経年変化



(面積の単位 : ha)

出所 : アジア航測株式会社が作成

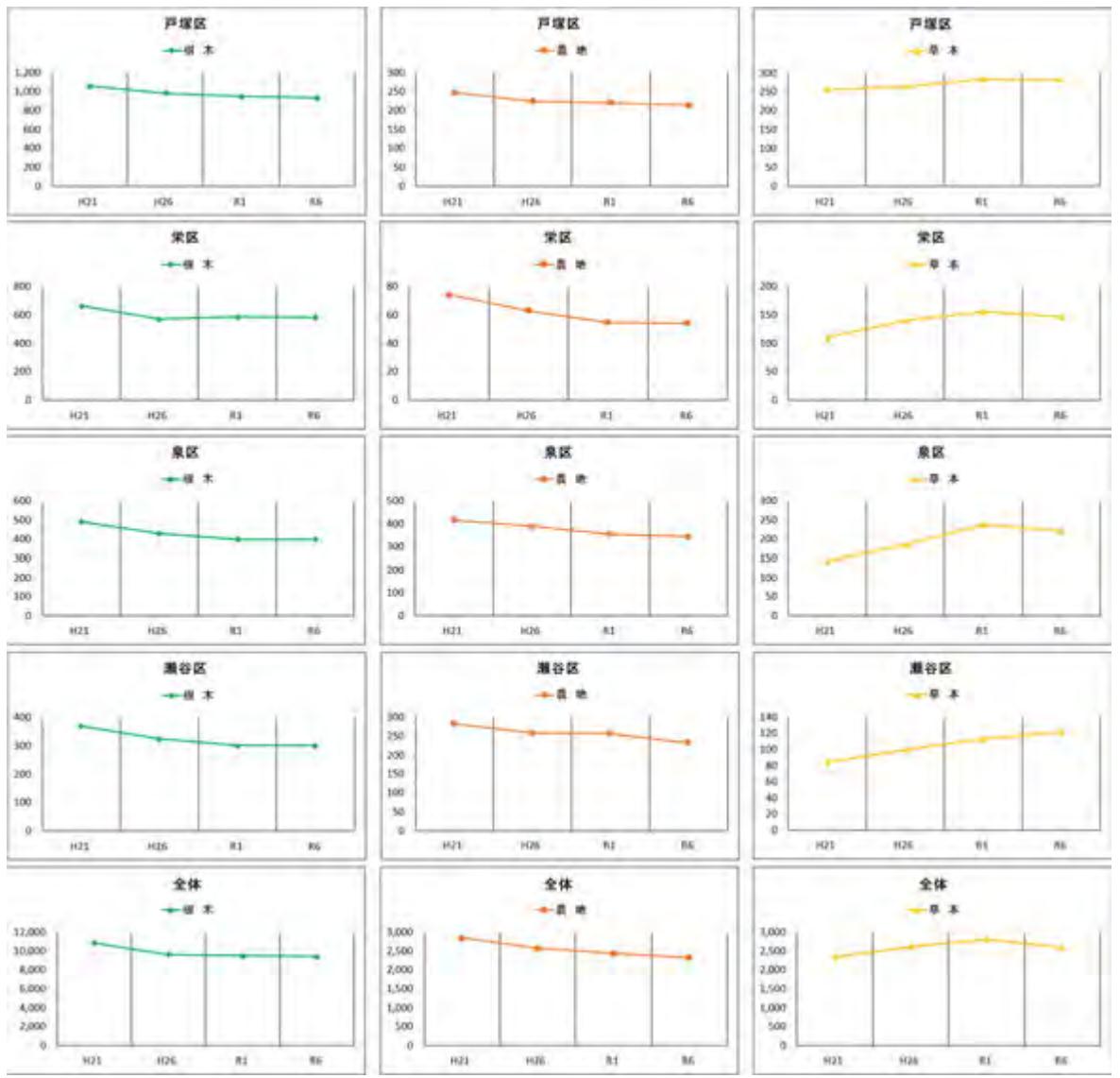
図表 2-1-42 (2/3) 18 区別の 10 m²以上の緑被地面積の経年変化



(面積の単位 : ha)

出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-42 (3/3) 18 区別の 10 m²以上の緑被地面積の経年変化



(面積の単位 : ha)

出所：アジア航測株式会社が作成

③ 市街化区域・市街化調整区域別の集計結果

画像解析による 10 m²以上の緑被地を集計した結果、市街化区域・市街化調整区域別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-43 の通りであった。

図表 2-1-43 市街化区域・市街化調整区域別の 10 m²以上の緑被地面積及び緑被率

	区域面積 (ha)	緑被地面積(ha)				緑被率 (%)
		樹木	農地	草本	合計	
市街化区域	33,770	5,766	318	1,465	7,549	22.4%
市街化調整区域	9,900	3,665	2,008	1,138	6,811	68.8%

※区域面積は、令和5年度末時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

④ 用途地域別の集計結果

画像解析による 10 m²以上の緑被地を集計した結果、用途地域別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-44 の通りであった。なお、用途地域面積は 300 m²以上の緑被地の集計と同様に横浜市より借用した最新の用途地域境界（GIS データ）の面積を用いた。

図表 2-1-44 用途地域別の 10 m²以上の緑被地面積及び緑被率

	用途地域面積 (ha)	緑被地面積(ha)				緑被率 (%)
		樹木	農地	草本	合計	
第 1 種低層住居専用地域	13,329	2,891	224	470	3,585	26.9%
第 2 種低層住居専用地域	516	77	6	12	95	18.4%
第 1 種中高層住居専用地域	2,700	713	13	222	947	35.1%
第 2 種中高層住居専用地域	1,776	360	9	74	443	24.9%
第 1 種住居地域	4,629	758	36	231	1,025	22.1%
第 2 種住居地域	531	87	3	33	123	23.2%
準住居地域	1,491	212	12	53	276	18.5%
近隣商業地域	1,426	90	0	19	110	7.7%
商業地域	1,928	106	0	38	145	7.5%
準工業地域	1,836	144	8	78	229	12.5%
工業地域	1,716	161	7	104	272	15.8%
工業専用地域	1,831	166	0	132	298	16.3%

※用途地域面積は、GISソフトウェアにより算出した値

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

⑤ 18 区別・区域区別の集計結果

画像解析による 10 m²以上の緑被地を集計した結果、18 区別・区域区別の緑被地面積及び緑被率は図表 2-1-45 の通りであった。

市街化区域内の緑被率をみると、栄区が 28.6%と最も大きく、次いで保土ヶ谷区、金沢区となっていた。一方で、市街化調整区域内では、磯子区が 84.4%と最も大きく、次いで金沢区、港南区であった。

図表 2-1-45 18 区別・区域区別の 10 m²以上の緑被地の面積及び緑被率

区名	市街化区域					市街化調整区域						
	区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)				区面積 (ha)	緑被地面積 (ha)					
		樹木	農地	草本	合計		樹木	農地	草本	合計		
鶴見区	3,120	378	10	132	520	16.7%	130	20	6	35	26.6%	
神奈川区	1,930	269	13	64	346	17.9%	430	104	152	25	281	65.3%
西区	700	79	0	22	101	14.4%	-	-	-	-	-	-
中区	2,150	283	0	78	361	16.8%	-	-	-	-	-	-
南区	1,260	206	2	38	246	19.5%	10	3	0	0	3	32.0%
港南区	1,890	363	14	92	468	24.8%	100	47	16	14	77	77.3%
保土ヶ谷区	1,720	350	21	92	462	26.9%	470	198	63	60	321	68.2%
旭区	2,060	383	23	84	490	23.8%	1,220	527	169	156	852	69.8%
磯子区	1,680	259	2	101	362	21.5%	230	143	13	38	194	84.4%
金沢区	2,600	570	6	109	684	26.3%	470	337	14	31	382	81.3%
港北区	2,480	435	36	81	552	22.3%	660	135	128	115	378	57.2%
緑区	1,520	266	27	82	375	24.7%	1,020	467	233	82	781	76.6%
青葉区	2,610	497	36	117	650	24.9%	910	336	220	72	628	69.0%
都筑区	1,930	362	31	78	470	24.4%	860	198	248	61	506	58.9%
戸塚区	2,340	425	24	105	554	23.7%	1,240	508	190	176	874	70.5%
栄区	1,330	276	17	86	380	28.6%	530	308	37	61	406	76.6%
泉区	1,260	184	23	54	261	20.7%	1,090	216	320	168	704	64.6%
瀬谷区	1,190	181	33	52	266	22.3%	530	121	199	69	389	73.4%

※区面積は、令和5年度末時点の値（出典：第103回横浜市統計書）

※数値の単位未満は四捨五入し表示しているため、内訳を積み上げた数値は合計の数値と一致しない場合がある。

出所：アジア航測株式会社が作成

ウ 緑被分布図の作成

整備した 10 m²以上の緑被地 GIS データを用いて、樹木・草本・農地の分布を表示した緑被分布図を作成した。図表 2-1-47～図表 2-1-64 に示す。

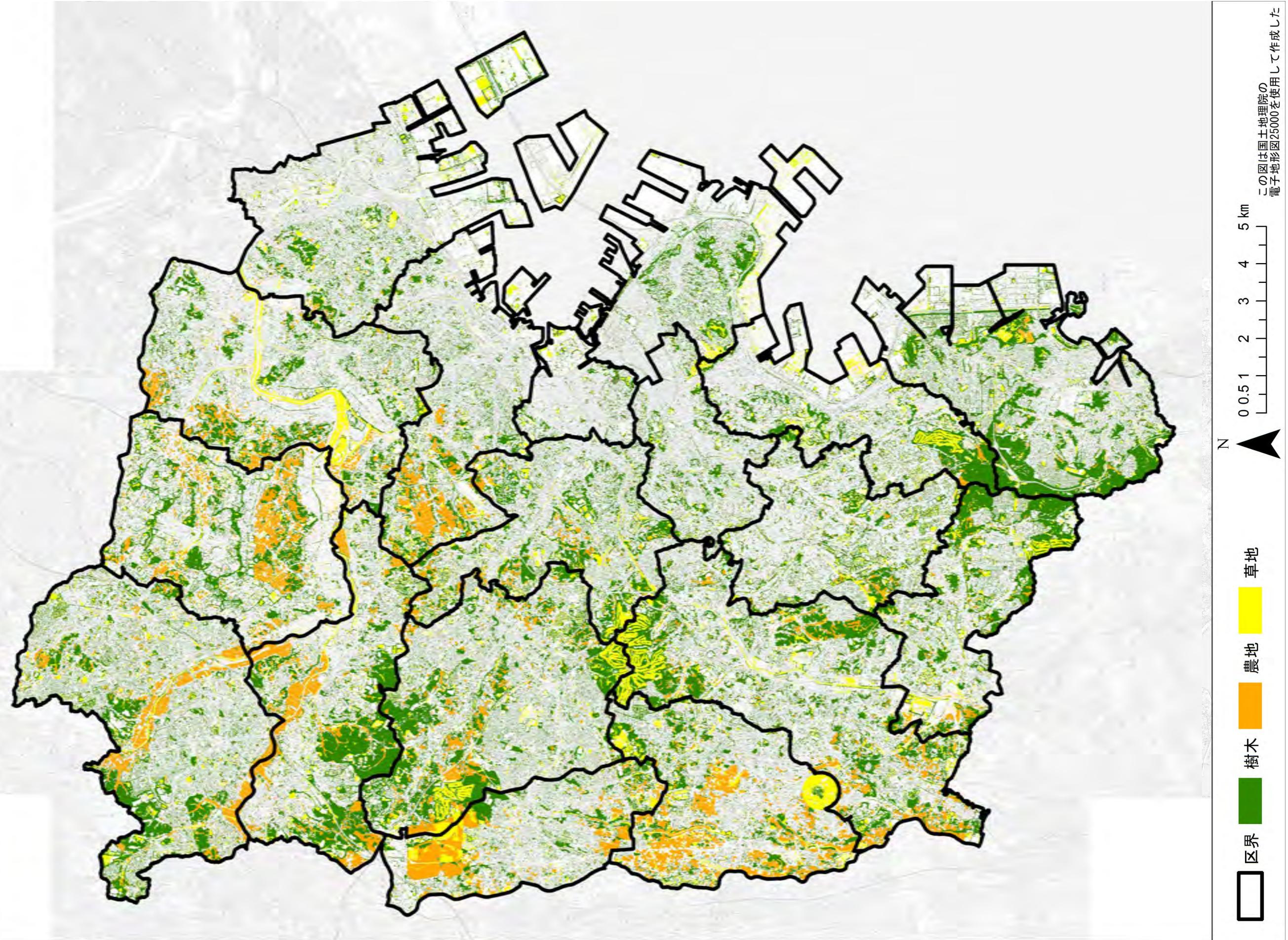
図表 2-1-46 緑被地分布図一覧

図番号	緑被分布図の範囲
図表 2-1-47	市全域
図表 2-1-48	鶴見区
図表 2-1-49	神奈川区
図表 2-1-50	西区・南区
図表 2-1-51	中区
図表 2-1-52	港南区
図表 2-1-53	保土ヶ谷区
図表 2-1-54	旭区
図表 2-1-55	磯子区
図表 2-1-56	金沢区
図表 2-1-57	港北区
図表 2-1-58	緑区
図表 2-1-59	青葉区
図表 2-1-60	都筑区
図表 2-1-61	戸塚区
図表 2-1-62	栄区
図表 2-1-63	泉区
図表 2-1-64	瀬谷区

出所：アジア航測株式会社が作成

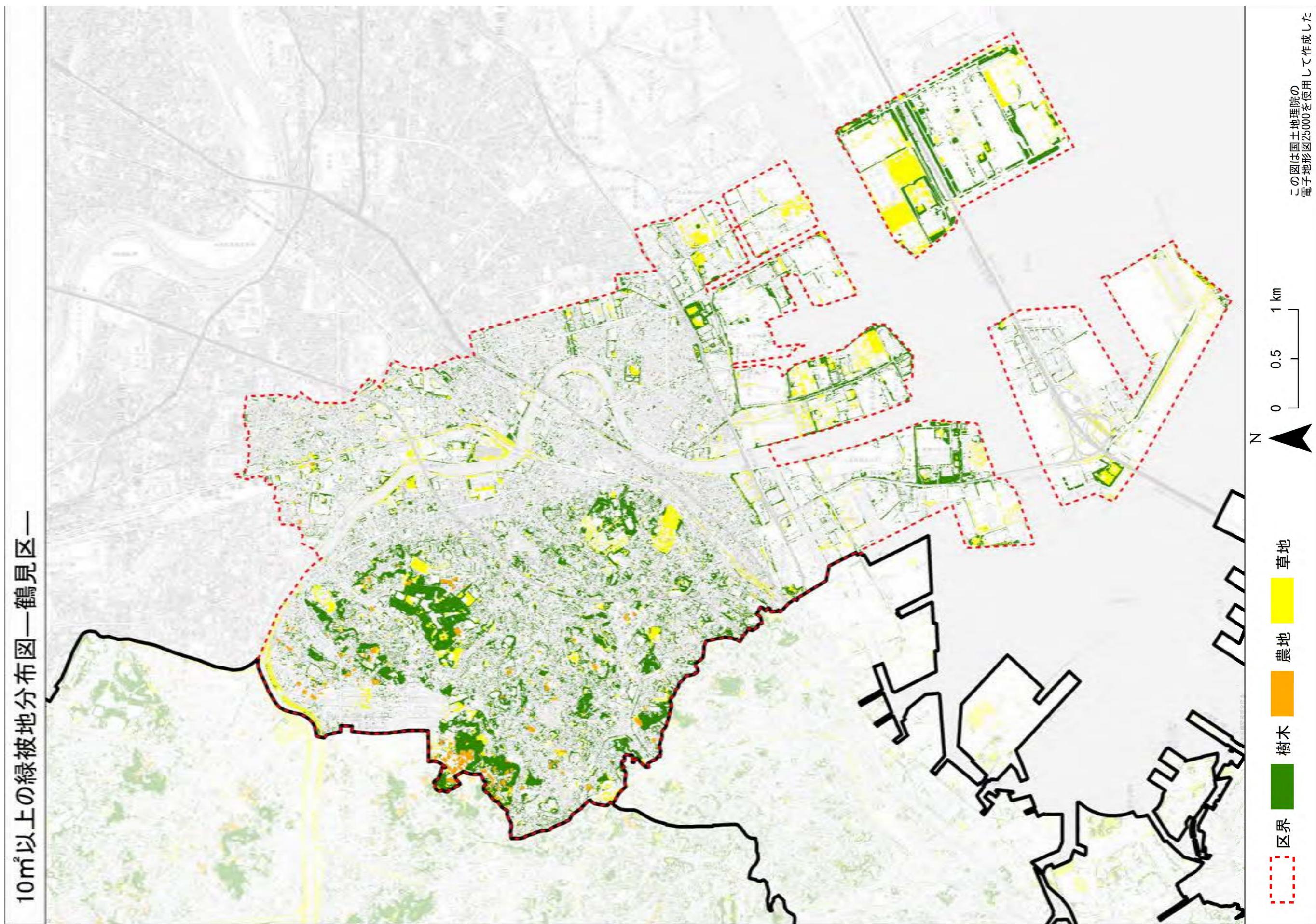
10m²以上の緑被地分布図—市全域—

図表 2-1-47 市全域の緑被地分布図



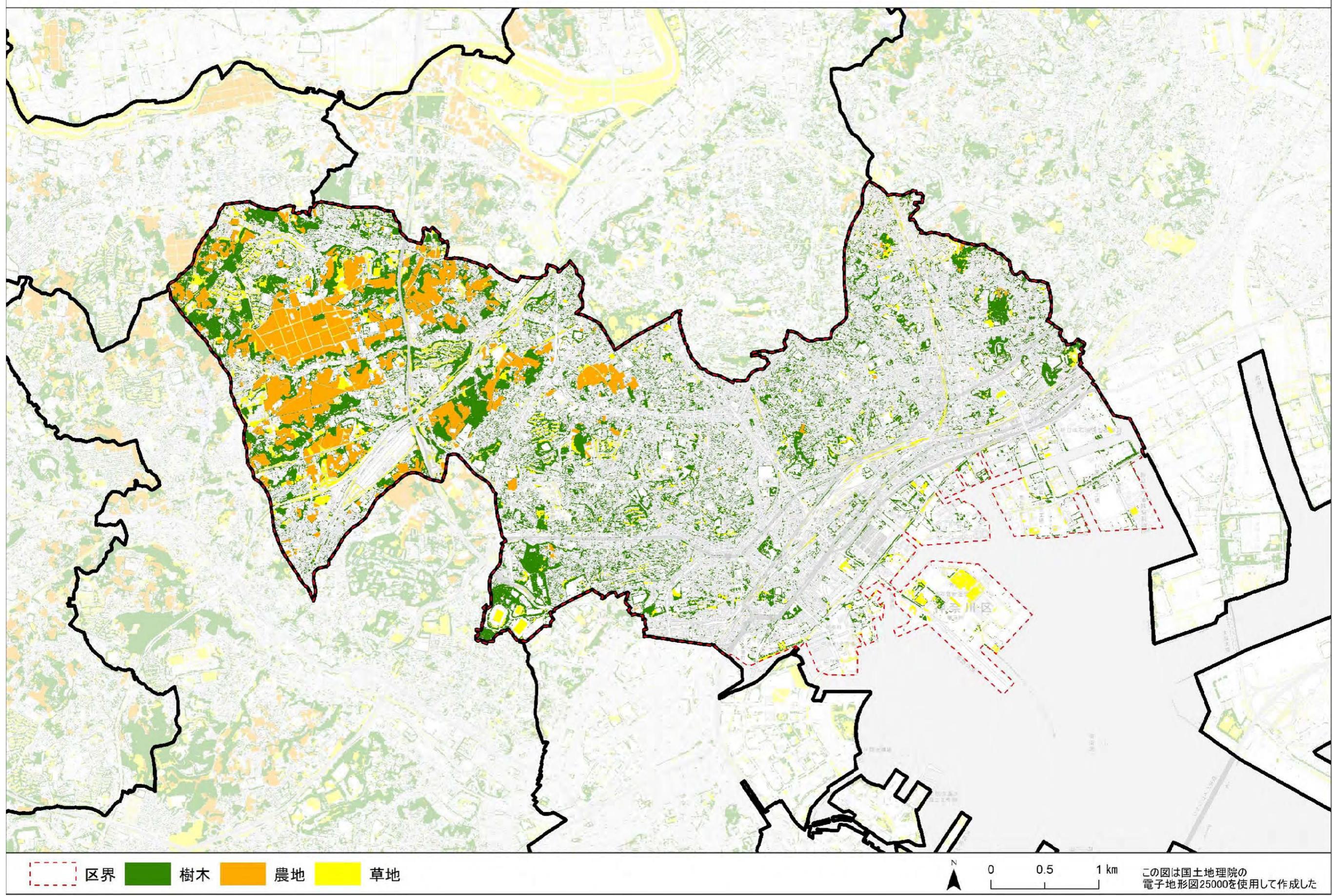
10m²以上の緑被地分布図—鶴見区—

図表 2-1-48 鶴見区の緑被地分布図



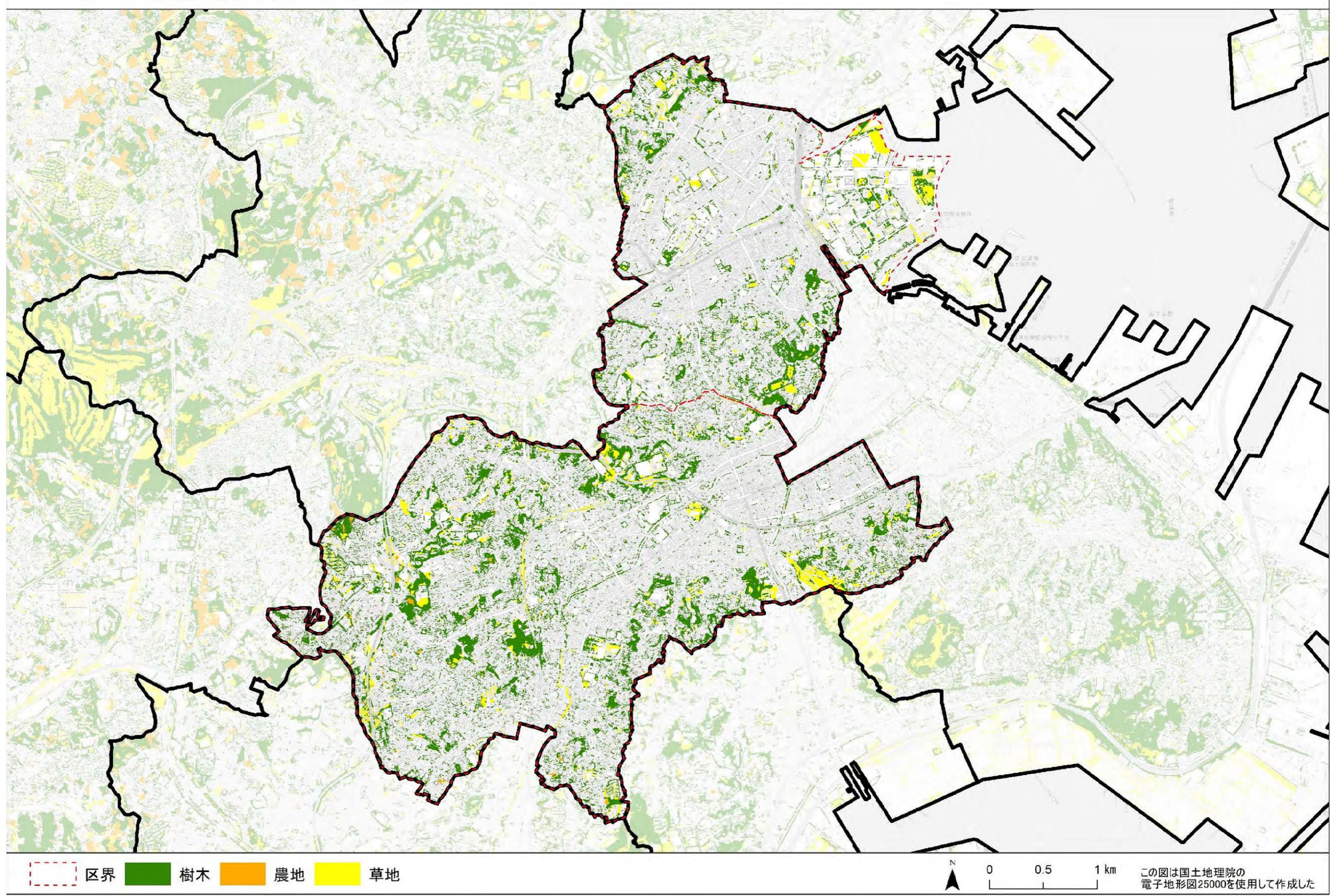
図表 2-1-49 神奈川区の緑被地分布図

10m²以上の緑被地分布図—神奈川区—



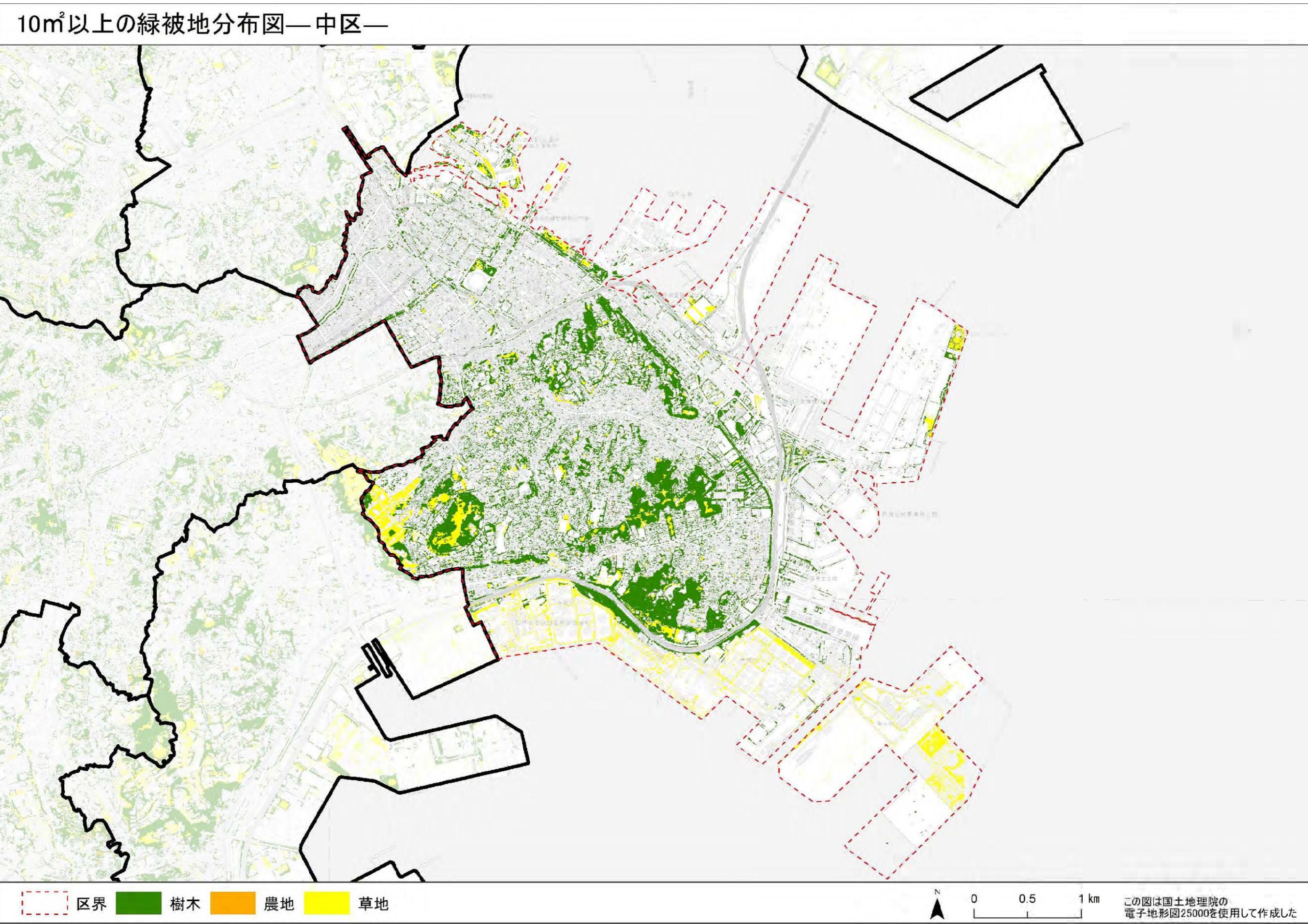
図表 2-1-50 西・南区の緑被地分布図

10m²以上の緑被地分布図—西区・南区—



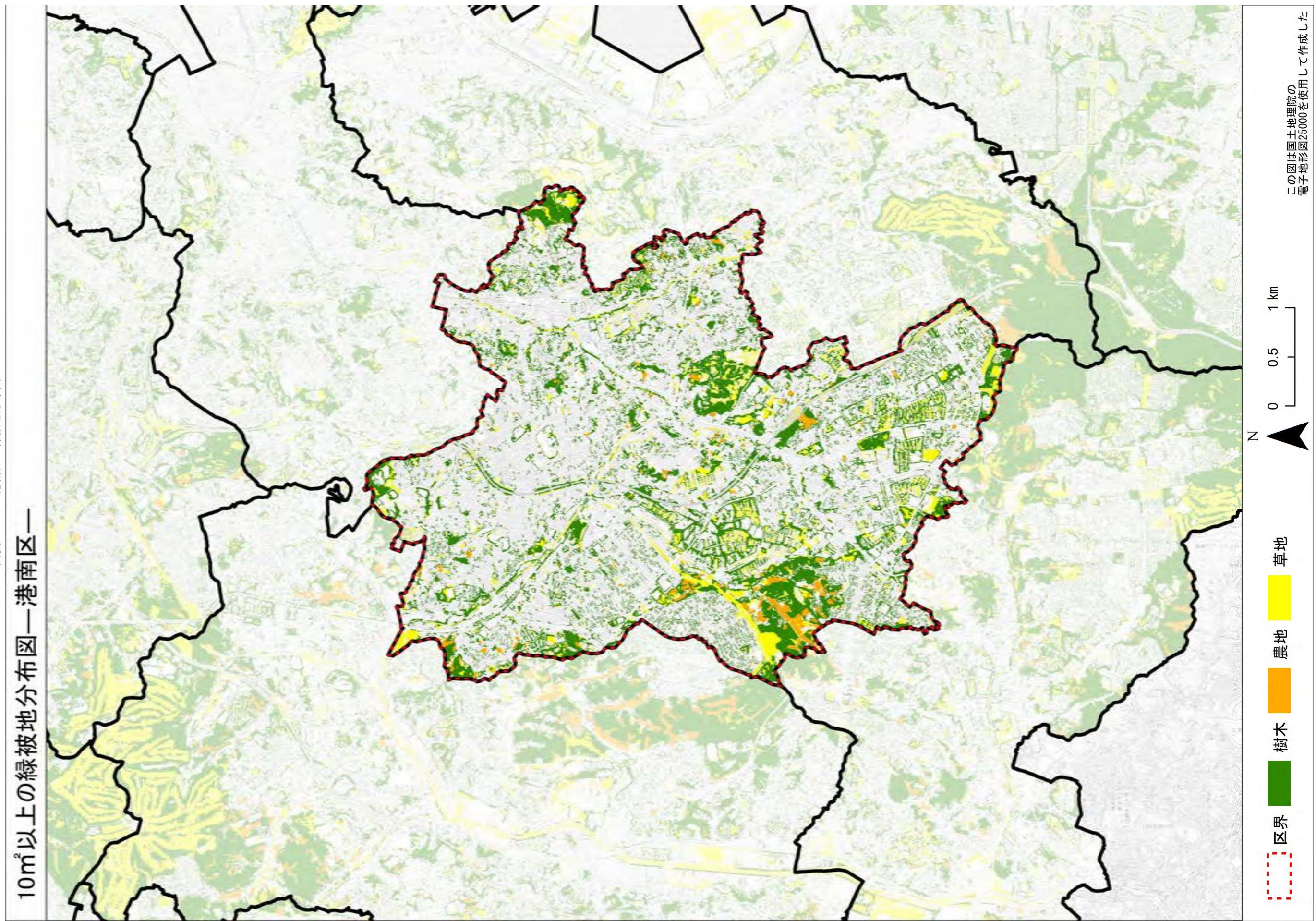
出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-51 中区の緑被地分布図



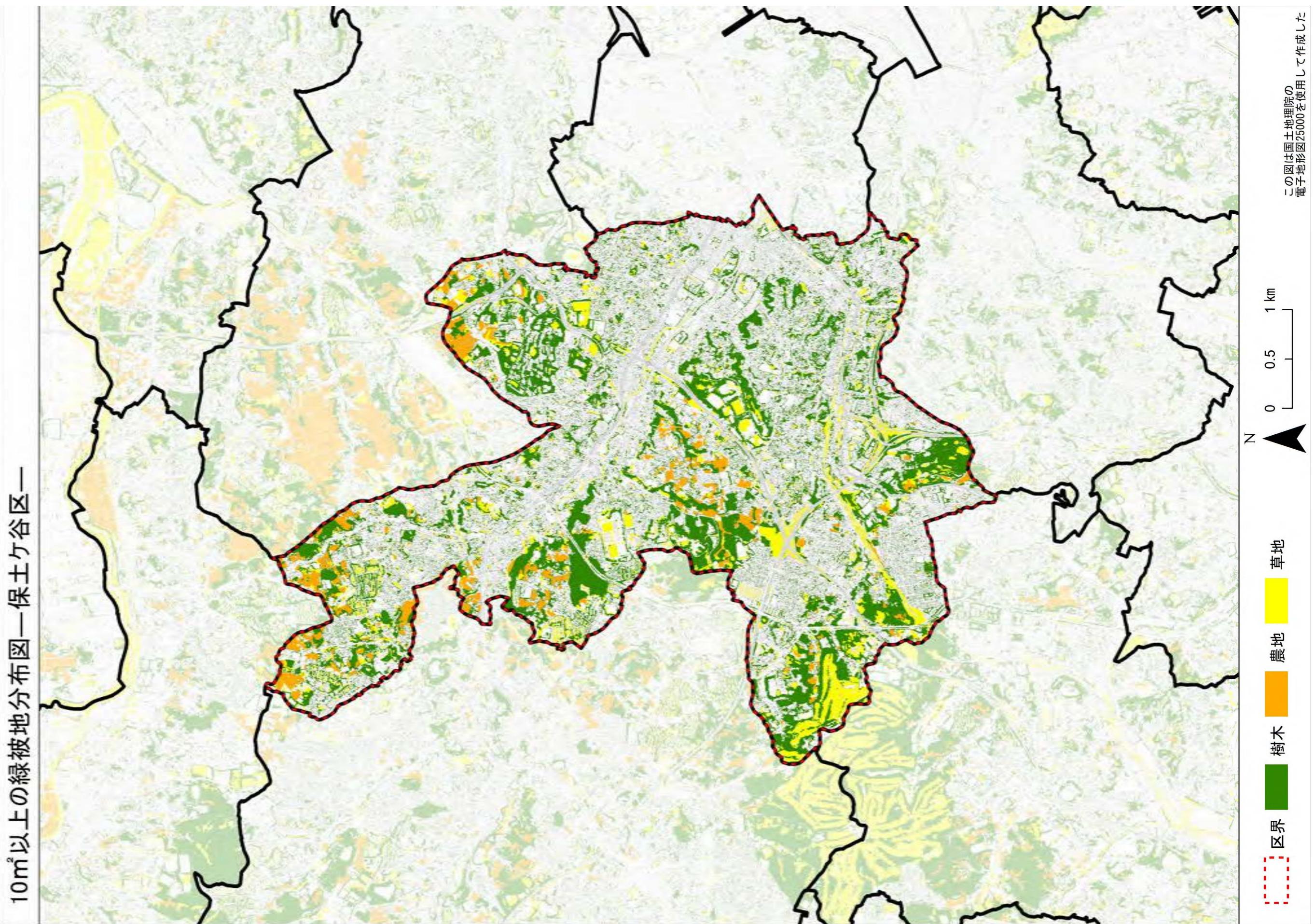
10m²以上の緑被地分布図—港南区—

図表 2-1-52 港南区の緑被地分布図



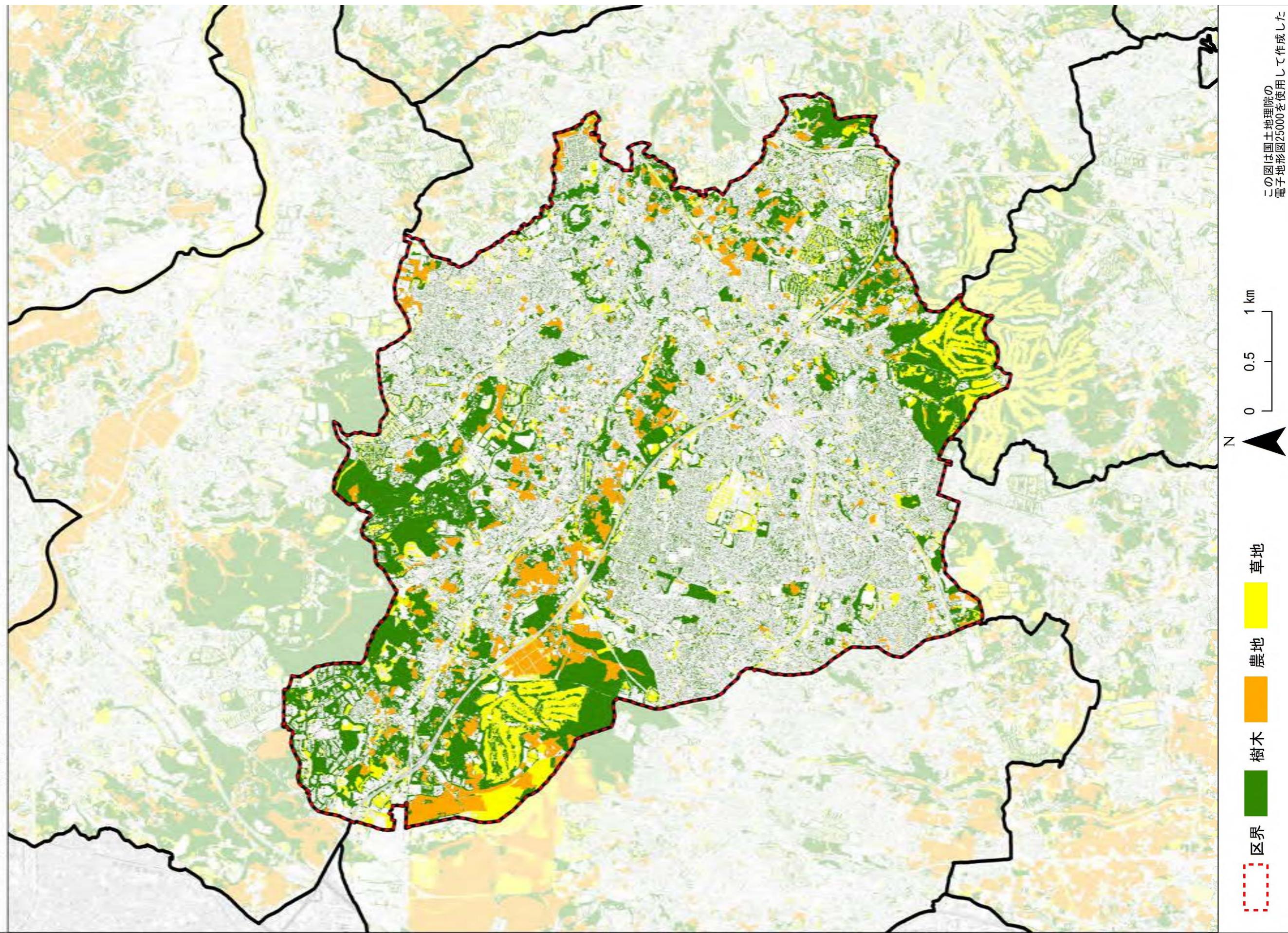
出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-53 保土ヶ谷区の緑被地分布図



図表 2-1-54 旭区の緑被地分布図

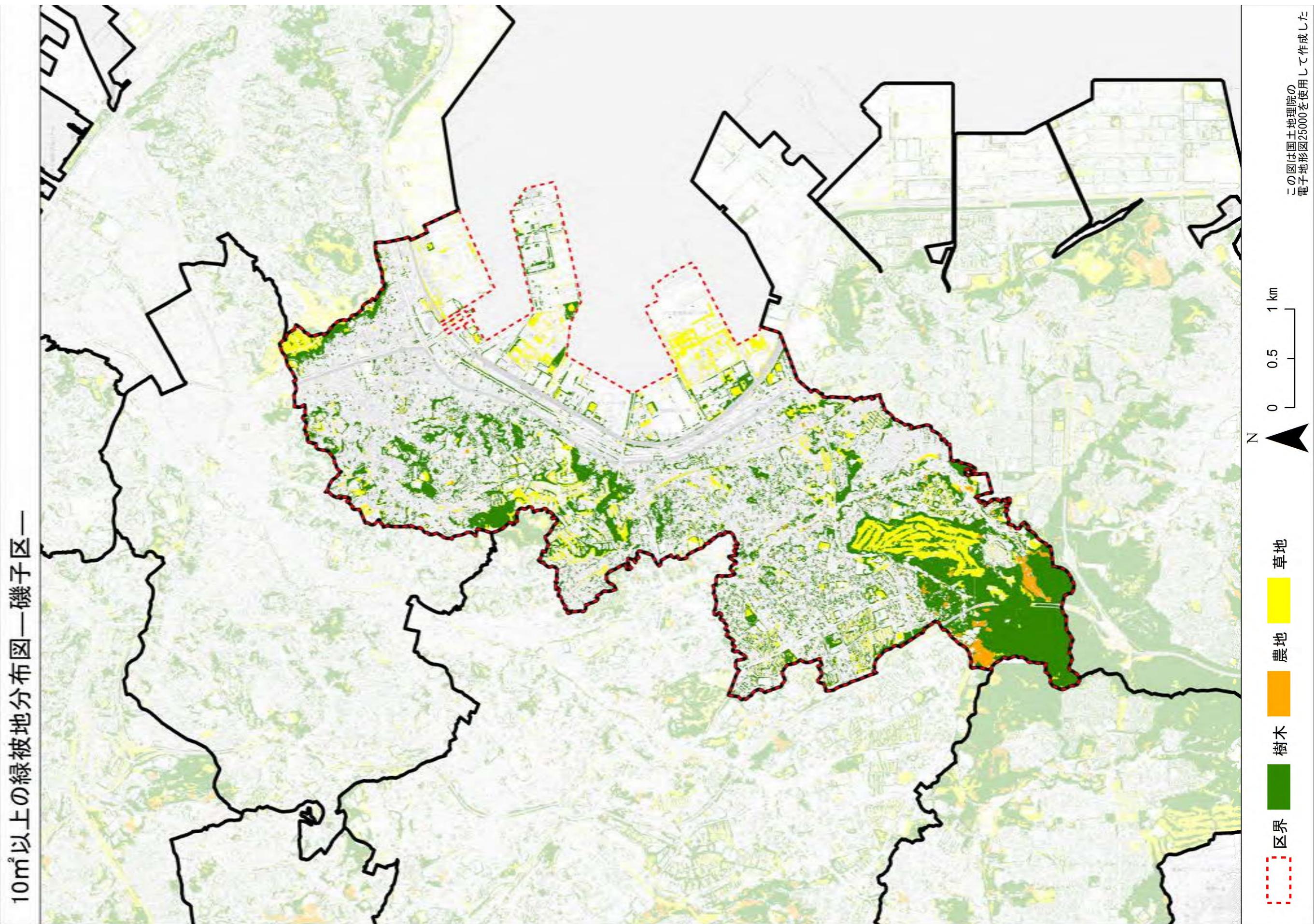
10m²以上の緑被地分布図—旭区—



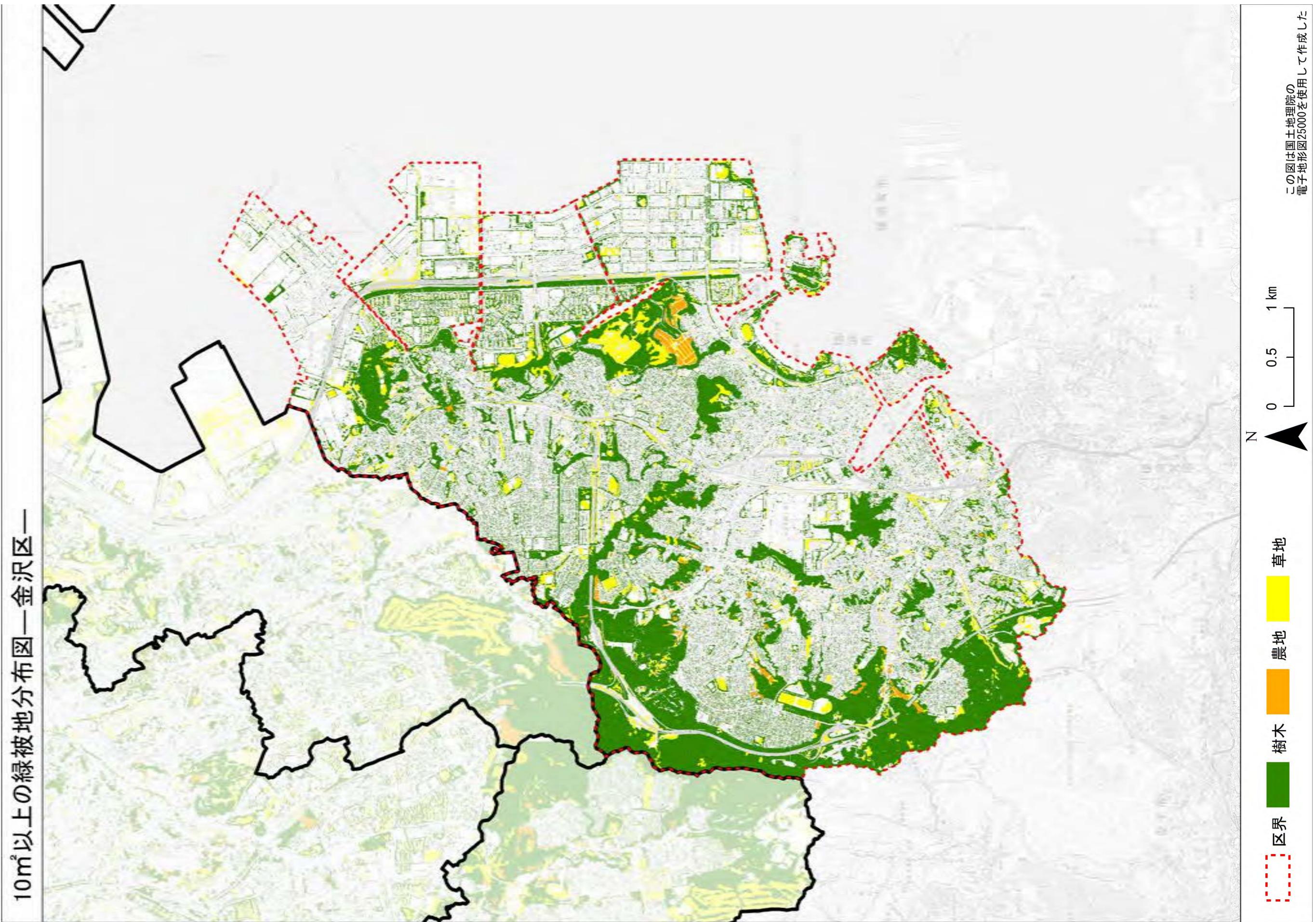
出所：アジア航測株式会社が作成

この図は国土地理院の電子地形図25000を使用して作成した

図表 2-1-55 磯子区の緑被地分布図

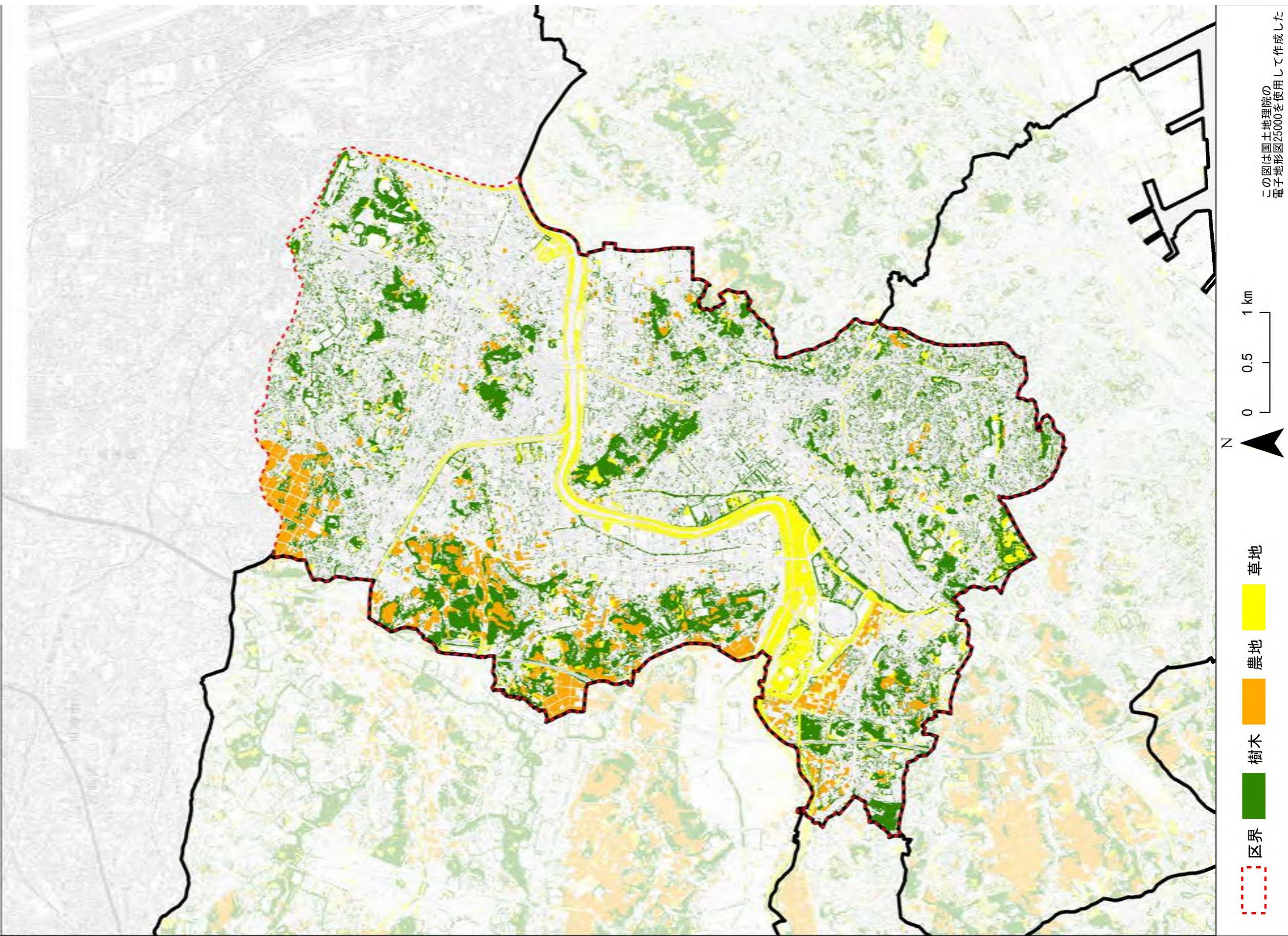


図表 2-1-56 金沢区の緑被地分布図



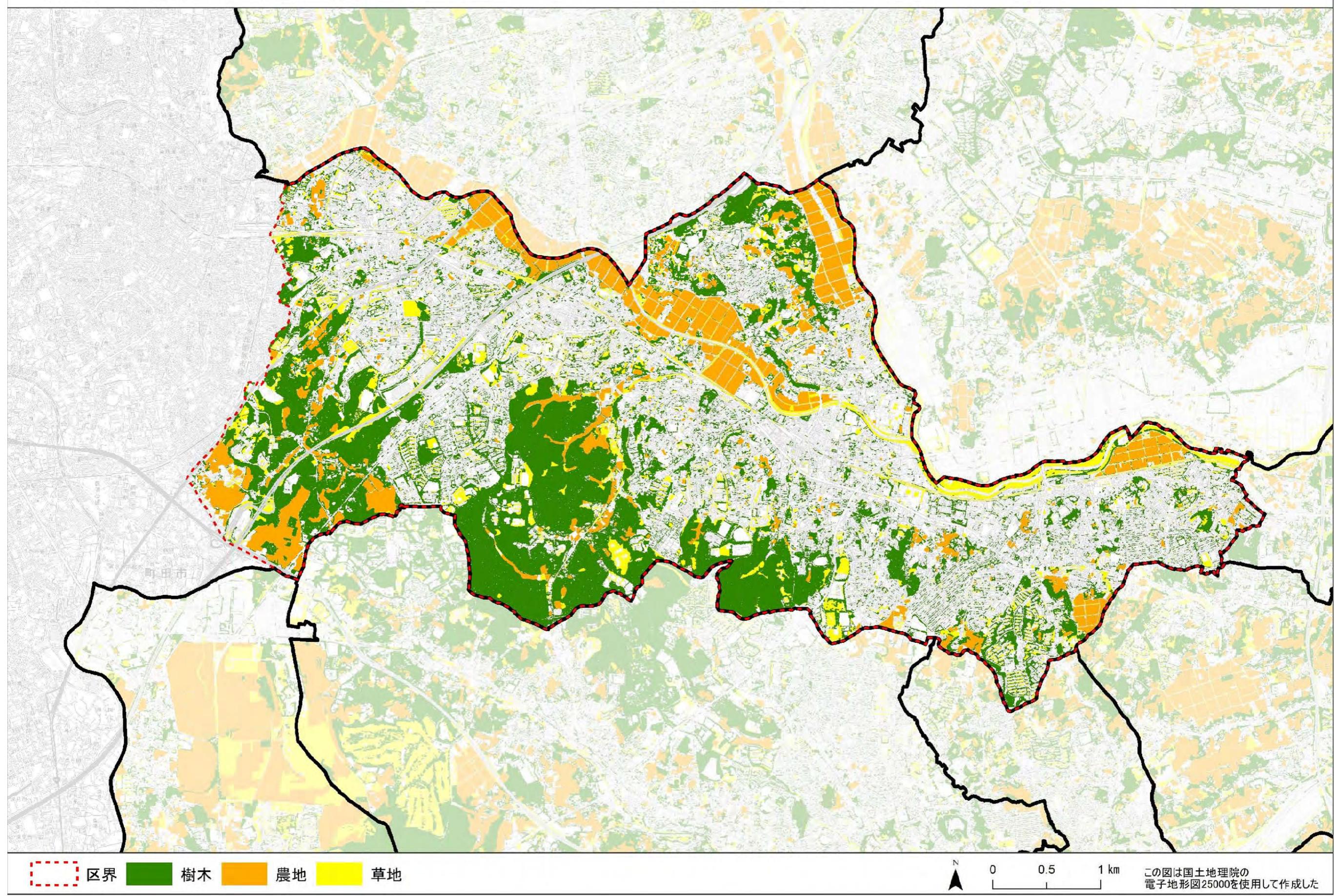
10m²以上の緑被地分布図—港北区—

図表 2-1-57 港北区の緑被地分布図



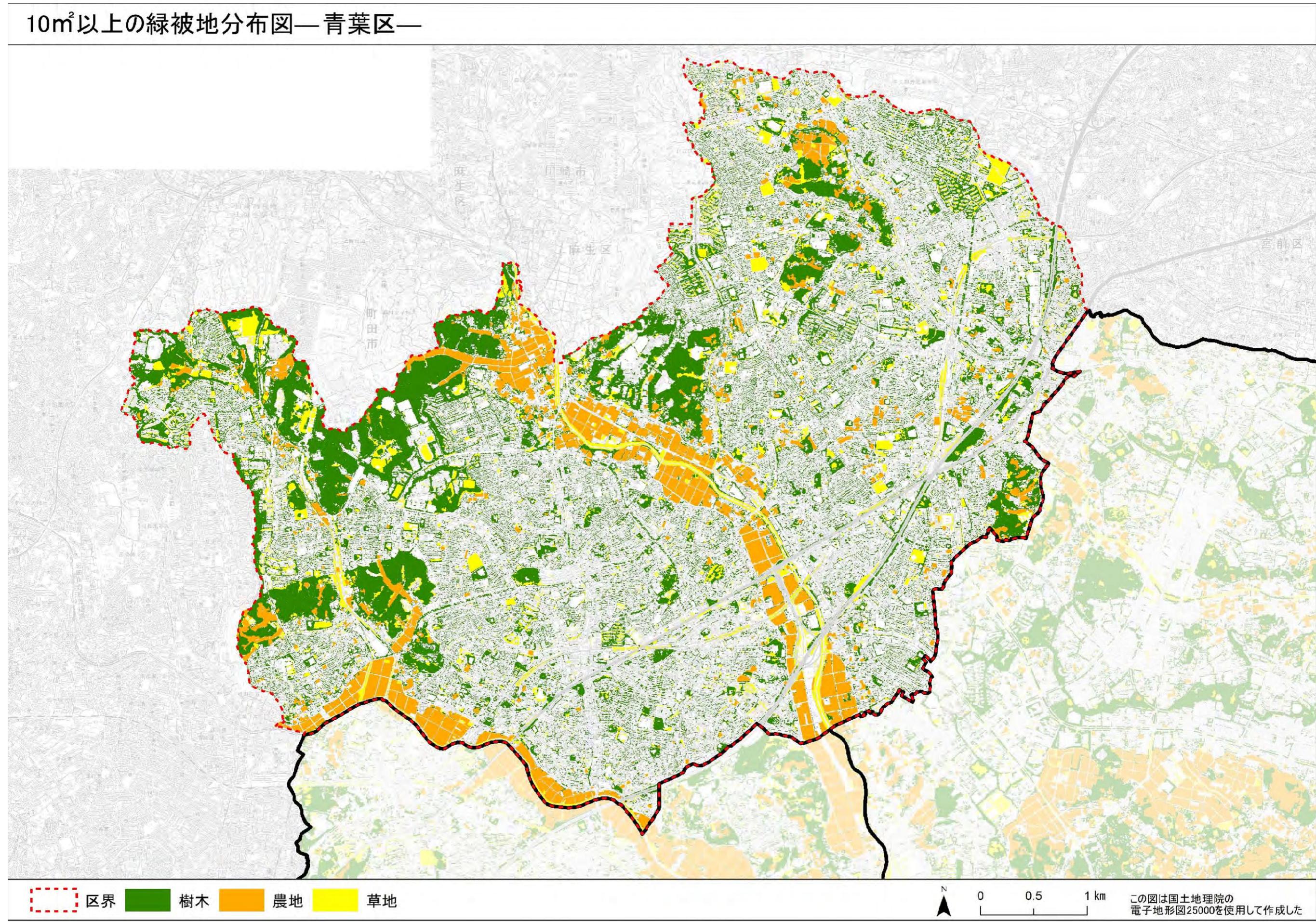
図表 2-1-58 緑区の緑被地分布図

10m²以上の緑被地分布図—緑区—



図表 2-1-59 青葉区の緑被地分布図

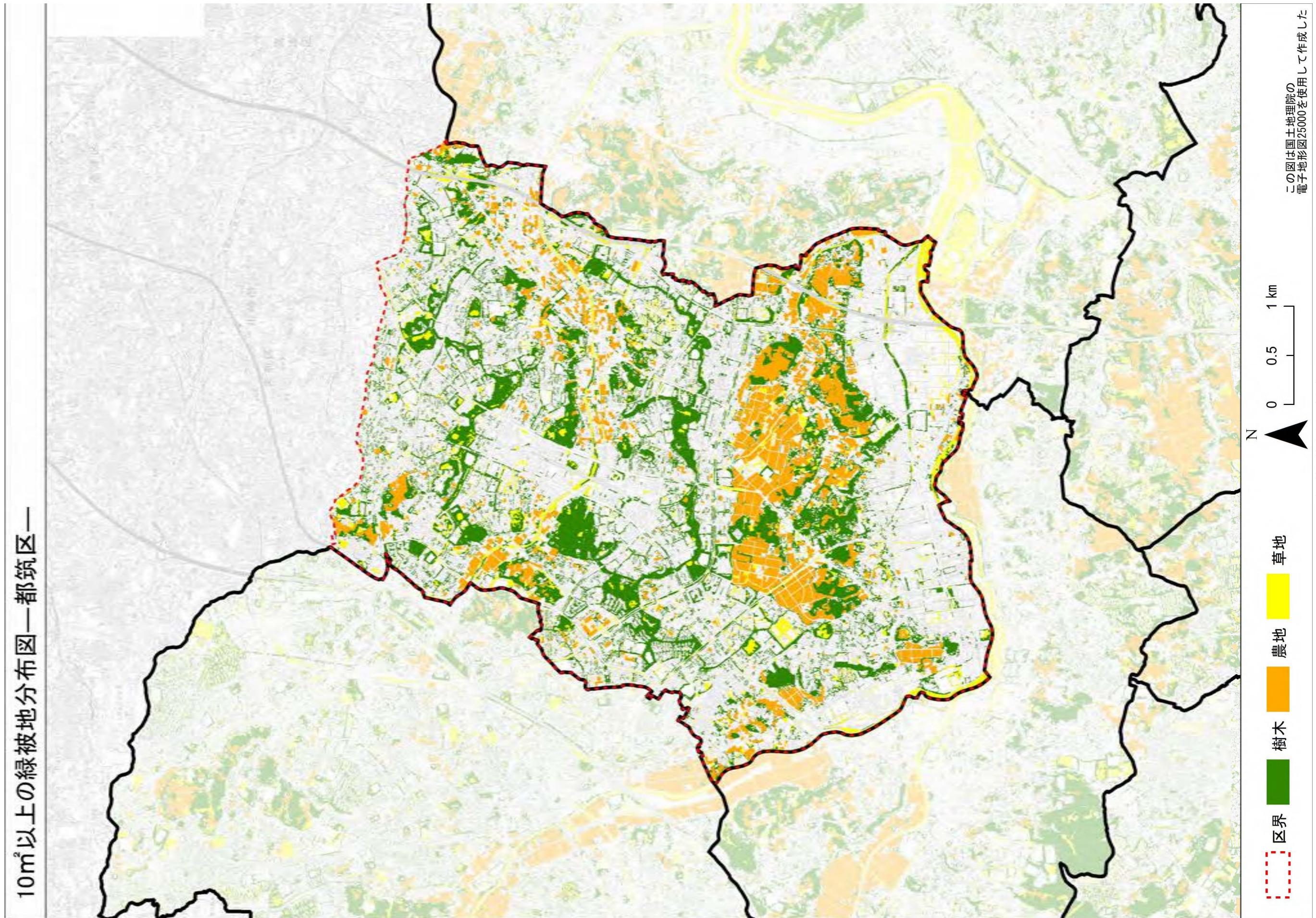
10m²以上の緑被地分布図—青葉区—



出所：アジア航測株式会社が作成

10m²以上の緑被地分布図—都筑区—

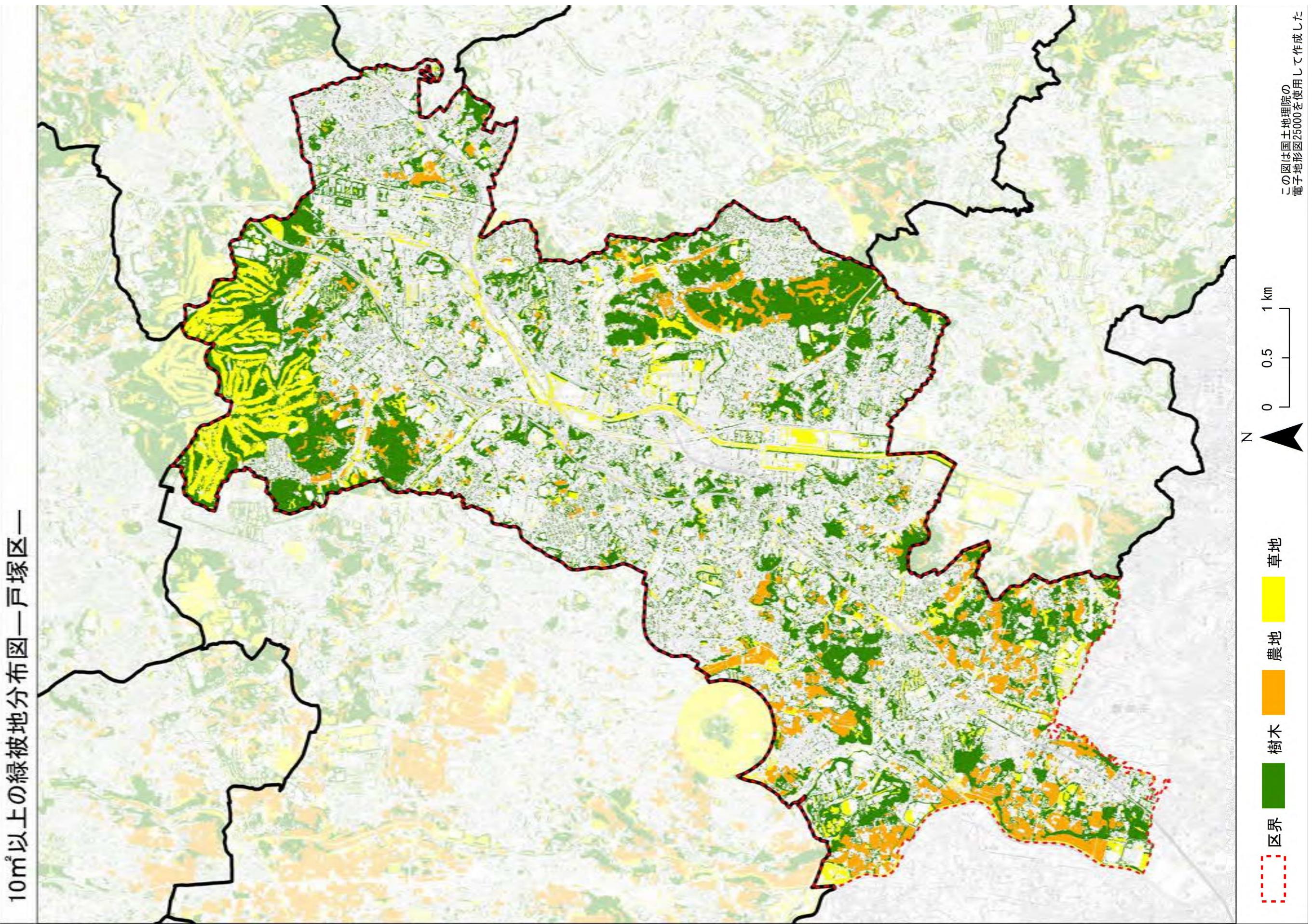
图表 2-1-60 都筑区の緑被地分布図



出所：アジア航測株式会社が作成

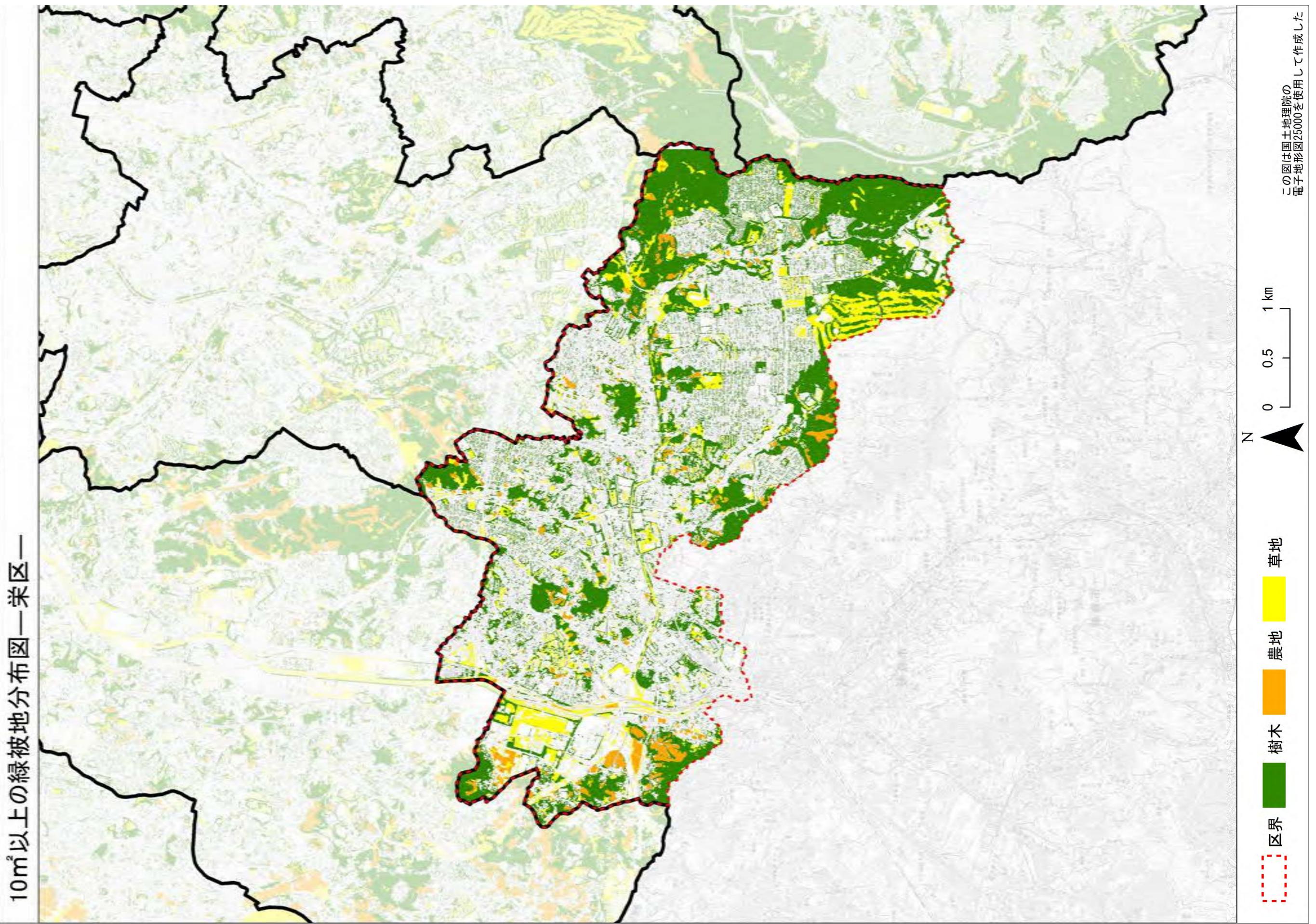
この図は国土地理院の電子地形図25000を使用して作成した

図表 2-1-61 戸塚区の緑被地分布図

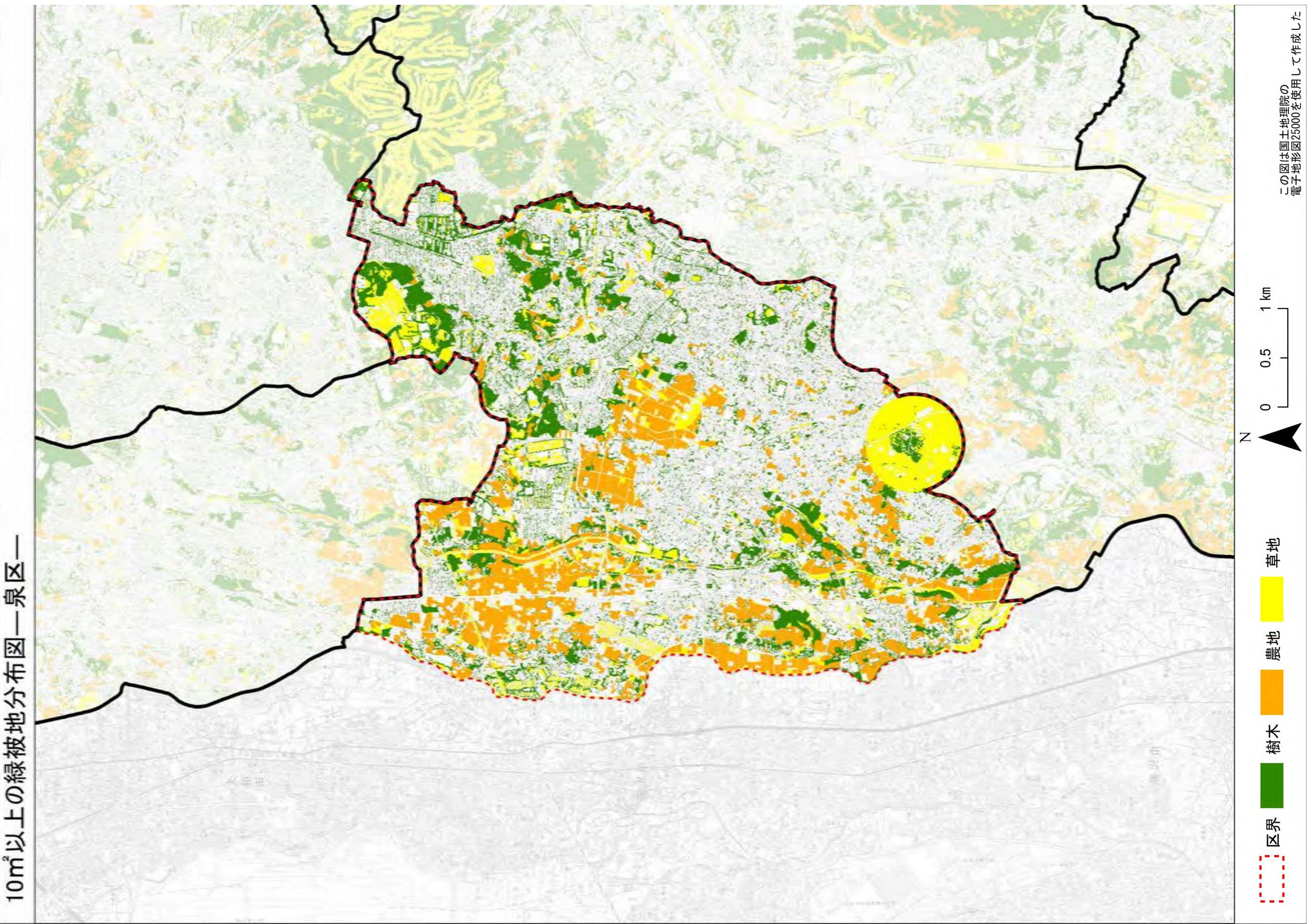


出所：アジア航測株式会社が作成

図表 2-1-62 神奈川県の緑被地分布図

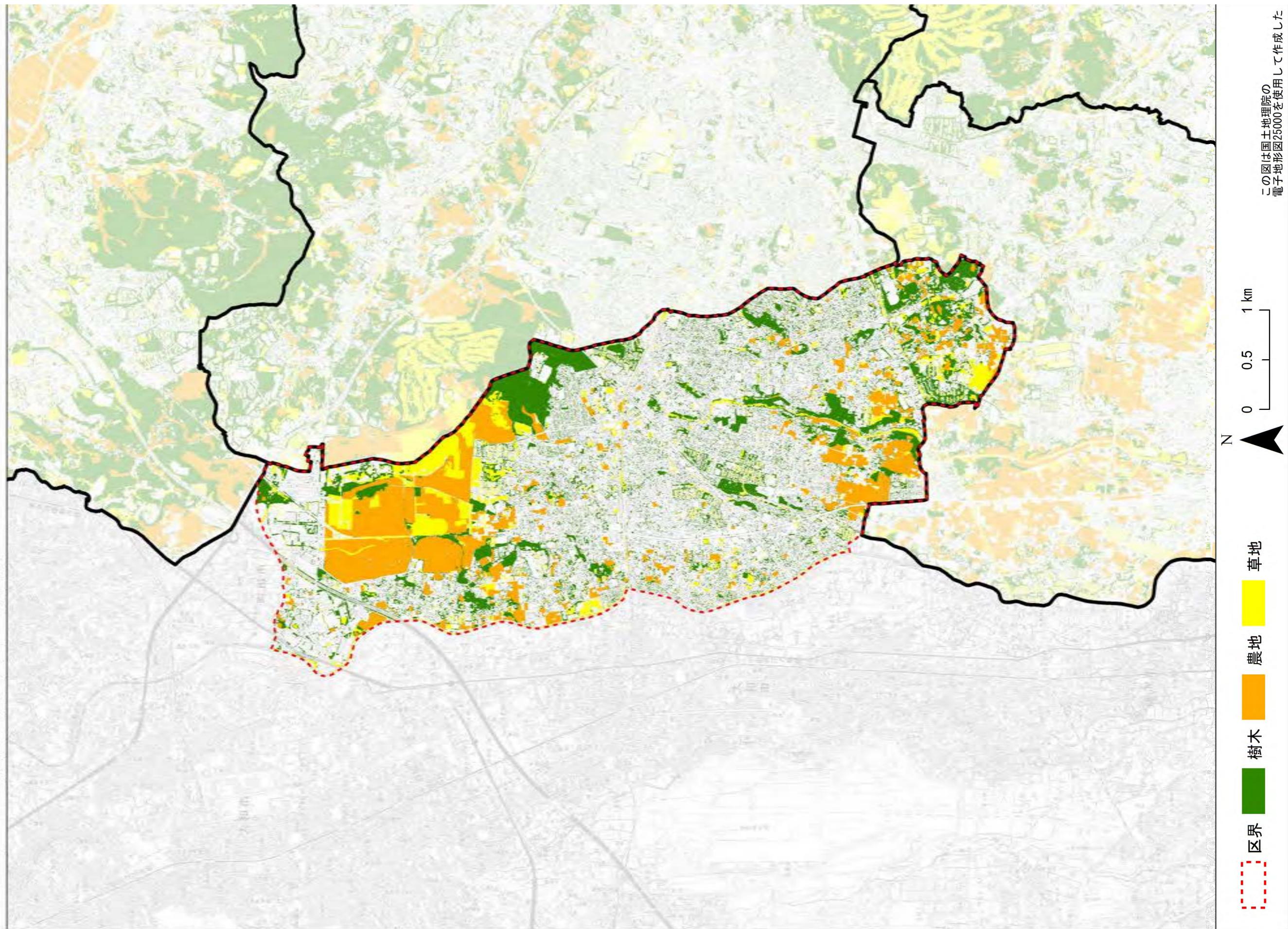


図表 2-1-63 泉区の緑被地分布図



10m²以上の緑被地分布図—瀬谷区—

图表 2-1-64 瀬谷区の緑被地分布図



出所：アジア航測株式会社が作成

この図は国土地理院の
電子地形図25000を使用して作成した

